

平成21年12月9日

1. 出席議員

議長	杉原豊喜	副議長	牟田勝浩
1番	上田雄一	2番	浦泰孝
3番	山口裕子	4番	松尾陽輔
5番	大河内智	6番	宮本栄八
7番	古川盛義	8番	上野淑子
9番	山口良広	10番	吉川里巳
11番	山崎鉄好	12番	末藤正幸
13番	前田法弘	14番	小柳義和
15番	石橋敏伸	16番	樋渡博徳
17番	小池一哉	18番	大渡幸雄
19番	山口昌宏	20番	松尾初秋
21番	吉原武藤	22番	平野邦夫
23番	江原一雄	26番	川原千秋
27番	高木佐一郎	28番	富永起雄
29番	黒岩幸生	30番	谷口攝久

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	末次隆裕
次長	筒井孝一
議事係長	川久保和幸
議事係員	森正文

4. 地方自治法第121条により出席した者

市			長	樋	渡	啓	祐
副		市	長	古	賀		滋
教		育	長	浦	郷		究
政	策	部	長	大	庭	健	三
政	策	部	事	角			眞
営	業	部	長	前	田	敏	美
営	業	部	事	伊	藤	元	康
く	ら	し	長	國	井	雅	裕
こ	ど	も	長	藤	崎	勝	行
ま	ち	づ	長	松	尾		定
山	内	支	長	牟	田	泰	範
北	方	支	長	岩	永		浄
会	計	管	者	馬	渡	公	子
教	育	部	長	浦	郷	政	紹
水	道	部	長	宮	下	正	博
市	民	病	長	古	賀	雅	章
総	務	課	長	山	田	義	利
財	政	課	長	中	野	博	之
企	画	課	長	橋	口	正	紀

議 事 日 程 第 3 号

12月9日（水）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成21年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
6	26 川 原 千 秋	1. 行財政改革について 1)本市の財政状況について 2)アウトソーシングについて 3)市税などの収納率について
7	4 松 尾 陽 輔	1. 景気低迷－武雄市の現状と対策は－ 1)税収と事業仕分け 2)雇用と企業誘致 2. がん予防“日本一”武雄の今後の計画は 1)検診率向上とがん教育 2)子宮頸がんワクチンの無料接種を 3. 事業の継続と提案 1)学校サポート支援事業と通学路の安全対策事業 2)空き家の撤去事業
8	23 江 原 一 雄	1. 市長の政治姿勢について 2. 市民病院について 3. 人事について 4. 農政について 5. 支所存続について
9	21 吉 原 武 藤	1. 環境問題について 1)市内河川の水質保全対策 2)太陽光発電システム 2. 災害対策について 1)河川・橋梁 3. 市内公共施設の駐車場について 4. 市営住宅について
10	9 山 口 良 広	1. 農業問題について 1)水田農業の未来のために今カントリー建設の声をあげるべきではないか。 2)農畜産物の販売力強化について

順番	議員名	質問要旨
10	9 山口良広	2. 食育政策について 1) 佐賀県食育大会と武雄市の取り組みについて 2) 子ども農山漁村交流プロジェクトについて 3) 体験型農業は武雄市の新しい観光にならないか 3. 情報の集中管理と発信について 4. 人口増加対策について 5. 道路政策について 1) 市道高橋沖永線の一方通行解除について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程第 1 一般質問

市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は9番山口良広議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、26番川原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、川原千秋の一般質問を始めさせていただきます。

けさのテレビを見ておりましたら、09年度の国債の発行額が53.5兆円ということで、戦後63年ぶりに税収を上回ったというような報道もなされていたわけでございます。そういうことで、国の財政も大変厳しいという状況が報道されていたわけでございます。

今回は行財政改革についてお伺いをしていきたいと、このように思っております。

昨年の経済状況を見ますと、アメリカで起こったサブプライム住宅ローン、この問題に端を発しました金融不安が昨年9月のアメリカにおける大手金融機関の経営破綻によりさらに加速し、世界経済は100年に一度とも言われる経済危機に見舞われたことは既に御案内のとおりでございます。

我が国におきましても、昨年来、企業業績を初め、景気や雇用情勢が急速に悪化をし、多くの国民が生活の不安を抱え、将来の見通しも立てられない状況が続いているわけでございます。このような中、佐賀県におきましても、行政改革緊急プログラムに基づき財政健全化の取り組みを進めているわけでございますが、収支の見通しは依然として大変厳しく、何か

対策を講じなければ、3年後の2012年には基金が底をつき、年間80億円の財政不足が生じ、予算が組めない状況となって、また、新政権のものと暫定税率の廃止など、地方財政にかかわる制度がこれからどう変わるかも不透明で、今後の財政運営はこれまで以上に大変厳しいかじ取りが迫られるといった報道もなされてきたわけでございます。

本市におきましても厳しい財政状況であります、そういった中で、武雄市行政改革プランを策定し、平成18年から平成22年までの5年間の計画で7つの推進項目を掲げ、合併による行財政の効率化を初めとするあらゆる分野での行財政改革を推進してこられたわけですが、本市のこれまでの行財政改革の進捗状況はどうか、まず、それについてお伺いをいたしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

おはようございます。それでは、お答えいたします。

まず、御質問の行革プランの中の健全な財政運営の推進、これはどういう状況になっているかということでお答えさせていただきたいと思っております。

現在の財政運営の推進につきましては、20項目を掲げてきております。その中で、完了したのが1項目、現在進行中という判断をしていますのが15項目、検討中が1項目、未実施が3項目となっております。

進行中の項目につきましては、目標に近づいている状況にあるというふうに判断をしておりますけれども、未実施の項目については、早急に着手していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

武雄市の行政改革プランというのも5年の期間を半分ぐらい過ぎたわけですが、策定当初からすると経済状況が今大変低迷をしているところでございますが、また、先ほど申しましたように、企業業績を初めとする、そういう景気や雇用情勢が急速に悪化をしているというような状況でございます。そういうことで、多くの市民も生活に不安を感じていると。そういった中で、今、行財政の改革ということで目標を掲げられて推し進めておられるわけですが、このような厳しい状況の中でございますので、市民にとって大きな負担というものも出てくるのではないかと、そのように思うわけでございます。

一応目標は目標でございますが、現在の進捗状況等を見ましても、進行中が15というぐらいで、そうさほど早い進行じゃないとも思いますけど、こういったことを踏まえて、いろいろな予算を市民の生活に回すというようなことも大変重要なことだというふうに思いますの

で、来年度の予算編成に当たり、本市の行財政改革に取り組む基本的な方針について、市長の所信をお伺いいたしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、今までの行革の私どもの評価といたしましては、基本的な数字は目標と大体近うございます。例えば、実質公債費比率、これは実際の借金の比率になりますけれども、目標の15%以下が平成20年度実績で15.4%、これはほぼクリアしている。経常収支比率につきましても、目標90%以下が実績として92.4%、これは20年度でありますので、事務方が努力をして粛々と無駄の排除、あるいはさまざまな投資効果を考えてやってもらっているというふうに思っております。

それでは、今後でありますけれども、私としては、行革で浮いた予算というのは市民の福祉の維持向上に振り向けたいと思っております。そうしないと、行革、行革と言うと社会に夢が持てなくなる、私はそう思っておりますので、3歩進むのもいいですけども、2歩下がるという勇気が必要。それが私は市民の福祉の維持向上につながるように、市民目線で、温かい目線でこの行政改革を進めていきたいというふうに思っております。

選択と集中はもちろん行いますけれども、これは議員の、とりわけ市民の代表である議会の意見をよく聞きながら予算編成にも取り組んで、また議会でそういった意味での前向きな議論を期待するところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

今、本当に武雄市の財政といいますか、そういう指数という部分で見れば本当によくやっておられると思います。経常収支比率あたりでも年々下がってきておりますし、公債費比率、これもよくなっております。ただ、財政力指数というのが若干下回っているような状況だと思っております。

そして、今市長がおっしゃいますように、行革で余ったじゃないですけど、捻出できた予算、そういうのはぜひ弱者、市長も生活者第一ということをおっしゃっておりますので、ぜひそういう形で手当てをしていただきたいと、このように思っているところでございます。

じゃ次に、武雄市の職員提案制度というのがございますが、これについてお伺いをしたいと思います。

まず、武雄市職員提案制度の目的についてお伺いをいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

おはようございます。職員提案制度の目的といたしましては、やはり通常やっている業務を常々見直していく、これが当然だと思っているのをもう一遍見直すと。それによって事務の効率化、経費の効率化を図っていくというのが職員提案制度の目的というふうには思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

目的はわかりましたが、これは平成18年度から実施をされているとは思いますが、これはまた武雄市行政改革プランの中にも職員の活性化と人材育成という部分で推進項目として掲げられているわけですが、現在、この制度、どのような活用がなされているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

18年度から始めまして、提案が全体で136件ございます。その中で、採用、実施したものが10件でございます。18年度から20年度までがさっきの数字でございますが、21年度につきましても、現在のところ提案件数は20件というふうになっております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

18年度から20年度の中で提案が136件、そのうち採用されたといえますか、それが10件ということでございます。

では、これまでどのような提案があつて、それを採用し、実施されたということですが、その点について少しお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

採用されたものについて一部御紹介申し上げますと、公共施設に置いております自販機、これについて地域貢献型にしたと。その売り上げの一部を地域貢献に活用するようなやり方にしたと。それから、封筒のネーミングライツ、公用車の一括管理等々でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

そしたら、こういう提案をなされたということで、これも提案をなされた方に対しての一つの人事効果、これに反映するというようになっておりますけど、そのあたりはどのようになっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

直接これをしたから階級を上げるというようなことは具体的にはございませんけれども、できるだけ企画と調整をしながら、そういった職員の頑張りについては評価をしながら人事異動に生かしているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

やはりこういう提案制度というのは、ある程度の提案をしていただいた職員に対しての何か手当ををするというようなことも必要じゃないかと思います。もちろんこれを引き出す方法としていろいろあるわけですが、そういう現実可能と思えるような提案については、もちろん前向きに検討されていると思います。

職員の提案に対するモチベーション、これを維持していくためには、これはやってあるかどうかわかりませんが、例えば、優秀な提案について、市長の表彰とか、こういったことを行い、そして、そういうことも提案者の履歴に残していくと。そういうことをやるのが提案制度をもっと引き出すことになろうかと思いますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

貴重な御指摘ありがとうございます。その御指摘につきましては、市長表彰等は既に着任のときから行ってございまして、私も公務員でありましたので、公務員の評価というのは、基本的には評判の部分というのが結構あります。こういった表彰を行うことによって、それは職員の中ではみんなわかるわけですね。あるいは市民にもわかる。そうすると、ああ、あの職員はいい企画をしているよねとか、市長賞もらったよねということで、それがおのずと一つの人事評価につながっていくということを私は思っております。それはとりもなおさず、半分私ごとになりますけれども、私が市長になる前に、やっぱり頑張っている職員、あるい

は優秀な職員というのは私の耳に届いておりました。そういうことで、これが周りの気持ちの醸成ですよ、自分のモチベーションもそうなんですけれども、そういうことにこの職員提案がつながるようにしなければいけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

今、やっていただいているということで本当に安心したわけですが、これは御紹介でございますが、京都市の部分でございます、職員提案制度。ここでは、もちろん創意工夫を促進するというので、業務改善、また能力向上を図るためということで、市民サービスの向上、また事務改善、技術改善等の分野ごとに職員から提案を募集するという制度をやっているそうでございますが、ただ、ここはまたおもしろいやり方で、優秀な提案についてはプレゼンテーション、発表会を行うというようなことをやっているそうでございます。これは市民も参加できるということで、そういうことをやりながら、また、さっき市長も表彰をやっているということでございますが、そういう中で、例えば、優秀賞とか、ずっとランクがあると思いますよね。ただ一番いいのだけをするんじゃなくて、そういう提案をしていただいた職員に対して、例えば、市長賞、優秀賞、また優良賞とか、入賞まで含めて、そういう形で表彰をするというようなことをやっぴらっしゃるわけでございます。

ですから、採用に行き着かなくても、よく頑張っているな、よく考えているなというようなものがあつたら、そういう部分も表彰の対象にさせていただきたいと、このように思うところですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のとおりだと思います。今までも市長賞であるとか副市長賞、部長賞を行ってござりまして、例えば、平成18年度で申し上げますと、市長賞はお一人でありました。これは先ほど部長答弁でありました公共施設に地域貢献自動販売機の設置。副市長賞は4件、計7名、これは封筒のネーミングライツであるとか中央公園の整備で出ておりましたので、これは副市長賞。それで、部長賞として17名、計15点になりますけれども、電話対応プレートの設置であるとか、職員提案の無期限化であるとか、今、市役所に子どもたちの絵を掲げてござりまして、絵ば見にこんね制度とか、そういうふうに出てござりますので、18年度全体でいうと20件、賞を出してござりますので、そういう意味でいうと、御指摘のことは既に行ってござります。

これは記憶するに、かなり佐賀新聞に大きく取り上げられたと記憶をしておりますので、ずっとやっていると取り上げられなくなりますので、またいろんなところで取り上げていた

だく、これがひいては職員のモチベーションにつながっていくようにまた工夫をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

はい、わかりました。いろいろ表彰をやっていらっしゃるって、いろいろな職員のそういう提案というのも出ているということで安心をしたわけでございます。とにかく職員の意識改革、職場の活性化、そういうものにつながると思いますので、ぜひまた今後もこの制度をうまく活用していただいて、本市の施策に反映をしていただきたいというふうに思うところでございます。

では次に、人件費についてお伺いをしたいと思います。

冒頭に申しましたように、近年の国、また地方においても大変厳しい財政状況であります。全国の自治体の多くが人件費の削減ということに取り組んでいるところでございますが、先ほど申しましたように、本市の財政力という部分で見ますと、依然として弱い状況ではないかと、このように思うところでございますが、平成19年度の決算で見ますと、財政力指数、これが類似団体の平均値という部分で0.65ということで、武雄市は0.49ということで大きく下回っているようでございます。このような中、本市も定員管理計画に基づき職員の削減や諸手当の見直し等を行い、職員の人件費の削減を進めていらっしゃると思うわけですが、現在の進捗状況についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

定員適正化計画によりますと、平成18年度から平成23年度までに63人を減という目標を掲げております。全体の453人に対して390人まで減らしていくという目標でございます。これに対しまして、21年4月までに42人の減となっております、進捗率は66.6%です。年度年度の目標に対しましては、21年度で9人先行しているような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

本武雄市の定員適正化計画、今、御答弁いただきましたけど、23年度、この計画の最終年度ですね、これには職員数が390名というような目標ということになっております。これは十分達成できる状況だと思っております。390名ですから、もうほぼできていますね。

これはいいわけですが、今後、国からのそういう地方交付税や国庫補助金、そ

ういったものの削減がまた続いていくものと思いますので、そういう意味で、本市を取り巻く環境は大変厳しい状況になってくる。そして、先ほど申しましたように、本市の財政力が若干弱いわけでございますので、これまでの合併に伴った優遇措置、これもあと五、六年ですかね、そういう部分でなくなってくる。そういったことを見ますと、そしてまた、高齢化というのがさらにこれから進んでいくわけでございます。そして、医療や福祉、そういった社会保障費の増大も見込まれる。そういった中で、本市としても国に頼らないというか、自立可能な行財政の確立を図っていくというのがこれから必要になってくると考えますが、そういう部分で本市として何か対策というのは講じられているのか、ちょっとグローバルですけど、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

今まで行政改革プランに基づいて実施したことについて、ちょっと御紹介申し上げて対策ということにかえさせていただきたいと思いますが、まず、わかき保育園の民営化、それから朝日保育所と朝日第二保育所を統合して、それを民営化したと。これが人件費の削減効果で、単年度で3,300万円ということでございます。それから、旧山内町にありましたへき地保育所を廃止いたしております。これにつきましては、人件費の削減効果は982万円。

それから、病院事業の健全経営化、いわゆる民営化でございますが、これにつきましては、病院職員が減っていくということと、それから固定資産税の増収が見込まれるということでございます。固定資産税の増収につきましては、9,000万円程度を予定いたしております。

それから、上下水道の健全経営化、これにつきましては、浄水場を整備すると。統合したりするということも含めましてやっております、これにつきましては、住民負担の均等化等々もございます。料金の統一等もございます。人件費、水道部の職員の削減等々もやっております。

それから、開発公社の経営健全化ということで、所有地、土地を積極的に売却して金利負担の軽減を図っておるところでございます。平成22年度、来年度につきましては、学校給食センターを民間委託するというので考えておまして、人件費の効果といたしましては、単年度で3,500万円というふうに見込んでおります。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さらに加えて、先ほど申し上げたように、浮いた予算を市民の福祉の維持向上につなげていくということと、もう1つが、私も地方自治体の長になって初めてわかったこともあ

りますけれども、国の補助金が乱立しています。1つの例で言うと、私は朝日小学校の運動場整備というのを文科省の低い補助率じゃなくして、総務省の合併に係る交付金を全国で初めて適用して、多分およそ20分の1ぐらいの予算でできました。そういったことで、これは実は私の案ではなくて、あそこに座っている水道部長の意見に基づいてしたのでありますけれども、そういう職員の皆さんたちの政策提言能力をうまく、または補助金獲得等につなげていきたいと思っております。

ちょうどいいことに私の同期が今もう各省の企画官でありますし、民主党にも自民党にも同期の国会議員が多数おられますので、そこをうまくネットワークを使って、いずれにしても、なるべく市の財政負担、とりもなおさず市民の御負担が減るように努力をしていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

本当にそういう意味で、市長にはしっかりまた頑張っていただきたいと、このように思います。

先ほどの中で民営化という部分が出てきたわけですが、これはいろんな事務事業の改善とか、例えば、組織機構の見直し、これは当然やっていくべきものと思えますけど、今後は特にそういう民営化について、民営化の推進、民間委託、そういったものについて進めていかなければならないというふうに考えますが、そういうことが最終的に人件費の抑制にもつながってくるという考えでございます。

そういったことで、次のアウトソーシングの民間委託について質問をいたしたいと思えます。

行政改革の目的というのは、市民にとって真に必要なサービスを最小限の経費で最大の効果が発揮できる市民本位の行政を実現することということでございますが、限られた財源のもとで、ますます多様化する行政ニーズに対応できる体制づくりが必要だと思っております。そのためには、これまでの事務事業のあり方を見直し、抜本的な改革を進め、効率的な行政システムによる自治体運営を目指さなくてはならないわけですが、厳しい財政環境、そういう中で、より多くの行政サービスを確保するためには、聖域なき改革として民間委託というのも積極的に取り組むべきだと、このように考えるところでございます。

そこで、まずお伺いをしますのは、本市の臨時職員や嘱託職員は何名いらっしゃるのか、できれば各課ごとにお示しをいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、21年度でございますけれども、市で雇っております臨時嘱託職員、全体で107名でございます。図書館司書とか保育士、こういった専門性を有する職務につきましては、嘱託職員として雇用しております、これが64名。公民館の主事補とか本庁、支所の一般事務などに臨時職員として雇っておるのが43人でございます。

関係する課といたしましては、文化会館、それから図書館・歴史資料館、保育所、未来課、子育て支援センター、リサイクルセンター、食育課、健康課、包括支援センター、建設課、環境課、総務課、公民館、小・中学校、観光課、本所、支所の一般事務の臨時、それから給食センター、文化学習課、学校教育課等々でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

現在、臨時職員、嘱託職員の方が107名いらっしゃるということでございますが、今回、このアウトソーシングという質問をします中で、これを一括的にアウトソーシングする事業、これを導入している自治体がございます。その分を幾らか御紹介をしたいと思います、これは県内では平成19年4月から小城市が実施しております、ここは給食関連業務で49名、事務関係で22名、また運転業務で2名など、現在105名ということでございます。また、嬉野市では、平成20年4月開始で101名の一括受託を行っているそうでございます。これは単に人件費の削減という部分だけではなくて、現在働いていらっしゃいます臨時、また嘱託の職員さんを企業へ再雇用するという、雇用の確保、また業務の安定が図られまして、その職員さんはその企業の社員として65歳まで勤務ができると、そういったやり方でございます。

本市におきましても、こういうことに全面的な委託ということを実施することにより、各担当部署においては、労務管理、給与の事務、社会保険事務、また雇用契約事務などのそういった業務がなくなるため、その担当職員の人件費も削減が可能ということになりまして、大幅な人件費の削減につながると、そういったメリットがあるわけでございます。

このような一括のアウトソーシング事業、これについてどのようにお考えかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

仮に現行の臨時職員の方で試算をした場合を申し述べてみますと、現行の給与に21日勤めていただいた分、それから社会保険料を加えて21日で割りますと、約7,175円の支出となり

ます。これは他市の事例をお聞きしまして計算しましたところ、そこは約9,000円ということで、やっぱりその一括管理されているところも業務でございますので、どうしてもそこもうけをとらんといかんというようなことで、やはりこういった試算をしてみますと割高になっているというような計算になっております。そういう意味では、市のほうが支出がふえてくるというような状況でございます。

当市といたしましては、現在取り組んでいますのは、指定管理者制度を導入した民間委託、それから業務委託というようなことを進めておりまして、こういった部分でのアウトソーシングは進めていきたいと思っておりますけれども、臨時、嘱託職員等の一括での委託というのは現在のところ考えておりません。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

私が御提案しましたのは、一括でアウトソーシングをするということで、かなりメリットが出てくるという部分ですね。確かに個別にアウトソーシングをしますと、どうしても割高になると思います。しかし、一括でやれば、その内部でいろんな人員の配置とか、そういうものもできますし、そういったメリットがあるんじゃないかと思ひまして、今回提案をしたわけでございます。今度また御検討していただければと思ひますが、これも1つの会社に委託するということは、そこで50名から100名というような雇用も生まれてくるということで、一つの企業誘致という部分でもとらえられるのかなというふうに思ったところでございます。

例えば、今のバス関係、地元バス会社の路線バス、こういった部分、こういうのをコミュニティーバス事業というような形で何とかできないのかなと、そういう思ひもありますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の考えは、やはり一つ考えるのは、一括アウトソーシングというのは、これは小城市、嬉野市等で行っておりますけれども、この評価をちょっと聞いてみたいということは思ひています。議員御指摘のように、これは人件費削減だけじゃない効果があるかもしれませんので、それは虚心坦懐にまず聞いてみたいと思ひています。

その上で、先ほど議員の御質問で、はっと思つたのは、やはりコミュニティーバスであるとか、あるいは今、政策部の企画担当等で協議をしておりますけれども、巡回バス、これの人件費、あるいは補助金の額とを比べたときに、かなりやっぱりまだ物足りない点、不満な点があろうかと思ひます。これが他市で行っているように、バスの運行、これはコミュニテ

ィーバスかもしれませんけれども、そこの運行につながって費用がさほど変わらないのであれば、それは市民の皆さんの福祉の維持向上のために選択する可能性はあるのかなと思っておりますので、バスの運行等にアウトソーシングを使用されているところも多数の自治体あります。そういった中で、ちょっとそれはヒアリングをしながら、そして、きちんと中で調整をしながら一つの選択肢としては考えてみたいなというふうに思っております。貴重な御指摘ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

そういう部分でも結構でございますので、まずコミュニティーバス事業、こういう部分も考えていただきたいと思います。

では、次に移りたいと思います。

次は市税等の収納率についてお伺いをいたします。

市税は自主財源の約70%を占める大きな財源でございます。この税収は自主財源の根幹をなすという大変重要な財源でございます。武雄市も市税負担の公平性の観点から、税務課を初め、本市一丸となって滞納の解消へ向け、さまざまな対策を講じられていると思いますが、収納率の向上と、そういう部分もちろん努力をされていると思いますので、その点は本当に評価をしたいと思っております。

そこで、まずお伺いしますのは、平成18年度から20年度までの市税の収納率、これがどのような推移を示しているのか、その点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

市税の収納率でございますけれども、（パネルを示す）18年度、19年度は93.45%、93.46%と、ほぼ横ばいでした。ただ、20年度につきましては、経済の非常な落ち込みというようなことで、92.51%と落ち込んでいる状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

18年度、19年度というのは93.5%で来ていたわけですが、20年度92.5%、1%落ち込んだということでございます。これについて、何か分析をされておりましたらお伺いをしたいと思います。1%の減ということで、何か原因があればお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

これはやはり先ほどお答えしましたように、経済の不況、これが一番大きな原因、これによって企業等も相当下がっているというような報道もありますし、これを如実に反映した結果ではないかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

そういう経済の状況とかという部分でやむを得ないということも確かにわかるわけでございます。そういった中で、本市の市税の納付方法についてお伺いをしたいと思いますが、今、本市でどのような納付方法をとられているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、納付方法として取り組んでおりますのは、コンビニでの振り込み、収納ですね、それから銀行等に直接持って行って振り込んでいただく方法、口座振替、こういったことを中心に行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

はい、わかりました。

次に、特別徴収事業所、これについてお伺いをしたいと思いますが、この特別徴収事業所というのは、事業所が従業員の給料から天引きをして、またその事業所から武雄市に納税をしていただくといったものでございますけど、現在、この事業所、これはどれくらいあるのかお伺いをしたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

本年10月末現在の個人住民税の特別徴収義務者といたしましては、2,076事業所ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

10月末で2,076事業所ということでございます。これについては、未加入の事業所というのはまだ幾らかあるんですか。その点についてちょっとお伺いしたいんですが。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

現在のところで特別徴収を行っている事業所は67.1%ということで、全体的なパーセントでいきますと、特別徴収で取り組んでいただいている事業所数は67.1%ということになっております。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

わかりました。67.1%ということで、まだ未加入の事業所もあるというふうに思いますが、できる限りそういう事業所にも加入をしていただいて、そういうことが収納率のアップにもつながってくると思いますので、ぜひまた今後そういう事業所にも声をかけて進めていただきたいと思います。

では次に、先ほど金融機関とかの窓口とか口座振替、それからコンビニ収納も今やっているということでございますので、そのコンビニ収納について少しお伺いをしたいと思います。

このコンビニ収納というのは、確かに納税者の利便性、こういうのを高める、まず滞納の防止、そういったものにもつながって大変重要なことだと思っておりますけど、本市のコンビニ収納、これが導入されて今の成果といいますか、そういった点についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

ここに掲げておりますけれども、（パネルを示す）コンビニ収納につきましては、18年度で2万1,919件、全体に占める割合が9.31%でございました。19年度が2万9,022件、占める割合が12.47%、それから20年度が3万3,605件で全体に占める割合が14.7%というようなことで、コンビニ収納につきましては年々ふえているような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

このコンビニ収納、本当に年々上がってきているということで大変いいことだと思っております。

一つだけちょっとお伺いしたいのは、このコンビニ収納に対する手数料と申しますか、それが発生してくると思いますが、そのあたりは幾らなのか、わかればお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

ちょっと今手元に資料がございませんので、後だって報告させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

手数料、普通言われているのは1件当たり60円程度じゃないかなと、このように思うところがございますが、こういうコンビニ収納、これからもっともっとふえてくると思います。そういった中で、今、コンビニ収納のほかにクレジット収納というのものもあるわけですが、これは平成19年4月1日に実施されました地方自治法の改正によりまして、このコンビニと同様に、クレジット決済による公金の決済が可能となったわけがございます。そういうことで、さらに利便性が高まってまいったわけですが、このクレジット収納のメリットは、住民サービスの向上と口座振替の不納対策ということでございます。例えば、現在の口座振替では、通帳残高が不足のとき引き落としができなくなると。しかし、このクレジット収納になれば、クレジット会社その間に入るということで、カード会社が市に料金を払うということになりますので、引き落としはできるわけがございます。そういうことで、督促の手续もカード会社が行いますので、未納者の管理や電話での督促、それに督促状の発送などのそういう事務的経費も削減が図れるというようなものでございます。また、市民にとってもメリットがございまして、ただ利便性という部分だけじゃなくて、クレジットカードを使用するについてポイントというのがたまる、そういったメリットもあるというように言われております。

1つの事例といたしまして、三重県の玉城町というところがございますが、これは数年前からクレジットの収納ということを取り組んでいらっしゃるところでございますけど、これは何で取り組んだかというのは、先ほど申しましたように、住民サービスの向上もですが、口座振替、不納対策ですね、このために導入をしたと。これまでは税金などの公金は口座振替利用者のうちの3%から6%が口座の現金不足ということで振替が不能になっていたということで、こういうことを始めたということでございます。そして、結局、納付書の送付や督促、そういった部分の手間と申しますか、そういう分、コストも大分かかっていたわけで

ございますが、そういうのも要らなくなった。口座振替、クレジットカードに切りかえてもらうことで不納を本当に減らしていくと。そして、業務の効率化を進めたいというようなことで、このクレジットカード収納をされたということでございます。

経費といいますか、カード会社に支払うクレジットカード収納の手数料は1%ということで、これは町が負担をしているというふうな状況でございます。

このようなクレジットカード収納について、今後取り組まれるお考えはあるのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

まず最初に、さっきのコンビニ収納の手数料でございますけど、現在63円払っております。

それから、クレジットカードの取り組みについてどうなのかということでございます。議員おっしゃいますように、いろんなメリットもございます。ただ、あと整理しないといけない問題というのも多数ございます。特に、公金徴収においては、クレジット会社からの立てかえ払いというのが可能になりますので、市にとりましては確実に入ってくるというようなメリット。ただ、これを納税者にしますと、納税者と役所の関係はそこで終わるわけでございますけれども、そこから先は民間の問題というようなことで、特に懸念されるのは多重債務、そういった問題、こういったものも十分整理をしていかななくてはいけないというようなことで言われております。

そういったことで、県内ではほとんどの自治体がまだこれに取り組んでおりませんし、全国でもまだ少ないようでございますけれども、こういった問題を十分検討してクリアできれば可能かと思っておりますけれども、そういった意味で、現在のところクレジットの取り組みについては考えていないところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

26番川原議員

○26番（川原千秋君）〔登壇〕

このクレジット決済というのは、いい面もありますけど、そういうデメリットの部分も確かにあると思います。しかし、これから先は、そういう部分がだんだんふえてはくると思いますので、ぜひ御検討していただきたいと、そのように思います。

特に、税というのは、市税負担の公平性の観点から本当にまじめに納税をしている市民に不公平感が出ないように、これからも収納率向上に向けての対策に今後もまたしっかり取り組んでいただきたい、このように思うところでございます。

以上をもちまして私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で26番川原議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、10分程度休憩をいたします。

休	憩	9時55分
再	開	10時5分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次に、4番松尾陽輔議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、公明党松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

ことしもあと残すところ、きょうを含めて23日ですか。ただ、年の瀬に向けて、新型インフルエンザが猛威を振るっておりますので、市民の皆さん方におかれましては、健康には十分注意をしていただくことを申し上げながら、ことし1年を振り返ってみますと、皆さんは何を思い起こされるでしょうか。

1月はバラク・オバマ氏が第44代アメリカ合衆国の大統領に就任をされ、アメリカならではの感動的な就任式が行われた1月でございました。2月は、見に行かれた方も多いかと思いますけれども、滝田洋二郎監督の「おくりびと」がアカデミー賞を受賞いたしました。3月は、公明党が推進をしてきた1万2,000円の定額給付金の支給が始まった月でもありました。また、4月は北朝鮮のミサイルが日本上空を通過するという情報が流れた月です。5月は、裁判員制度がスタートし、6月は、以前一般質問でも皆さんに御紹介をしたかと思えますけれども、全盲のピアニスト辻井伸行さんが、国際ピアノコンクールで、日本人で初めて優勝された6月でございました。7月は、皆さんも見られたかと思えますけれども、日本列島で何と46年ぶりの皆既日食が見られました、私も一瞬でしたがカメラにおさめた月でございました。

8月から9月は、衆議院選挙一色で、民主党が第一党となり、与野党の政権が交代をいたしました。10月以降を見ても、完全失業率が過去最高ですか、11月の22日、「失業率12カ月連続増 10月の見通し過去最悪に迫る」という記事が出ております。また、高校生の内定率においても、内定率過去最大の下落、氷河期再来のおそれという記事も出ております。

また、円高、デフレの直撃ということで、年末からまた新年度に向けての経済の影響が非常に危惧をされている中、このような景気低迷の中、武雄市の税収がどのように推移をしているのかどうか。また、そういうような状況で、どう対応をされているのか、まず最初の質問で通告をさせていただいております。

また、2点目は、さきの6月の一般質問で、がん対策について質問と提案をさせていただいたところでもございましたけれども、2カ月前、10月に55歳で、また55歳の若さでがんと闘

いながら、とうとい命を落とした大切な友人を身近にしたときに、がん対策のさらなる強化をとの思いで、今回もがん対策、がん予防日本一武雄への今後の計画と提案をさせていただいております。

最後の3点目は、今、非常に事業仕分けが取りざたされておりますけれども、必要な事業は継続をしながら、緊急性がある事業については、早急に予算をつけて、市民の目線で行っていくのが事業仕分けと考えますので、最後に事業の継続と事業の提案をさせていただきます。

それでは、最初に景気低迷、武雄市の現状と対策について、税収と事業の仕分けの視点から質問をしていきたいと思っております。

09年度の国の税収を見てもみますと、46兆円から37兆円、約9兆円の減収、減税の見通しの数字が出ております。この国の9兆円の減収の中で、武雄市においては、自主財源でもあり、また、収入の柱である税収は、当初予算と比較して、どのように現在推移をしているのか、まずお尋ねをさせていただきます。

御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

税収につきましては、今議会で上程いたしております第180号議案 一般会計補正予算（第8回）でお示しさせていただいておりますけれども、1億1,900万円の減額補正をお願いしているところでございます。この主な原因といたしましては、厳しい経済情勢の中で個人市民税の落ち込みが非常に大きいというのが大きな原因でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今年度1億1,900万円の減収の見通しという答弁ですけれども、歳入の柱が税収ですから、当武雄市にとっては非常に大きな金額ですよ。ただ、1億1,900万円、余りにもけたが大き過ぎるものですから、市民の目線ではぴんとこない部分といたしますか。

例えば、国の9兆円、10兆円減収、減額と、もう1兆円てなると、ゼロのけた数が12個つくですよ。そういうような状況の中で、金額の目安というか、わかりやすく金額を物差しにすれば、非常にわかりやすいということで、ちょっとその辺でお金を物差しではかったものですから、ちょっと皆さんに御紹介をしていきたいと思っておりますけれども、100万札束が約1センチですよ、厚みがですね。1億円で1メートル、10億円で10メートル、1兆円となると1万メートルですよ。1万メートルというてもぴんとこない部分がありますが、富士山が

3,776メートルですから、富士山の2.6倍ぐらいですね、1兆円積み上げれば。そういうふうな金額ですよ。あるいは今、円高で円が強くなっています、今、円が90円ぐらいですか、きのう、おとといが、それが89円になったと。例えば、円が1円高くなることによって、SUMCOの経常収益が4億円違うとですよ、1円違うことによって4億円違うと。そういうこととかですね、先ほど言いました武雄の1億1,900万円、積み上げれば約1メートル20センチ、このくらい積み上がりますね。そういった状況の中で、1億1,000万円を今度は1人当たり、市民の1人当たりの金額に直しますと、1人当たり2,309円、1世帯当たり直しますと6,983円の金額が減少になるということです。

例えば、ガソリンがリットル5円、10円、あるいは卵が10円、20円下がったというとても非常に身近に感じますね。しかし、全体的に武雄市の減収が1億9,000万円ですよ、国の9兆円、10兆円、ぴんとこないわけですよ。やっぱり市民に身近に感じさせるためには、やっぱりお金というのはある程度物差しではかって皆さんにお示すするのも大事じゃないかということで、こういうふうな例えながら御紹介をさせていただいたところであります。

そういったことで、長崎県出身の村上龍さんが、「あの金で何が買えたか」という雑誌も出しておられます。ここで皆さんにも御紹介したかったですけれども、時間の都合がありますものですから、また次回にじかに紹介をさせていただきますけれども、このような目線で、ぜひとも12月の市報にも20年度の決算の報告が出ておりました。ただ、こういうような決算を見ても、なかなか市民はぴんとこないわけですよ。先ほども申し上げたように、その辺の目線で記載をしていただければ、もっと財政が身近に感じられるという部分がありますので、その辺、市長どんなお考えでしょうか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も全く同感であります。

そこで、恐らくきょう、多くの方がケーブルワン、テレビを見ておられると思います。まさに、議会議員の役割はここにあるというふうに思っているんですね。なかなかその行政で数字を出すにしても、なかなかその翻訳というののできにくい部分があります。それを、一般質問というその場で、そのようにその翻訳をされて私たちに問うていただいているということは、ある意味、議員活動としてあるべき姿だと私は思っておりますので、その姿勢は私どもも見習ってまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしくお願ひ申し上げながら、先ほど予算等は1億1,900万円の見込みが減収

になる予定ということで、報告を受けましたけれども、20年度の税収の決算額を見てみますと、決算額で総額が55億2,110万円、入ってきた税収が。実績ベースで、この1億1,900万円ぐらいの減収になるのか、ちょっと実績ベースではどういうふうな判断をさせていただいていいのかちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

20年度の決算額につきましては、議員おっしゃいますように55億2,110万円。現在21年度の予算での市税の見込み額というのをうたっておりますけれども、51億5,166万円ということで、約3億6,900万円の減額、対前年に対して3億6,900万円の減額となるというような見込みが出されているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

当初予算比では1億1,900万円減少しますよと、ただ、実績としてはどうなんですかというここ大事か部分ですよ。実績ベースでは3億6,000万円減収という非常に、倍以上の実績からすれば税収が落ち込んでいるというふうな状況です。

そういった状況になって、当然、実績があって予算があるわけですがけれども、予算と予算と比べるんじゃないくて、実績と実績ですね、前年度実績と今年度実績で、実績ベースでどうなんだということの検証が必要ということで、私が私なりに確認をさせていただいたところでございます。その3億6,900万円に関しては、また後日というか、後で質問の中に入らせていただきますけれども、きょうの佐賀新聞、きょうの新聞もそうですよ。追加経済対策7兆2,000億円。年末年始に向けて、非常に経済効果があるかと思えます、7兆2,000億円ですから。ただ、中身ですよ、この7兆2,000億円の中身、中身を見てみますと、7兆2,000億円のうちに、2兆7,000億円が第1次補正の凍結した停止分が含まれるわけですよ、ここに。

それと3.5兆円は、今、先ほど言いました9兆円、10兆円の減収分の地方交付税として補てんされる金額ですよ。差し引き1兆円だけしか、今回の緊急経済対策には充てられないということですから、その辺は中身を検証して、もっとこういうふうな冷え切った経済情勢の中で、追加経済対策を打つべきじゃないかということで、公明党も野党となったものですから、この辺は徹底して景気対策、今非常に落ち込んでいますから。先ほど言いました内定も、もう氷河期に来ているというような状況ですから、もっと経済対策に手を打っていただきたいということで、強く市長ともども要望をしていきたいと思っておりますので、その辺をぜひともお願いを申し上げながら、ちょっと話を進めていきたいと思っております。

先ほど言いました収入の柱が税収、自主財源である税収が約1億円、実収ベースで3億6,000万円落ち込むと。ちょっと仮に、給料が10万円減ったと、そしたら、やりくりどうしますか。減った。それで、支出をどこで10万円削るのかどうか。あるいは、預金を取り崩して当面その10万円に充てるのかどうか。あるいは、給料が上がるまで借り入れをするのかどうか。

そういった状況の中で、先ほど武雄市の財政の中で、当初見込みよりも約1億円減収、実収で3億6,000万円減収というような部分に関して、その減収部分をどういうふうな形で、例えば、先ほど預金を取り崩すのか、借り入れをするのかという話をさせていただきましたけれども、それは、減収分は市債、借り入れで補てんをされる計画なのか、あるいは、事業支出を抑えられるのか、あるいは、基金を取り崩して充当されていかれるのか。また、具体的に、この減収が市民の皆さんにどのような影響を及ぼすのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますので、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

財政運営は本当に難しいです。私も専門で十数年やってまいりましたけれども、例えば、基金の取り崩し、あるいは地方債を発行するに当たっても利率との関係、あるいはそれをどこから借りてくるかという関係、それと補助金の組み合わせ。これパーツだけでいっても100種類ぐらいになるときがあるんですね。ですので、私どもは、私を含めて、ある意味行政のプロですので、極力市民の皆様方に負担のかからないような財政運営をしていきたいというふうに思っております。

これは、私が着任して今までのところ、それはできていると自負をしております。極力、事務の無理、無駄、あるいは事業の無理、無駄を省くことは当然ですけれども、弱い方々に、社会的に弱い、あるいは身体的に弱い立場に置かれている方々が、大体行政改革、財政再建をやると、一般的に言ってそこに負荷がかかるようになります。ですので、我々は、その方々にかからないような行財政運営をする必要があるだろうというふうに思っておりますので、基本的には今、ちょっと私どもが言えるのは、未曾有の財政危機にあります。国もそう、私どももそうでありますので、今のところ、何か借り入れをするよりは利率がちょっと上がりつつありますので、借り入れをするよりは、今持っている基金から米百俵じゃありませんけれども、充当する必要があるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった中で、こういった補てんをしていかれるのかちょっと確認をさせていただいた

ところでございますけれども、暫定税率の廃止も今の民主党政権が考えておるわけですよ。暫定税率の廃止によって、交付税もまた減ってくるわけですよ。要は、そこが問題ですよ。

その辺も今後、財政、市政運営にどう影響していくのか、市長、その辺のちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

暫定税率の廃止は私も反対であります。これがあったからこそ、今までの道路整備であるとか、今、一般財源化に振り向けられて、その道路に関連するような、例えば今度、新幹線でいうと複線化であるとか、踏切であるとか、そこまで使えるようになっているんですね。ですので、これがないと、どうやって私どもは、例えば必要なその道路整備をするのか、あるいは道路に関連する事業をするのかというのが皆目見当がつかない。

もう1つ問題なのは、先ほどいみじくも財政のプロがおっしゃいましたけれども、地方交付税交付金に直結するわけですね。ですので、もう二重三重にトリプルアウトになるわけです。それと、もう1つが、これは杉原議長がよくおっしゃっておられますけれども、CO₂削減との関係はどうするんだと、25%の関係はどうするんだと。確かに、そのガソリンが安くなることによって、私どもユーザーにとってはいいことかもしれませんけれども、高速道路が多分もういっぱいいっぱい、もう有田陶器市並みみたいになる可能性があるわけですね。信号機をつけなきゃいけない可能性だってあるわけですね。ですので、そういう私は暫定税率の廃止については、前々から申し上げておりますけれども、代替措置をとるんだったら、賛成に回ってもいいと思います。何か、例えば環境税であるとか、しかし、それをなきままにやると、ますますその財源の枯渇が生じると思いますので、ぜひ、連立政権下におきましては、そういう責任のある対応をぜひしていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

暫定税率に関しては、賛否当然あります。ただ、廃止して全体像でどうなっていくんだという部分を明確に、説明責任の部分ですよ、そこは。そういうような部分を今後確認をして、訴えもしていきたいと思っておりますけれども、ちょっと話を戻しますけれども、1億円あるいは実収ベースで3億円6,000万円の減収、それをどうやってカバーしていくかというのが、今からの市長の手腕だと思いますけれども、今、政府・与党が躍起になってやっている事業の見直し、仕分けによる予算の見直し、削減も1つの方法かと思っておりますよ。ただ、そういった事業の仕分けについては3年前、06年度、公明党が政党として初めてマニフェストにうたわ

せていただいた事業仕分けですよ、06年から取りかかっております。

そういったことで、私も3年前、18年12月、ちょうど3年前の12月ですよ。この一般質問の中で、事業仕分けによる行財政改革、市長どうですかということで提案をさせていただきました。そのときの議事録をちょっと読ませていただきますと、18年12月11日一般質問で、事業仕分けによる行財政改革のさらなる推進、提案ということでお尋ねを市長、させていただきますということで、3年前から申し上げておりました。

滋賀県の高島市では人口が約5万5,000人、武雄市と余り変わらないですね。予算規模が268億円、若干武雄市よりも多いですがけれども、そういった中で、119の事業に対して、総事業費が128億円。これを事業仕分けによって、最終的には14事業に対して3億2,000万円不要としたという、滋賀県の高島市の事例を、話をさせていただきながら、市長の答弁として、私も基本的には事業の仕分けについては賛成で、それにのっとり、今後の事業仕分け作業をやっていきますと、この事業が本当にいいかどうか、続けるべきかどうかということは、私は基本的にはこれは議会の仕事だと思っております。私は議会に期待をしておりますし、そういった観点での精査をぜひ必要として、その上で、私は市民の皆さんに諮るべきというふうに考えておりますということで答弁をしていただいております。その答弁を受けて、私も議会がチェック機関であるわけですから、その辺は十分我々も再認識をして、事業仕分けを明確に訴えもしていきたいと思っておりますし、そういった中で、執行部の方も貪欲に改革に対しては前向きに取り組んでいただきたいことを切にお願いを申し上げてということで結んでおりますけれども、その3年前、18年12月からその後、事業仕分けの取り組みが、どのような具体的な取り組みをなされたのかどうか、また、その成果もお尋ねをしていきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、さきの答弁でもお答えしましたように、民主党政権の事業仕分けそのものについては私も賛成の立場です。パフォーマンスとしては本当にいいことをやっているというふうに認識をしております。

私は、樋渡市政になって最大の事業仕分けは病院だったと思っております。議会で議論百出、賛成もあれば反対もある。それがテレビに放映をされて、「朝ズバッ！」でも取り上げられるぐらいに非常に、去年の今ごろ、ちょっと前ぐらいに活況を呈したということで、私は民主党の蓮舫さんがおっしゃっている姿を見ながら、実は私は、この議会が、もうまさにやっているじゃないかということで、私は病院の事業が最大の仕分け作業だったというふうに思っております。

そういう意味で、議会が最終的にはもう民間移譲に賛成をしていただいたと、これは、議

長、副議長、黒岩議員さんともども、そういったことでおっしゃっていただいておりますので、私は、それはだれも言いませんけれども、それが仕分け作業だったというふうに思っています。そして、事務的な仕分け作業には、担当部長からお答えをいたしますけれども、よく考えてみると、この一般質問そのものが、事業の仕分けにもう私はなってきたと思うんですね。レモングラスについてもそうです、イノシシについてもそうです。ですので、私は本当に恵まれているのは、市民の皆さんたちは本当にいい議会をお持ちだということで、私はこの場をかりて、深く感謝を申し上げたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

事業仕分けの作業について、簡単に御説明申し上げますと、私どもは合併時からすべての事業について、一つ一つの事業についてシートをつくりまして、その事業がどういう目的なのか、あるいは、それは本当に市がすべきなのかどうかという、そういうシートをつくりまして、一つ一つ検証してまいってきております。これを取りまとめたものが事務事業計画でございます。

平成19年度からは、政策評価、事務事業評価から政策評価という、いわゆる政策まで評価するというやり方を採用しております。

今年度、評価件数につきましては、事務事業評価につきまして465件評価いたしております。その評価結果は縮小が3件、統合が2件、廃止が4件でございます。国がやっています事業仕分けと若干異なるのは、外部の目をまだ通していないと、部長評価で、自分たち自己評価と部長評価で対処しているというところが、国がやっている事業とは若干違うというところでございます。

〔4番「金額にしてどのくらい削減というか、効果が出たというのは答弁できますか」〕

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

それでは、後だって結構ですから、もしよければ、金額がどのくらいだと、評価が400何点とか、先ほど、その金額じゃないですけども、市民の皆さんぴんとこないわけですよ。だから、ある程度金額がこのくらい削減できたということで、金額で提示をしていただければ、今後そのような形でよろしくお願いを申し上げまして、今後ともその事業仕分けは必要な部分ですから、ただ、仕分けに当たっては、やっぱり市民の目線でしていくのが事業仕分けですから、あるいは外部も入れながら、今後は事業仕分けをやっていくという部分が大切かと思っておりますけれども、その辺に関して御見解を市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、あくまでもこの事業の仕分けというのは議会の仕事だと思っております。行政に、何の権限もない外部の、例えば、横浜の有名な方がいらっしゃいます。そこに入ってきていただくと、私はまたワンマンと言われてしまいます。そういったことで、そうではなくて、やはり議会がその任をするというのが、私は一番正当性があるやり方だと思っております。

じゃあ、外部の意見はどうするかといった場合に、私はちょっとここから先は、議会のこととなりますので、踏み込んで答えませんが、例えば、市民病院の民間移譲のときも、よく議長さんと議論させていただきましたけれども、例えば、本会議に一般の方を呼ぶというやり方が、有識者の方を呼んで、あるいは委員会規則で認められるかどうかわかりませんが、委員会に有識者を参考人として呼び出すといった中で、その中で、ワンテーブルで議論をするということはあるのかなと。

もともと民主党の仕分けについても、最初そういったことでスタートしていたんですね。小沢何がしさんっていう方々が、1年生議員はまかりならんということで引き上げて、その分に外部の有識者が入ってきたということと理解をしておりますので、やはり、小沢民主党さんもそういったことを——ごめんなさい。鳩山民主党さんもまず、議会、議員を中心とされて、その中で議論をすると、役人を呼んで議論をしようというのは最初の流れだったと思いますので、私はその本来の事業仕分けというのは、議会の市民から負託をされた議会の皆様方が大所高所から御議論をされる場だと。

この機能というのは、先ほど申し上げたとおり、余り言われませんが、私は武雄市においては十分効果を発揮しているんじゃないかと。というのは、例えばきのうもありました。いろんなことで、議員さんから御質問があって、夜帰りよったら、やっぱりその議会のその質問なり答弁が市民の話題になるんですよ。「市長、あいどがん意味や」とか、「あの議員さんはどういう意味であがん質問されたとやろうか」ということで、非常に根づいているなということは感じましたので、引き続き私たちとしても、きちんとやっぱり答弁をしていく必要があるだろうというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういったことで、18年の12月でしたか、市長からの答弁でも、議員にも期待をしているということでしたので、私のほうも今まですべてが費用対効果では振り分けできない部分を、それは当然理解しながら、指定管理者制度の導入あるいは民間移譲へどうですかという提案もさせていただきました。

そういったことで、今回、ちょっと目線を変えて、組織風土や慣例はどういうふうな形で刷新をされておられるのかどうかという問いかけもさせていただいております。

ただ、この質問に関しては、先ほどの川原議員と若干重複する部分がありましたので、割愛といたしますか、やっぱり事務レベルでは現場でしかわからない部分があるわけですよ。我々はその庁舎の中まで一つ一つ個々に当たっているわけにはいきません。対市民の皆さんの要望とか外部的な要望を一生懸命聞きながら、市政にどうやって反映させていくのかどうかというような部分での仕事が主なものですから、内部事務がどうなって、どこが無駄があるのかどうかとか見えない部分があるわけですよ。そういったことで、提案制度というのは非常に大事な部分だと思いますから、その分はもう一度徹底をされて、内部で改善できる分は明確に市民にもわかるように、また、わかりやすいような形で、こうやっているんだよという部分の問いかけもしながら、ぜひとも継続して、していただきたいと思っておりますけれども、その辺でもう一回確認を、市長御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、全く同感であります。

やはり、議会あるいは私ども、副市長も私も特別職でありますので、なかなかその組織の隅々までにじゃあ目が光る——それは無理です。したがって、その組織に属されている方々同士がいろんな無駄を排除するとか、こういうことをやってみようというような開かれた、オープンな市政に私自身の責任として、していく必要があるだろうということを思っております。

それに加えて、やはり外部の力、目線というのを入れるのは、僕は大事だというふうに思っております。1つの例で言うと、やっぱりIターン、Uターンなんです。昨日、4名の合格者を発表させていただきましたけれども、そういったIターン、Uターン、とりわけ、Iターンの皆さんたちに、その力を発揮してほしいというふうに思っております。やはり、異なる視点で見ていただくということが非常に大事ですし、目立たないところでもこうしたほうがいいよということは、私のところにも入ってまいります。そういった、やっぱり切磋琢磨するということと、お互い協調しながら見合うということが非常に大事だというふうに思っております。

それともう1点が、よかったなと思っておりますのは、三木市との人事交流であります。三木市の小田君と、私どもの職員をある意味交換、人事交流と名のつく交換をさせていただいて、これが非常によかったんですね。やはり、三木市の小田君が、私どもの職場で頑張っていたいて、もう私自身も引きとめたかったぐらいですけれども、そこでいろんな文化を持ってきていただいたと、そして、私どもから菰田さんを送りましたけれども、非常に三木市でも

評判がよかったんですね。あそこも戻ってほしくないというぐらいに評価をいただいて、こういう人事交流というのは非常に大事だということで、私どもが今検討しているのは、長崎市、横浜市から武雄の人材をぜひ欲しいというオファーが来ております。これは、本当に職員の皆さんたちが頑張っていて、それだけの評価をいただいているというところまで来ておりますので、ぜひ、私どもといたしましては、もちろん、これは出しっ放しではなくて、長崎市からも横浜市、あと幾つか来ておりますけれども、それはちょっとうちの関係もありますのでまだわかりませんが、外部の力を入れて、そして、私どもの職員がまた外部で武者修行をしてくる、それをまた帰ってきたときに生かすということで、弾力的な開かれた人事運営をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も市長の答弁と全く同感でございます。そういった状況でぜひとも実施をしていただきたいということで思っております。

先ほどは内部組織の風土、あるいは慣習をどう刷新していくかという視点で提案をさせていただきましたけれども、先ほど言いました対外的な事業等は非常にわかる部分がありますけれども、その内部事務になると、なかなか見えにくい部分がありますもんですから、その辺は市長がみずからリーダーシップをとっていただきながら、一層の刷新をよろしく願い申し上げて、次の質問に入っていきたいと思っております。

雇用と企業誘致について、質問を移らせていただきます。

冒頭に申し上げましたとおり、今、企業の生産性が非常に落ち込んでいます。円高、デフレというような部分の中で、雇用、所得環境も悪化ですね。そういった状況の影響が、現在個人消費、家計にも影響が非常に出てきております。

ただ、生活、生産活動、雇用があって生計が成り立っておるわけですね。また市政も同様に、雇用、生産活動に対する取り組みがあつてこそ、市政が成り立っていくわけですよ。非常に重要な部分だと思います。

そういったことで、きのうも質問が出ておりました、質問というか、答弁もあつていましたけれども、09年の9月の資料しか私持ちませんけれども、武雄市管内の有効求人倍率が0.37、10人に3.7人しか企業から募集がないわけですよ。あと6人ほどの方は、仕事をしたくても仕事がないというような状況ですよ。全国、佐賀県平均からしても非常に悪い、武雄市管内は。

それと、さあ今から社会に飛び立とうという高校生の内定率も40%ですよ、10人に4人しかまだ内定が来ていないと。6人は路頭に迷うというか、卒業した後はどうしようかという、もう人生の岐路ですよ。そういった状況が非常に冷え込んでいる中で、武雄市としては今回、

第8回の補正予算が上程をされておりますけれども、こういった形で雇用対策をされてますかということで質問をされておりましたけれども、緊急雇用対策で対応しておりますよというふうな答弁もきのういただいたところですが、今後は新卒者に対するそういうような支援を具体的にどうやっていくのかと、こういう時期にあっては。それはハローワークあたりの仕事ですよということを言ってしまうばそうでしょうけれども、市としても何とかそういうふうな新卒者のフォローといいますか、それはもう高校ではいろんな形で就職指導員の方々も、いろんな就職のお世話をさせていただいておりますけれども、市としてもやっぱりその辺の下支えをすることが生活者の目線に立った市政運営ではないでしょうか。

市長もきのうおっしゃってございましたスローガンの部分ですね、生活者第一というふうな部分で言うておられました。政治は思いやり、気配りですよ。昭和21年の第1回の国政選挙のスローガン、市長おわかりですか。21年、国政選挙の466名の定数に対して、約2,700名ぐらいの立候補者。全国で一番支持されたスローガンが、「イワシ1匹と米3合」というスローガンが一番支持されたそうでございます。21年当時といいますと、食糧難の時代ですよ。そういった状況の中で、一日も早く国民の皆さんにイワシ1匹と、また米3合を食べるような国に何とかいち早くさせていこうというスローガンだったそうでございます。

そういった中で、市長も生活者、市民の目線でというような部分で答弁というか、言われておりましたけれども、そういうふうな部分も何とか行政としてでも下支えをしながら、今からの世代を、今の若い人たちをいかに育て上げていくかというのも大事な部分だと思いますけれども、その辺のお考え、見解があれば市長、お尋ねをしていきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

6つほど案がありますけれども、その中の主要な1つだけをちょっと申し上げたいと思います。もちろん、その緊急雇用で市が直接雇用するということもあろうかと思いますが、これはもうその期間だけでありますので、1つ大きなのは、やはり武雄市が「ぬくもりのある元気な市」と、私自身が標榜しておりますので、そういった意味では福祉、医療、介護に手厚く行政としても支援する必要があるだろうと思っております。

その中で、ぜひ申し上げたいのは病院であります。

今回、新武雄病院ができることによって、看護学校あるいはリハビリテーションの学院が付設される。こうなってくると、今まで高校を出て就職ができないという皆さんたち、しかも、できても例えば、派遣で名古屋であるとか、東京であるとか行った方々が地元でまず勉強してみようということ。それと、その皆さんたちが、じゃあどこで就職をするかといった場合に、今、看護師であるとか、理学療法士であるとか、やっぱり足りないんですね。そも

そも国の制度も今、かなり手厚くするというふうに変わっていますので、そういった方々がまず医療関連、あるいは福祉関連、介護関連として新武雄病院を、もう1つになりますけれども、そういったところに就職をしていただくと、そこで、なるべく親元、あるいは親元に近いところから生活をする、していただくと。これがすなわち、私は次の武雄市政の新たな「小さなまちの大きな挑戦」であるというふうに思っております。

きのうも答弁いたしましたけれども、単に病院だからといって、その医療の関係だけで済ませるのではなくて、雇用であるとか、社会福祉であるとか、そういうつながりを持って行きたいというふうに思っております。

今、病院関係だけで言うと500人の雇用があるだろうということは、去年の7月の池友会のプレゼンテーションでも入っております。そこに大きく期待したいのと同時に、あと今の病院が今度でき上がるところをたまに私もうろろします。そうすると、いろんな車が今、とまっています。私から直接聞くのもあれなんで、後でちょっといろいろ聞いてみると、例えば、近くにマンションを建てたい、あるいは近くに商業、お店を建てようかなということ。今、見えられているというふうに承知をしておりますので、そういったことになると、今、現に御商売をされている方であるとか、農業生産者の皆さんであるとか、そことの関連的な産業効果、そして、雇用効果も生まれてくるというふうに思っておりますので、6つ、今考えているのがありますけれども、やっぱり1つは、新武雄病院を生かしていくと、そういった意味で生かしていくということが非常に重要であると認識をしておりますので、それとあと5つありますけれども、それとも相関連をして進めていく必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにいたしましても、やはり、生活者第一目線で、二項対立じゃなくて、生活者第一ということで、私は市民の皆さんたちの目線に立って市政運営をしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市長のほうから、もう雇用の面で市民病院と看護学校の雇用もお話が答弁の中でもう出てきましたので、やっぱり市民病院あるいは看護学校ができることによって、やっぱりいろんな相乗効果が当然出てくるかと思えますから、ぜひとも期待をするとともに、今の市民病院の職員さんも雇用に関しては、もう雇用をしていただくという大前提のもとで取り組んでいただきたいということで、その辺の確認をもう一回御答弁お願いできればと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

市民病院の職員で希望される方につきましては、巨樹の会に引き継ぐということで確認をいたしておるところでございますので、その件につきましては、順調に進んでいるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな要望、今の職員さんの要望を聞きながら、適切な対応をぜひともお願いをさせていただきたいということで確認をさせていただきたいと思います。

それと看護学校の話も市長から今、答弁の中で出ましたけれども、看護学校も2年と4年がございます。ぜひとも4大を、今回の巨樹の会に要請をぜひともしていただきたいと。九州で4大があるのは福岡ぐらい、ちょっともう一回私も確認をせんといかんとですけれども、私も福岡大学を卒業して三十数年になりますけれども、やっぱり大学4大ができるというのは非常に経済効果がいろんな面ではっきり効果があるわけですよ。あと地域にも活気が出てくるというか、若い人の力とはすごいなという、やっぱり集まる環境づくりというような部分だと、ぜひとも4大の看護学校を要請していただければ、いろんな面で医療のまち武雄というような部分の位置づけにいろんな波及が出てくるかと思えますけれども、その辺の考えは市長、いかがでしょうか、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今、池友会グループ、なかんずく巨樹の会と合意がとれているのは、正看護師さんの看護学校を中心とするということまで合意がとれていますので、その中で、これはちょっと杵藤武雄医師会が運営されております看護学校との連携も考える必要があります。そういった中で、そういった諸条件が、医師会のお話をよく聞いて、諸条件がクリアできれば、先ほどちょっと私も初めてその4大の話は、今の場で伺いましたので、よく池友会と協議をしたいというふうに思っております。貴重な御提言ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

はい、4大に対しての検討というような分には非常に重要な部分があるかと思えますから、ぜひとも前向きに、いろんな形で取り組みを検討していただきたいということを切にお願いを申し上げておきたいと思えます。

そういった状況の中で、誘致企業というような部分の中で、今回、北方の工業団地ももう

造成にかかっているというような部分の中で、ただ、やっぱり2年、3年先になるわけですね、やっぱりできて、完成して企業が来るまでは。そういうような若干二、三年の期間を要するわけですよ。そういった状況の中で、今現在、武雄市内の工業団地に空き地がどれくらいまだ残っているのか、既存の工業団地の部分で。

それと、その進出企業が何年ぐらいを、例えば、平成元年ぐらいに来て、もうそれ以降は武雄市に進出企業が全く来ていない、そういうような状況がわかれば、ちょっと確認をしておきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

市内の工業団地の状況でございますけれども、まず武雄工業団地で県が有するものがあと1区画、これはもう1ヘクタールでございます。そのほか、工業団地内において、工場閉鎖等で民間が所有するものが3カ所あります。これは、武雄工業団地に2カ所、それから、山内町の堀切工業団地に1カ所ということでございます。

それから、最後の企業進出でございますけれども、工業団地における最後の企業進出の、これは協定ということで御理解をいただきたいというふうに思えますけれども、平成19年3月に協定を結んでいます。ただ、その後の経済情勢で、まだ具体化がしていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まだ若干空いているというか、武雄工業団地は1区画残っているというふうな部分でしょうけれども、先ほどの冒頭に言いました円高、デフレあたりで、非常に今、企業が収益が圧迫をしております。そういった状況で、海外進出というふうな企業も出てきております。

そういった状況の中で、企業は今、どういうふうな活動をしているかというのは、もう売り上げは減っていますものですから、営業活動を必死にやっているわけですよ、販路拡大という部分の中でですね。

そういった状況の中で、行政としてもその企業誘致に対して、今、そしたらどのような営業活動をされているのか。また、どういうふうな活動、仕掛けをされているのか。あるいは、工業団地に来ていただくような形で、どういうふうな特典を設けて、他市と違った特典ですよ。同じような特典だとなかなか企業も選別してきますから、そういった状況の中で、どういうふうな部分の特典があつて、今現在、どのくらい見込みというか、手ごたえのある企業が今、交渉をされているのか。ちょっと確認をさせていただきたいと思えますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤営業部理事

○伊藤営業部理事〔登壇〕

まず、現在の見込みでございますけれども、新規企業についての現在、交渉を含めてやっているものについてはございません。

それと、企業誘致活動についてでございますけれども、まず、県の企業立地課のほうに情報収集を兼ねて、市から職員を1名派遣しております。

そのほか、この企業立地課及び県の関西中京の営業本部並びに首都圏営業本部から情報収集を行い、必要であれば上京をして、そして、企業訪問を行っているというのが、今現在の状況であります。

それと、優遇制度につきましてでございますけれども、平成17年5月2日に佐賀県の企業立地促進特区の第1号の指定を受けております。

この優遇措置については、県内でも上位の充実した内容ということでございまして、他市とどこがどう違うかということについては、ちょっと把握をしていませんけれども、内容的には武雄市の企業立地促進特区指定に係る奨励に関する条例の中で、製造業については投資3億円以上、10年以上の新規雇用等についての奨励金等々の交付などを今、行っている状況にあります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これに加えて、トップセールスとして、お名前を出していいかどうか、適切かわかりませんが、杉原議長のお力をよくかりています。幅広いネットワークで、「市長、出張行くぎんた、あそこ行ってくれ」とか、あるいは議長さんが「自分はここに行くってくっばい」というところで、非常に助かっております。

ただ、今、企業誘致についても冬の時代でありますので、今、私どもがしなければいけないのは、冬の時代の蓄えであります。どういうことかと言うと、1つが宮裾地区、北方町の宮裾地区に今度できますその工業の団地のエリア、それともう1つが、もう常々企業経営者がおっしゃいますのは、2つおっしゃいますね、このごろは。

まず、病院です。産業事故があった場合、あるいは家族にもしものことがあった場合、病院はどこですかということは必ず聞かれますので、新武雄病院そのものが武雄市の大きなセールスポイントになります。そういう意味で、議会の御尽力に本当に感謝をしたいと思っております。

それともう1つが、やはり言われるのは、政治経済の安定であります。武雄市の場合、これを私が言うのもどうかと思いますけれども、政争が激しいということは皆さん知ってお

られます。それが一体どうなるんだということを言われますので、私自身も当事者の一人です。ありますので、二項対立じゃなくて、オール武雄になるように虚心坦懐にしていく必要があるだろうというふうに思っておりますので、そういった中で、さまざまなその企業誘致に関しては、その先方のほうも条件を出されます。

そういった中で、私自身として、企業の皆さんたちが安心して来ていただくような社会環境でありますとか、そういう醸成をしていく必要があるだろうというふうに認識しておりますので、ぜひ、議会の皆様方に関しても大所高所から、そういった武雄市政についての御理解と御協力をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともトップセールスを積極的にしていただきたい。先ほど言いました企業が今、非常に冷え込んでいます。冷え込んでいるから、手をこまねいていいかというたら、そういうわけいかんもんですから、営業活動に必死に取り組んでいます。

そういった状況の中で、ぜひともいろんなお知恵を借りながら、また議長と色々な形で一緒になって受け入れる体制は整っていますから、あとはもう熱意だと思いますから、その辺をぜひともお願いをしていきたいと思えます。

そういった状況の中で、企業が進出してきて、雇用が生まれるということは非常にうれしいことだと思います。ただ市長、1つ、企業を誘致するのも大事でしょうけれども、既存の、市内にも、50人、100人と雇用していらっしゃる企業があります。ただ、そういうふうな形で、大手が進出してくれば、市内の中小企業の雇用の方々がそっちに回されるという、雇用の面では広がって非常にうれしいことですが、実態としての地域の中小企業の方が、非常にその辺も悩んでおられるという実態がありますから、その辺は十分くみ取っていただきながら、対策を講じていただきたいというような形で、答弁は結構ですから、その辺も十分認識をしていただきたいということで、確認をさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、ちょっと時間も経過しておりますので、「がん予防日本一武雄」の質問に入っていきたいと思えます。

がん予防という同じ予防で、新型インフルエンザのワクチン接種について。

今回、補正予算の中で低所得者に対してのワクチン補助の助成が予算に出ております。何としても可決し、助成をしていきたいというふうな形で思っておりますけれども、ただ、インフルエンザでの死亡も全国各地でもう100人以上出ているという新聞でも報道がなされております。

そういった形で、非常に市民の皆さんにとっても一般はいつから接種できるのと、優先順

位がありますから、小学校3年生まで、あるいは重病の疾患を持っておられる方を優先してというような部分、あるいは今後どのような形でのスケジュールであるのか、そういうふうな部分が非常に市民にとっては不安な部分でありますので、その辺の十分な体制というか、今、状況として、インフルエンザの接種に対する状況をどう行政として認識というか、市民の皆さんに公表されているのか。ちょっとがん対策の前に確認をしておきたいと思しますので、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

新型インフルエンザのワクチン接種につきましては、佐賀県の実施スケジュールによって行っているところでございます。これにつきましては、ホームページや市報で当然知らせておりますけれども、特に11月中旬のマスクの全世帯配付時にチラシを出しております。（チラシを示す）これですけれども、御家庭に行ったのはピンクだと思いますけれども、これにワクチンの接種についてということで、優先対象者とか、費用とか、受け方ですね、それから医療機関とか、大体網羅したところでお知らせをしているところでございます。

それから、非課税者、低所得者の非課税者の方につきましては、全員の方に一応はがきをやっております。大体世帯数としましては3,700戸強ですね。それから、人員としては7,500名ぐらいということになっております。その方につきましては、打つ場合は医療機関に非課税証明書を持っていかなければなりませんので、発行と問診票ですね、予診票を窓口で発行しているところでございます。

それから、ワクチンや医療機関の接種の対象者等については、今申されたように市民からの問い合わせがありますけれども、窓口、電話で対応しております。ただいま申されましたように、該当者じゃない人、接種優先者じゃない人の接種についてはどうなのかという問い合わせがあっているところがございますけれども、まだその辺の方向性が出ておりません。それから、佐賀県ではこの前、先週末に新聞に載ったと思いますけれども、中高校生を17日ぐらいから接種したいというような方針が出ておりましたけれども、これについても具体的には市町村にまだおりておりませんので把握していないところです。

一応、特に苦情等というようなことはあっておりませんので、今、このような体制で実施を行っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな市民からの問い合わせ、私自身にも問い合わせがあっておりますので、その辺は十分な対応、体制を整えていただきながら、県からまだ指示が来ていないから手をつけてい

ないということじゃなくて、やっぱり県の指示を当然受けてからでしょうけれども、来てすぐ対応できる体制をぜひとも整えていただきたいと思いますので、よろしく願いを申し上げておきたいと思います。

それでは、「がん予防日本一武雄」の計画についてお尋ねをさせていただきます。

まず、検診率の向上とがん教育についてということで質問に入っていきますけれども、中川先生の言葉をかりますと、「「がん検診を受けなさい」と啓発しても、なかなか向上率は上がりませんよ。がんという病気がどういう病気なのかを知ること、また伝えることが大切ですよ」ということで、中川先生は、この前のがん撲滅大会のときに話をされたところでございます。

私も6月に「がん対策強化をぜひとも」ということで提案をした一人として、そのがん撲滅大会にも参加をさせていただきまして、改めて検診の必要性を感じた一人でもございます。

そういった感じで、がん撲滅大会の実行委員長であられた樋渡市長から大会を終えての感想といえますか、思いをお聞かせしていただきたいと思いますけれども、よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

11月3日のがん撲滅推進大会には、市内外から700名の御参加がありました。先ほど松尾陽輔議員さんからありましたように、中川恵一先生の基調講演並びに私を含めたディスカッションがあって、本当に、やっぱりこれは客席と私たちがいるところでどう反応するか、やっぱりわかるんですね。話を聞かれながら涙ぐむ方がおられたりとか、その中には、ユーモアあふれた笑いがあったりとか、本当にその会場と一体感があって、その後に、北村尚志さんの「あなたの手紙」というがんの撲滅推進大会のためにつくられた歌を弾き語りで歌われて、それが今、ユーチューブにも実は載っておりますけれども、私たちが思った以上に、今、広がりが出てきております。

これは、くらし部がもう本当に、土日なく準備をした一つの結果だというふうに思っております。そして、今は、大会が終わって11月3日でありましたけれども、私は杵島信用金庫のあの尾形さんであるとか、さまざまな方がブログに載せて、そのときのブログのアクセス数が、私は今、1日平均1,500ぐらいなんですけれども、7,000ぐらい行きました。ですので、非常にその関心があるということと、関心の広がりを今、実は考えておりますので、今後は、がんの撲滅推進大会の成果を踏まえて市民運動で協議会の立ち上げであるとか、さまざまに、そして、きのうの答弁でも申し上げましたけれども、学校の現場に、ぜひ東大の中川先生のお力をかりながら、がんも自分の体の一部分なんだという中川先生のその教えに中学生の諸君も耳をぜひ澄ませてほしいなというふうに思っておりますので、そういった中で、結果的

にじゃあ検診に行こうであるとか、いろんな食事を考えようであるとか、そういった方向につながっていくということになればいいなと念願をしております。

この件に関して申し上げますと、本当に市民の皆様方に感謝をしたいというふうに思っております。実際、「聞けなかったけれども、今度いつ中川先生の講演があるの」とか、多数議員さんたちも聞かれていると思いますけれども、また、こういう機会をぜひつくってまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひ御協力方をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

そういった中で、6月にも市長、がんの特効薬は何ですかということで問いかけもさせていただきました。がんの特効薬は早期発見、早期治療ということも中川先生の話にも出ておりました。そういった中で、公明党が推進をさせていただきました乳がん、それから子宮がんの無料クーポン券、前回お話もさせていただきましたけれども、乳がん、オランダの検診率が89%ですよ。カナダが70%、アメリカ72%、日本は20%ですよ、10人に2人しか検診を受けていない。子宮頸がんもオランダが66%、カナダが72%、イギリスが約80%、日本は23%というふうな統計というか、状況が公表もされております。

そういった状況の中で、無料クーポン券、乳がんと子宮がんが交付をされておりますけれども、今の交付の状況がどうなっているのか。あるいは交付されて、病院に行っても、その制限、きょうは5人ですよというふうな部分の中での制限された受診でなかなか行ってもすぐ受けられないというふうなことも、一部声が寄せられております。そういった体制、受診体制はどういうふうな形で、今、取り組みをされているのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますが、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

この無料クーポン券の対象者ですね、一応子宮がんが1,463名、乳がんが1,842名というふうになっております。

無料クーポンを9月末に対象者へ発送をしております。それで、10月より検診を開始しておりますけれども、一応受診体制というか、検診体制がなかなか難しいということで、整わなかった感があるんですけども、集団検診を土曜、日曜含めて6日間の追加、それから、個別検診につきましては、杵島郡、嬉野市、武雄市内で総合受診ができるように、子宮がんは7カ所、乳がんは4カ所の医療機関で契約を行ったところでございます。

また、4カ所とは別に、乳がんにつきましては、市民病院のほうで協議して、市民病院の

ほうではなかなか難しいということでありましたけれども、御協力をいただきまして、400名を確保しております。また、はがきや電話で対象者には勧奨を行っておりますけれども、受診状況は子宮がんが11月の中ごろの統計ですけれども127名、7.8%、乳がん検診が286名、15.5%となっておりますので、これの使用が2月までとなっておりますので、さらに電話等、または訪問等で受診を勧奨していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、受診に対する啓発、啓蒙をよろしくお願い申し上げたいと思います。

そういった中で、今回限りの無料クーポンです。政権は変わったものですから、継続事業としてなるかどうか非常に微妙な部分ですけれども、何とか最低5年間は続けていかないと、せっかくの無料受診の効果が無いというか、不公平な部分がありますから、市長ぜひともその辺の部分に関しては最低5年間は継続するような形で、後押しをぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

乳がんは、40歳から50歳までですね。あるいは子宮頸がんは20代から30代が非常に今、ふえているというような状況ですから、これは非常に今、検診の必要性が問われてというか、非常に訴えていかにやいかん部分ですから、ぜひともよろしくお願いを申し上げながら、長野県では、健康教育の中で胃がんの受診率をどうやれば上がっていくのかということで、年間80回、集落への説明会に回られてやっと受診率が上がったという実態が出ております。やっぱり足を運びながら、がんをいかに知らしめていくかということも大事な行政の仕事ではないかと思っておりますから、定期的にはちょっと年間80回というのは相当な労力も必要かと思っておりますけれども、その辺も徹底して検診向上のために御尽力をいただきたいと思っております。

そういった状況の中で、女性で一番多いのは乳がんですよ。「余命1ヶ月の花嫁」、長島千恵さんですか。非常にもう何とも言えない状況ですよ、24歳の若さで余命1カ月の花嫁、見られましたか、皆さん。もう何とも言えないですよ。そういった状況の中で、いち早く市長は「がん予防日本一」を掲げられて、例えば、女性専門の日帰りドック、あるいは働く女性のための日曜日のがん検診、あるいは企業に対する食育、がん検診という、いろんな今からの仕掛けが大事な部分ですよ。そういった状況の中で、集中的に取り組まにやいかんという部分の中で、ぜひともがん対策特別室というふうな推進室でもつくって、これは徹底してやっていくべきじゃないかということで、私は提言をさせていただきたいと思っておりますけれども、御見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当にがんの場合が、去年の市民病院の、選挙をめぐる、あるいは今回のがん撲滅の大会で結構各部にまたがるんですね。くらし部の中でも、やっぱりまたがります。事前の話であるとか、事後の話であるとか、あと市民病院の事務長もおりますけれども、その市民病院との関係も出てきますので、私としては、仮称ですけど、がんの撲滅の推進室をつくらうと思います。これについては、事務的にちょっと時間が要りますので、整理をさせていただいた上で来年の春に立ち上げていきたいというふうに思っております。

もう1つ、この大きな窓口として、新武雄病院におかれても、2月1日に民間移譲になりますけれども、ぜひがん対策には力を入れていただきたいと思っております。それは、とりもなおさず、やはり検査であります。先ほどありましたように、日帰りのPETであるとか、日帰りの検査であるとか、さまざまな機能をしていただくと。これは、あくまでも開業医の皆様方が主体でありますので、開業医とよく連携をしたいというふうに思っております。ですので、がんの撲滅の防波堤にぜひ、今度の新武雄病院はその中心を担っていただきたいと思っております。

その上で、私としてはもう1つ、これはさきの答弁でも行いましたけれども、食生活であるとか、あるいは生活習慣であるとか、そういう講座を新武雄病院、これは和自の得意分野でありますので、そういう市民講座を頻繁に開いていただくということも含めて、これはぜひ農業生産者の皆さんと連携をしながらしていく必要があるだろうというふうに思っておりますので、今度の新武雄病院の新たな設置が、そういうがんの撲滅の推進、起爆剤になるように、行政としても、そういったことで連携を深めていきたい、医師会と連携を深めていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、そういうような形で集中的に取り組みをお願いをしておきたいと思っております。

そういったことで、先ほど学校でもがんの講座をとということで話も出ておりました。岡山県の朝日高校っていう高校があるわけですよ、そこで、中川先生も学校現場の中で話をされて、子どもたちに対して、がんがどういう病気なのか。また、どうすればがんが完治できるのかということの講演をされたそうでございます。

その成果として、その子どもたちがお父さん、たばこ、お母さん、マンモ受けに行ったという声が子どもたちから出てくると、そういうような状況が非常に、お父さんもせいぎん行かんばいかんね、検診に行かんばいかんねという部分で、意識づけが高まってきたという効果が出てきたという部分が報告もされております。

そういった状況の中で、ぜひとも幅広く、今後定期的に各学校でも開催をしていただきたいというふうな計画と、「がんのひみつ」、中川先生が書かれた非常にわかりやすく、がん

がどういふものかというのが非常にわかります。（「わかりましたよ」と呼ぶ者あり）はい。これも、ぜひとも学校現場での教材としての取り組みあたりも、健康学習科、道徳科というか、どういふ機会で、学校現場の中で取り入れがどうかかわかりませんが、こゝういふようなことも1つの材料じゃないでしょうけれども、啓発運動の一環として取り組みをぜひしていただきたいというふうなことで提案もさせていただきたいと思ひますけれども、市長の御見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、保険会社のアブラックさんに感謝をしたいと思っております。

これは、杵島信用金庫さんが仲立ちをしていただいて、1,000冊の寄附をいただきました。「がんについて学ぼう」といふ冊子、本をいただきましたので、これは直ちに、この前の11月3日のがん撲滅推進大会のときに、来られた方、来場された方にお渡しをしたところで、これは非常にやっぱり好評ですね。

今、コピー版も出回って、私のところにはコピー版が来ましたので、それも今、読んでいます。それぐらいに、非常にこれが市民の皆さんたちに伝播をしているということでありま

す。今回の地域活性化経済危機対策臨時交付金によるがん撲滅地域活性化事業というのがあります。その中で、これは教育委員会とよく協議をする必要がありますけれども、執行部としては、「がんについて学ぼう」、1,600冊を購入しようということをお思っておりますので、この教材をどう活用するかについては、よく教育長と、教育部長と協議をして、効果的な、先ほど私も初めて思いました。子どもからお父さん、お母さんに言うっていうのは、ああそゝういふ効果もあるんだということも非常に勉強になりましたので、いゝろんな教育効果を、教育委員会とよく協議をしていきたいなというふうにお思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともそゝういふふうな取り組みをしていただきたいということで、要望もさせていただきたいと思ひます。

それと、先ほど子宮頸がんに関しても、ちょっとお話をさせていただきましたけれども、子宮頸がんのワクチン接種が日本もやっとな承認をされました。先進100カ国はもう前からこの検診といふか、子宮頸がんワクチンの接種に関する承認を得たところですが、日本がやっとな承認をされたといふような部分の中で、その子宮頸がんの要因は、ヒトパピローマウイルスといふワクチンだそゝうでございます。

そういった形で、このワクチンを接種することによって、約70%の方が子宮頸がんから完治するというか、もうワクチンが、抵抗ができるということで、非常にワクチン接種の効果が出ているというような状況も世界各国で報告もされております。

ただ、金額が3万円から5万円と高額ですよ、費用が。ただ、その子宮頸がんは14歳、15歳ぐらいからもう打てるそうです。そういった状況の中で、早くもう効果がわかるとれば、そういうような部分で積極的に武雄市もがん予防という部分では取り組みをすべきじゃないかということで、これに関しても市長の御見解というか、積極的な取り組みを御提案させていただきたいと思っておりますけれども、御見解についてお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

子宮頸がんワクチンにつきましては、先ほどありましたように、若年者、中学生までに3回の接種を3万円から5万円程度の予算がかかるといったことで、これは私どもといたしましては、その効果あるいは副作用等をちょっと見ていく必要がやっぱりあるだろうと、この部分は、行政はやっぱり慎重にする必要があるだろうというふうに思っております。

その上で、ぜひ、これはユーチューブでも流れますので、連立与党の皆さんたちにお願ひしたいのは、やはり「コンクリートから人へ」と標榜されているというのは、まさにこのことだというふうに思うんですね。ですので、私としては、地域の、市町村単位の策ではなくて、これはあくまでも日本国民を守ることにもなりますので、ぜひこれは国策として推進をしていってほしいなというふうに思っておりますので、ぜひ、また人に優しい公明党さんの力をおかりしながら、ぜひ民主党政権に、鳩山政権に声を届けていく必要があるだろうというふうに思っております。

いずれにしても、この子宮頸がんの今の検診率の低さも含めて、このワクチンていうのがある意味の特効薬になるんだろうなと思っておりますけれども、ここは慎重に効果あるいは副作用をちょっと見ていきたいなというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ワクチンの副作用も非常に確認をした上での対応も当然必要かと思っております。インフルエンザのワクチンに関しても、いろいろな副作用の問題も出ておりますし、そういうようなことで、もう1回確認をしていただいた中で、国策としても取り組みをしていただきたいということを切にお願ひしながら、また市政でもそういうふうな形の積極的な取り組みを、ぜひ私

のほうからも御提案、実施をお願いさせていただきたいと思います。

そういったことで、がん予防の面からお話をさせていただきましたけれども、緩和ケアの部分で、ちょっとお話をさせていただきますけれども、ちょっと御紹介というか、「がんのひみつ」の中川先生の本を紹介させていただきます。

緩和ケアは治療の最初からということで、我が国ではがんの患者さんも治療に当たる医師も、ともかくがんを治すことだけを考えてきました。完治はもう無理とわかっている、亡くなる前の日まで抗がん剤を使ったりするものです。

このような例があります。直腸がんの手術の後に、肝臓の転移が見つかった患者さんのケースです。ずっと強い抗がん剤の治療を受けていて、結局は副作用で白血球が減り、感染症で亡くなりました。

解剖をしたときに、担当医から患者さんの奥さんに満足そうに、「よかった、抗がん剤がきいていました、肝臓のがんは消えていますよ、奥さん」と言ったそうでございます。がんは消えても、治療で患者さんは亡くなっている、本末転倒である。

現在、がんの治癒率はおおよそ5割ぐらいです。治療の進歩にもかかわらず、いまだに半数近くの方が命を落とされておりまして。しかし、がんで亡くなる患者さんを支える医療が日本では十分に行われているとは言えません。これまで、日本のがんの治療の現場は治癒率を少しでも高くすることだけに力を注いできました。まさに、勝ち負け重視の医療でございます。しかし、死に直面し、体や心に痛みを与えている患者さんにこそ、最高の医療が提供されてしかるべきでしょう。これこそが医療、医の原点であるはずで。

欧米では治癒できないがんや痛みなどの症状を持つ患者さんのさまざまな苦しみを和らげることを主眼として緩和ケアの考えが確立をされております。日本はがん治療の後進国ですが緩和ケアはさらにおくれているのが現状です。がんの痛みを和らげることは緩和ケアの一番大事なところなんです。

ということで、中川先生の「がんのひみつ」にも書いてあります。非常に大事な部分ですね。予防の反面、緩和ケアをどう患者さんに対してとっていくかという部分の中で、これも市長、市全体としてケアの部分に関しても取り組み、ホスピスというふうないろんな部分もあります。そういった意味で、どのような形で市全体としての取り組みを考えられていくのかどうか。また、新しい病院にもこういうような部分について、緩和ケアの体制もぜひともとっていただきたいということで申し出もしていただきたいと思いますが、御見解をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

県内の緩和ケアの病床については県立病院好生館と唐津市の河畔病院にあります。これは

この前、11月3日にシンポジウムがありましたけれども、やはりこの緩和ケアの病棟は必要だと思っております。

今、ただ、私自身もまだ勉強不足でありますので、行政としては、そういう市全体が緩和ケアの考えを尊重するというようなまちづくりをする必要があるだろうと思っております。

がんの予防推進協議会を中心として、地域ボランティアの皆さん、患者会、がん予防推進委員の皆さん等、あるいは地域団体の活動を通じて緩和ケアそのものについて学ぶことと同時に、これも杵島信用金庫さんから御紹介いただきましたけれども、山口県の周南市に「周南いのちを考える会」があります。そこがNPOとして、緩和ケアの病棟を運営されている。いろんな金銭面であるとか、さまざまな御苦勞があられます。そういったこともきちんと勉強しながら、ぜひ、こういう緩和ケアに対応ができるようなまちづくりを進めていかなければいけないと思っております。

ですので、ぜひ、こういう事例があるよ、こういうNPOが、皆さんたちがこういう事例をしているであるとか、あるいはこういう病院が、例えば開業医の皆さんたちが、こういう緩和ケアをしているであるとかいうことについては、議会の皆様方もぜひ全国の御視察にも行かれておられますので、そういう観点からもぜひ、情報収集をお願いしたいというふうに思っております。これを含めて、市民全体で勉強をしながら、こういった活動を進めていきたい、このように考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともよろしく願いをいたします。

ちょっと本を最後に御紹介して、がんの質問を終わらせていただきたいと思いますけれども、「緩和ケアは、人生の時間をくれます。私たちは、人は皆死ぬのだ。命には限りがあり、それゆえに尊い、命は尊いということも、もう一度考える必要があります。がんを知ることには豊かな人生を送るためにも必要なものです。」ということであつづられております。

私も55歳、同級生の友を10月に亡くしたということを冒頭申し上げましたけれども、その友からも、人となり、あるいは人のありようというのを身近に教えていただきました。学ばせていただきました。

そういった形で、このがん予防、がんに関しては予防日本一という部分の旗上げをされている以上は、ぜひとも日本一になっていただきたいということで、いろんな後押しを我々議員も一丸となってさせていただきますので、よろしく願いを申し上げて、最後の質問に入っていきたいと思っております。

ちょっと時間も迫ってきましたので、事業の継続と提案ということで、ちょっと確認を、

要約して申しわけないんですけども、話をさせていただきたいと思います。

学校サポート支援事業について、今、事業仕分けでいろんな予算も削られております。そういった状況の中で、学校に配置されておられます支援員制度、補助員さん、特に特殊学級というか、特別学級に補助員さんがいらっしゃいますけれども、これは緊急雇用対策で配置がされております。非常に、先生、担任の先生も助かっていらっしゃる部分が、また障がい者の方も頼りにされているわけですよ。また、今後、発達障がいのお子さんたちもふえてくるという状況の中で、補助員制度はぜひとも継続をしていただきたい。ただ、民主党では見直しをするという部分がありますから、これはぜひとも継続をしていただきたい。

また、子ども読書活動推進事業についても見直しをすると、最終廃止の決定ではないでしょうけれども、方向としては見直しをするというような話も出ております。この子ども読書推進活動事業に関しては、お話の会、あるいは子ども読書会、図書館子ども講座、あるいはブックスタート、いろんな面で少額の金額ではありますけれども、この事業は非常に効果が上がっています。

私自身も、教育はただ単に知識の詰め込みだけではなくて、人間教育といいますか、その辺が非常に大事な部分ですよ。これは何から養われていくかというぎ、本からですよ。やはり本を読み、本の中から想像力といいますか、いろんな読む力、読解力、想像力、あるいは理論的な思考が生まれてくるというふうな、非常に本の位置づけは重要な部分ですけども、この分はぜひとも、事業の継続をお願いしていきたいと思いますけれども、どのような来年度に向けてのお考えか確認させていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

今、議員さんおっしゃられたとおり、特別支援学級の支援補助員につきましては、これはやっぱり物すごい効果が上がっているし、期待もあるというふうに思っております。そういうことで、これは緊急雇用促進事業でやらせていただいておりますので、来年についてもお願いを今、しているところでありますし、そういう方向で動いてくれというふうに思っています。

それから、読み聞かせ事業、これについても、事業仕分けじゃなくて、これはもう市の単独のほうでやらせていただいておりますので、来年についても取り組みをしていきたいということで考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

冒頭に言いました。やっぱり事業の仕分けは当然です。ただ、やっぱり継続していいものは予算をつけながら、優先的に実施をしていただきたいということで、その支援員制度の継続、または読み聞かせ運動、ブックスタートあたりもぜひとも単独市費でも補助がつかなければ、そういうような形で予算をつけていただいて、やっぱり人間教育という部分の中での子どもたちを育て上げるという部分が非常に今後大切かと思えます。

ただ、そういった状況で子どもを育て上げるというような形で、きのうも質問に出ておりました。いろんな暴力事件、子どもたちの学校現場は非常に今、混乱といいますか、いろんな問題が出ております。ちょっと時間もございませんので、また改めて3月議会にこの辺は確認をさせていただきたいと思えますけれども、不登校、関係者の連携が大切ということで、白石町の稲佐英明さんが話をされておりますので、最後に紹介して終わりたいと思えますけれども、不登校、関係者の連携が大切ということで、ここで一番大切なことは話し合いの場を定期的に持つことである。どのような支援がベストであるかということの答えはないが、誠意を持ってその子どもと接し、一緒に悩み、一緒に解決していこうとする態度が、また態度を持つことが必要とわかった。つまり、重要視、共感、理解を促し、自己実現に向けて粘り強く支援していくことであるということで、経験者も話をされておりますので、長い長い支援でありますけれども、子どもたちのためですから、尽力していただきたいことをお願いし、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、10分程度休憩をいたします。

休	憩	11時36分
再	開	11時44分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、一般質問を続けます。

次に、23番江原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

23番、日本共産党の江原一雄でございます。私は今度の一般質問で、自己PRじゃありませんが105回目でございます。これまで市民の皆さんの思い、また山内町民の皆さんの思いを届けてまいりました。全力で市長、関係の皆さん方に質問を申し上げたいと思えます。

5点申し上げておりますが、まず第1点、市長の政治姿勢についてであります。

さきの9月議会の折、8月30日のあの総選挙の結果を受けて、市長に認識をお伺いいたしました。しかし、1点、格差問題についての認識を問いましたが、質問項目に通告していないということがございまして、答弁いただけませんでしたので、それから入らせていただきたいと思えます。

皆さん、今、日本のこの格差社会について、現状の認識をどう受けるか、認識しているか

は、私ども政治に携わる者として非常に問われていると考えております。その点で8月30日の総選挙の結果は、政治を変えたいという国民、市民の熱い思いが表明されたものであったと思います。主権者国民が自民・公明政権への退場の審判を下しました。

武雄市民の投票状況を前回も申し上げましたが、それを比例表で見ますと、自公の支持に1万3,473票、46.2%、民主党を初め社民党、日本共産党、みんなの党、国民新党、その他の党を含めまして1万5,661票、53.8%と投じられており、武雄市民の思いも全国と同じでありました。このことは日本の政治にとって前向きな大きな一歩であり、新しい歴史のページを開く、意義を持つ歓迎すべきものでありました。

国民、市民が総選挙の審判にかけた思いは、自公政権によってもたらされた耐えがたい暮らしの苦難に、そしてまた平和の危機を取り除きたい、政治を変えたいという強い願いがあったと考えられます。このことは8月30日の審判にとどまらず、その後の臨時国会、特に長年の願い、闘いでありました、すべての患者の救済に道を開く肝炎基本法など、また、原爆被害者の認定を求める訴訟の原告を救済するための原爆症基本法など成立をいたしました。紛れもなく地方政治の分野においても、国民、市民が政治を動かす大きな力として作用する土台となっているのではないのでしょうか。

私は最近、ある講演会の中で、この格差社会で日本もあわせて世界を見ますと、アメリカの格差はひどいものがあります。昨年、AIGという保険会社のアメリカの企業の会長の資産を聞きました。会長の邸宅といえば相当広いものを想像しますが、その邸宅の中にリフトを持つスキー場があるということでもあります。私は、こうした現実が世界や日本の中で起きている、この格差社会の問題。

私は今、新武雄市が誕生してこの4年の間に、国政の総理は小泉、安倍、福田、麻生内閣と続き、8月30日、政権交代で鳩山内閣5代目となる国政の流れを受けてきました。日本の政治の激動が裏づけられているのではないのでしょうか。特に、小泉、安倍政権のもと進められた構造改革路線の名前で押しつけられた政策によって、社会的貧困と格差が深刻となっています。それは武雄市民の市税等の決算状況でも、その深刻さが広がりを示しています。

私は、こうした格差社会に対する、耐えがたい暮らしの苦難を変えたいとの一念による、この日本社会の格差社会をどう市長として、これから武雄市政のリーダーとして認識をされているのか、まず選挙結果とあわせて求めたいと思います。よろしく御答弁のほどお願いを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

まず、先般の総選挙の件なんですけど、それに入ります前に、私は自民党はよくやったと

思いますよ。50年間、お隣の例えば中国とか、あるいはソ連であるとか、さまざまな難しい時代に自民党が与党となって、私たちの国家・国柄をよく守っていただいたと。それは、率直に私は歴史の重みとして、1ページとして私は評価をしています。近隣の国と比べてどうだったのかということ、思いをいたす必要が私はあるだろうと思っています。

そこに加えて、10年前になりますけれども、私も官邸におりましたのでよくわかりますが、公明党さんが入ってきていただいたということで、本当にそういう意味で自公政権はよくやってくれたと私は思っているんです。

じゃあ何でこの前ぼろ負けしたかということ、それはやっぱり政党疲労もあると思います。自民党が50年間政権を担ってきたということで、いろんなほころびであるとか、いろんな矛盾があるとか、そしてさまざまなことが出てきたと。それに国民の皆さんたちは、一回変えてみようじゃないかということ、そういう期待感を持って今回の選挙結果にあらわれているというふうに思っておりますので、何が何でも自民党がだめだとか、公明党がだめだとか、そういう話では私はないと思っております。むしろ、民主党の期待感に私は投じられたというふうに思っておりますので。そして、さっきちょっとおっしゃいましたけれども、余り他党と一緒に並べて評価をされるのはよくないというふうに思っております。

それともう1つ、格差社会なんですけれども、あくまでも、実感として私も格差社会が広がっているなというのは、認識としてそれはあります。生活者としても市民としても市長としてもありますが、我々政治家がぜひこういう議会の場で議論をしなきゃいけないのは、やはり数字の問題だというふうに思います。そういう意味で言うと、これは議員も読まれていると思いますけれども、首都大学東京の脇田教授の「マクロ経済の変動と分配」という極めて有名な日経研月報の2009年の9月にこのようなことが書いてあります。

高齢者世帯が増加する現状では、ほとんど収入のない世帯がふえて、ジニ係数——これは格差をあらわす数字でありますけど、ジニ係数は拡大をしています。しかしながら、適切に処理された後のジニ係数を見ると、格差は広がっていないと。しかし、平均は違いますと。大きく下がっている。これは脇田教授の見解でありますけれども、つまり、現実には起こっているのは、格差拡大ではなく、所得の減少であるということが数値としても出ています。ですので、勝ち組と負け組と分かれたのではなく、全体的に負けているというのが格差社会の真実であり、所得減少と言ったほうが正しく事態を表していますという論文が出ております。

そういった中で私どもは、こういう数字であるとかをきちんと分析して政策にのせていく必要があるだろうと思っておりますので、ぜひそういう立場から議論を本日の議会でも深めてまいりたいと、このように思っております。

いずれにいたしましても、格差社会と言ったときに、繰り返し申しますけれども、それが無いと言うつもりはありません。生活実感としては、それはあります。しかしながら、もう1つは、きちんと数字を見て、あるいは経済白書等を見て議論をするということもあわせて

必要なのかなというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

もう1点、具体的にそういう意味で自治体を——いわゆる市長就任以来、機構改革の中でこういう方針を示されました。平成19年のときに機構改革の部、課の設置の変更の提案がされました。今度の市長の施政方針演告にも、こういう文書がありました。近隣市町と比較しても人口の減少率は少なくなっている、こういう表現が挿入されておりますし、申し述べられました。近隣市町と比較する、いわゆる比較してどうだということを申し述べられております。

この機構改革の提案のときに、自治体を地域間競争に打ち勝つ自治体、武雄市政をつくり上げていくとスローガンで強調し、営業部戦略課という名称を制定されました。私はこの考えについて、自治体の役割は市民、滞在者の安全と福祉を保持する目的から外れて、自治体を競争させてその競争に打ち勝つ、当然競争することで勝ち組、負け組というレッテルを張りつけるわけで、このスローガンでいいのか。私はこれは外すべきだと、この市長の考えを問いました。

これについての認識と、先ほど言われましたように自治体を弾力的に運営したい、そういう思い。それから、オール市民でやっていきたいと、ぬくもりのある市政をと申されました。そういうときに、本当にそれがすとんと落ちない。そういうときに、市長の認識であります、地域間競争に打ち勝つ武雄市をつくっていくと。そういう意味で、近隣市町と比較して——以前に観光課のほうから、いわゆる観光客の宿泊数と交流人口を、こういう指標を提出されました。確かに宿泊客が武雄市も減っている、あるいはU市という近隣のところも減っている。でも、これは総体として減っているわけですが、この率を出して、その率が低いから武雄市が頑張っているとか、そういう表現に行き着いているわけですね。

ですから、私は近隣市町と一緒にあって、やはり今こういう日本の経済状況を打破していく上で、観光行政は力を合わせて頑張ると。そういう意味で、地域間競争に打ち勝つ自治体をつくっていくという、このスローガンを撤回してほしいということをこの間申し述べて議論してまいりましたが、あえてこれからの市政を含めても、本当にそういう意味では、これは認識として持っているか持っていないかは大きいと思いますので、今市政の中でそれが貫かれているわけですから、私はこの地域間競争に打ち勝つという自治体づくりの方針は撤回してほしいということを再度申し述べますので、市長の認識を求めておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は「武雄丸」の船長であります。そういった意味から、船長が何を考えなければいけないかということは、市民の安心・安全・安寧であります。その中で、これは佐賀新聞も西日本もみんなそうです。比較するときというのは、近隣の、例えば市町村との比較があります。それは私は結果として出てくると思うんですよね。ですので、競争に打ち勝つということについては、それだけ厳しい——夕張市がつぶれていくのを見ながら、やっぱりこれは近隣市町村に打ち勝つということ。それで、その結果、武雄丸の船長として、ワンマンではないリーダーシップを発揮しながら、それを昼夜、市民の皆さんの思いに思いをはせ、やってきたつもりでありますし、この姿勢は堅持をしていきたいというふうに思っております。

もとより議員、誤解されていると思いますけれども、私はほかの市長さんと非常に仲がよろしいです。それはなぜかということ、やっぱりもう皆さん気づいています。私も気づいています。それは武雄市だけ頑張っても無理、それは手に手を携えて、例えば新幹線もそうです。県境をまたいで5市のサミットを行ったりであるとか、あるいは伊万里市長さん、嬉野市長さん、しょっちゅう連絡をしています。そのときに、ほかの市長さんたちが武雄市に今何を期待しているか。それは、ぜひ小さなまちの大きな挑戦をやってほしいということと言われています、そしてあわせて引っ張って行ってほしいということまで言われております。

その結果として、例えば人口減少の比較で言うと、平成18年度の減少率が武雄市は佐賀県で4番目だったのが、19年度は一番減少率が低くなっています。それと、20年度においても2番目に位置すると。そういう市民の皆様たちの一致団結、そして切磋琢磨がこういう数字として結果に出ていると。これは議会の皆さんたちのお力あってこそであります。そういうことで私としては、だんだんお話をしているうちに議員と余り認識が変わらないということもわかってまいりましたので、この辺で答弁にかえさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	12時
再	開	13時22分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き、午後の会議を開きます。

23番議員、質問を続けてください。23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

2問目の市民病院問題について質問をいたします。

昨日ときょうの市民病院問題に関して市長答弁を聞きながら、紛れもなく医療法人池友会への民間移譲が2月1日から進むわけですが、この間の論点を整理しながら市長に質問したいと思っております。

まず第1点、その後もさまざま視点を変えた質問を各議員されるかと思いますが、私は2点に絞って、その1点。

昨年、8月1日から池友会の応援を得て、医療行為を進められてきました。その中で、8月11日に救急再開をするということで、救急車の入る入り口の改修工事を425万2,500円で工事をされました、あわせて1病棟ICUの改修工事にも392万2,700円、合わせて817万5,200円を投入されました。これは随意契約ということですが、随意契約は幾らから随意契約の基準になっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

工事の場合につきましては、130万円というふうに規定されております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

先ほど示しました金額、救急外来入り口425万2,500円とICUの改修工事392万2,700円、先ほどの130万円という随意契約との整合性を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

昨年の工事でございますけれども、御承知のとおり、4月から救急車の受け入れができなくなった。それから、午後の診療につきましても休止せざるを得なくなったと。そういう状況の中で、7月に移譲先が議決をされました。そういうことで、その後は救急の受け入れを早期に再開するということが至上命題というふうになっております。私どもとしましては、救急車の受け入れができないことによって、人命にかかわってはいけないということもございますので、人命第一ということを考えまして、7月16日の臨時議会後に整備等々を行ってきたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

ですから、契約の視点で副市長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

○古賀副市長〔登壇〕

工事の契約は、工事の相手方と病院側のほうで契約をされたと思います。それで、今御指

摘の随意契約で適切だったかどうかという御質問でしょうか。ちょっと内容がよくわかりませんでしたけど、適切に契約を結んで処理をしたと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

これは同じ会社なわけですね。北九州市小倉北区のワン・オフという株式会社。当時、8月のとき事務長でありました伊藤事務長の答弁は、お盆に差しかかって緊急を要するというので、お盆に対応できる方が地元にはいないという答弁でした。先ほど言いましたように、8月のお盆で対応できる業者が市内にはいないんですか、政策部長。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

当時病院のほうで対応された、業者等をいろいろ調べられた結果だろうというふうに思っています。当時はなかったというふうに聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

あるんですよ。当時、伊藤事務長、今理事として、伊藤当時事務長に求めます。

今、政策部長はないということを申されました。当時、担当部長として、事務長としてどういう調査をされたんですか。また、関係部局とどう調整をされたんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

現在私が担当いたしておりますので、私のほうからお答えをさせていただきたいというふうに思います。

先ほど政策部長のほうからもございましたけれども、7月の移譲先の決定後、早急に救急医療を再開したい。その一念で業者を探しましたところ、北九州の業者がその当時工事ができるということでございましたのでお願いをしたということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

私は当時、昨年9月議会でこの問題をお尋ねしたときに、盆でどうしようもなかったからということで817万5,200円、救急外来とICUの工事をされました。では、決算委員会の中で資料をいただきました。その資料を見ましてびっくりたまげたわけですが、同じ業者に10

月31日、ワン・オフ株式会社にリネン庫、食堂修繕を発注されました。そしてもう1回、昨年12月12日に同じワン・オフ株式会社に機能訓練室修繕として210万円の工事発注をされているではありませんか。この総額1,261万6,700円、いわゆる昨年同じワン・オフ株式会社に改修を頼まれた。これすべて随意契約でやっている。

先ほど随意契約は130万円までだというふうに答弁されました。私はここにこういうやり方で、地元の業者をほったらかしてやっているところに、私は今回の市民病院問題の移譲劇が、本当に手順どおりでない、指摘をしたいと思います。

具体的に言いますと、平成21年度の8月、ことしの8月11日臨時議会、お盆前にされました。このとき約8,000万円のいわゆる医療器具と、またICUの増床工事を4床、予算が可決をされて、ことしの12月1日から市民病院のICUの稼働が始まりました。この工事の設計に携わった方は地元の設計業者さんであります。そしておまけに、この仕事に携わった方も6名で指名競争入札をされて、地元の建築業者が落札をされておるわけです。ですから、平成20年度と21年度の結果を見まして、昨年の工事発注の仕方は、私はそのやり方は、間違っていたんじゃないか、仕事の発注の仕方、行政としてのありようとしてはおかしいと指摘せざるを得ません。

そこで、昨年の9月18日、この市民病院において焼き肉会が行われたそうであります。この焼き肉会に市長、参加されたんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

はい、参加いたしました。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

では、この材料等、だれが負担したんですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

参加者の会費で運営されたというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

じゃ市長も払ったんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

はい、払いました。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

金額は幾らですか。全体の収支を報告してください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

この場に資料は持ち合わせておりませんが、これは公務とは異なりますので、ここでお答えすべき事項ではないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

公務ではないと言いながら、特別職と個人的といいますか、病院に関係ない人だけでしたわけですか。関係者はみんな呼んで参加していただいて開いたんでしょう。何も公務と区別すべきものではないと思いますが、市民病院の施設を使っているわけですから。まして会費を払っていない人だっておるわけですから。

今市長は、自分は会費を払ったと言いましたが、この材料を提供したのはどなたですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

なぜこの懇親会が威厳のある議会で議論になるかというのは私にはわかりませんが、基本的に開かれたことを記憶をたどりますと、私自身は会費を求められましたので会費は支払いました。その上でいつやったかという、勤務時間外であります。恐らく、私が途中で駆けつけてまいりましたので19時半前後だったと思いますけれども、スタートは公務時間外だったと思っております。

そして、市民病院の敷地とおっしゃいましたけれども、一番奥の駐車場、3段目の駐車場で行っております、あれはたしかバーベキューパーティーだったと思いますので。そういった意味で、外形的に見ても何ら——私も特別職ですけれども、そういったのには呼ばれたら参りますし、何が悪いのかというのがちょっとよくわかりませんが、そういう意味で言うと、先ほど部長が申したとおりの公務とはちょっと関連のない、私自身は懇親の場だというふうに、そして市民病院の職員の皆様たち、これは医師も含めてでありますけれども、

本当によく頑張っていたいただいておりますので、そのねぎらいの意味を込めて私自身も、ほかにちょっと用事はありましたけれども、そちらのほうに参ったと、そういう次第であります。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

時間外だから公務ではないと。公務か否かの論争は別にしまして、いわゆる勤務時間中にその参加を呼びかけているわけですから、当然、その延長線上と言われてもしょうがない。と同時に、答弁されませんが、この材料を提供したのはどなたですか。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

お答えすべき事項ではないというふうには思いますけれども、この分につきましては先ほど私、会費で運営をされたというふうに申し上げましたので、同じ答弁でございます。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

一切報告されませんが、これを見ている関係者の皆さんは内容をよく御存じですので、この焼き肉会について、皆さんの当時の実態を後で詳しく調査しておきたいと思います。

一言申し上げるのは、先ほど言いましたが、このワン・オフ株式会社かもわかりませんし、というよりも、そこに参加した人は、お返しをしたいという話がありましてこういう企画になったと、そういうふうには私は聞き及びますので、だからこそ先ほど申しましたように、そういう受注のあり方と受注後の、いわゆる10月も12月も同じ会社が受注をされている。もう紛れもなく私は昨年、不透明なことがあったということをおかしいということ指摘しておきたいと思います。

次に、もう1つ市民病院問題で、これは以前は市民病院の倉庫になっていたところに「学校法人福岡保健学院（仮称）武雄看護リハビリテーション学院開設準備室」という張り紙が張ってありました。いわゆる昔の結核病棟の入り口の昔は倉庫だったそうですが、いわゆるあいていた倉庫に「学校法人福岡保健学院（仮称）武雄看護リハビリテーション学院開設準備室」という張り紙が張ってありまして、中に人がおられて事務を取り扱っておられました。

私は、この問題について昨年も、福岡保健学院というのは、これは（パンフレットを示す）ある高校に就職、進学進路室に置いてあった福岡保健学院のパンフレットであります。その理事長は蒲池真澄氏であります。

私はこの福岡保健学院、市長も先ほど、そしてきょうの答弁にもありましたように、池友

会と一緒に医療のほかには学校法人として、福岡保健学院グループとして、これは西日本新聞に全面広告が12月3日付で載っておりました。

これを見ても、もう紛れもなく市長は看護系専門学校を誘致するという事を、市長着任以来、今年の時事通信社のインタビューに答えたではないですかということ指摘いたしました。これが平成18年5月17日の時事通信社の市長答弁であります。答弁じゃないですね、市長のインタビューに対する答えであります。看護系専門学校の誘致に向け動いていると、こう述べておられます。でも私が質問したときに、この質問に対して「記憶にありません」と申されました。それでも、今でも記憶にないんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、そういう質問の仕方というのはルール違反だと思いますよ。一つの事象に対して、あなたの質問が、そういう時事通信に載っていたことを記憶しているかということがありましたので、これについて私は答弁におきまして、私は最年少市長でもありましたのでさまざまな取材を受けてまいりました。その中で、ワン・オブ・ゼムとして、そういったことまで細部に記憶していないということを申したのであって、看護系学校の部分について記憶にないということは申したつもりはございません。

そして、江原議員の再度の御質問で、その看護系学校はどういう趣旨で言われたのですかといったことに対して私は真摯に、あの当時、私は関西大学等、いろいろ高槻に誘致したこともあって、つながりがあって、これはちょっと答弁したか記憶に定かではありませんが、大阪医科大学との連携も強化をしておりました。その中で大阪医科大学の佐野教授から、いや、これから看護系学校というのは必ず地域にとって必要になるというアドバイスを賜りまして、それが私が高槻時代にいただいた言葉である。それを踏まえて私は着任したときの、時事通信とおっしゃいましたけれども、時事通信や日経新聞でそのようなことを伝えたということは事実であります。

それと、私はあくまでも、この議会でもいろんな場でも重ねて真実を申し上げておりますけれども、じゃ、それ以降、池友会といつ会ったかという話については、その年の冬であります。それが12月なのか1月なのかというのはよくわかりませんが、冬寒い日に会いたいということで会いましたので、全然脈絡も関係もないということで答弁をさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

看護系専門学校を誘致したいと一方で言いながら、地元の現状を把握されていなかったというのが暴露されました。それは地元医師会立の看護学校に准看コースしかない、武雄には正看コースがないという答弁をされました。その後、当時の大田副市長が市長にかわって答弁の訂正をここでされました。

医師会立の武雄看護専門学校は、准看コース35名、正看コース35名で運営をされ、この運営に対して武雄、杵島郡の自治体が補助金を出しています。幾らでしょうか。（発言する者あり）

資料が正確では——約400万円となっております。そのうち武雄市が220万円、お隣の大町町、江北町、そして白石町が一緒になって、いわゆる地元医療体制の発展のために自治体が支えて共同して運営をされているわけです。そういう点で、今現在、武雄医師会立看護学校正看コースには3年の学年がありまして、定数105ですが、108名を超えているそうであります。本当に一生懸命看護を学んでいくために頑張っておられるようであります。また、准看コースにしましても、2年コースであります、定員70名の中で頑張っておられます。

県内に6カ所、この医師会立の看護学校が鳥栖市、佐賀市、唐津市、伊万里市、鹿島市、武雄と6カ所、県内の医療の発展のために、その学校教育に邁進をされております。そういう現状を市長は知らなかったのでしょうか。武雄地区のこの医師会立に正看コースがないと、そういう点では本当に医療に携わる医療関係者の共同した力で、この武雄市民の医療、福祉、介護、まさにオール一丸となってやろうという立場ではなかったのではないかと指摘せざるを得ないんですよ。

一方的に、先ほど申しました看護系専門学校誘致をしたい、あるいは昨年5月30日、特例措置の条例を提案されました。民間移譲を図る、そのために公募を提案されました。そして7月16日、池友会への移譲を議会で可決をされました。そういう市長のこの間の市民病院の移譲のあり方が、本当に地域の医療関係者、武雄市内はもちろんのこと、全県のそうした方たちと力を合わせて武雄の医療、施設の維持のことについて議論があったのかという意味では、非常に薄かったということを指摘しているわけです。

そして、そういう意味で、では、これからどういう地域医療が求められるかといいましたときに、昨年市長は、医療城下町をつくりたいのが自分の夢だと申されました。それが現実はこの間、きのうもきょうも説明されておりますが、まさに医療城下町を民間であります池友会の力をかりながら、市政全体の医療、介護、福祉のゾーンとして中心として担っていく、それが農業や観光にも波及していくことをやる答弁されました。

私は、この間の経緯等踏まえまして、そうした思いが、ちぐはぐのかけボタンになっているのではないかと指摘をしているわけです。そういう意味で、この間、市長も言われました。この議会が本当に議論の場として重要だというのは、それは本当に私も当たり前だと思いません、当然だと思いません。と同時に市長の答弁は、こういう形で毎回、毎回、武雄市議会は私

たちの発言がすべてこういう議事録として各議員に配付をしていただきます。そういう意味では市長の答弁は重いし、本当に一つ一つの答弁に当たって吟味してみますと、この間の市民病院の移譲のあり方は、まさに異常ではなかったかと指摘すると同時に、今後の問題があわせて出てくると考えております。

そういう点で、この件について、先ほど示しました市民病院に池友会の福岡保健学院の開設準備室を設置していることについて（写真を示す）まだ市民病院の施設であります。なのに、もうこの開設準備室を設置して準備をされている。これは余りにも地域の皆さん、医療関係者含め、私も含めて、市民病院のありようを指摘せざるを得ませんし、時間もありませんので3点目に御答弁を求めたいのは、1月31日で市民病院として閉鎖をすることによって、2月1日、新武雄病院と申されております、巨樹の会イコール池友会の病院経営に変わっていくわけですが、職員の皆さんの雇用の継続状況はどのようになっているのでしょうか、御答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

3点質問があったと思いますので、私で答えられる範囲は私で答えたいと思います。

まず、だれにも認識の間違い、言い間違いはあると思います。確かに、勉強会の場では事務方から正看等看護学校があるよと、杵藤の看護学校あるよと。それをちょっと答弁書もいっぱいありますので思い違いをして、そこで自分の答弁として申し上げたつもりであって、その際、直ちに副市長が修正の答弁をされたということで、答弁としての肯定力はこの場合は副市長の答弁が持ちます。

そういった意味で私も言い間違いがありましたので、これはやっぱりいかんと思ひまして、当時の医師会に謝罪をいたしました。それをもって、ここでそこまでやっぱり言われなさいいけないのかなということは思います。あくまでも、やっぱり人間だれしも言い間違いであるとか、そういったことがありますので、それをもって何ていうんですかね、全体の信頼性を失墜せしめるような御指摘というのは、私はいかがなものかなというふうに思っております。

それと、リハビリテーションの準備室の関係でありますけど、これは詳細は後で担当から説明をしてもらいますけれども、当市の調印というのが重畳的債務の引き受けというのがあって、調印のときにでも池友会、巨樹の会、並びに福岡リハビリテーション学院が同席をしておりました。そういう観点から、実際スタートする前に一体として準備をするということは、これは国の機関でもよくある話であります。

そして、私がちょっとあれっと思ったのは、何か盗み撮りみたいな形で写真を出された。そのものを出すということは悪いことではないとは思いますが、それを何かこう、あくまで

も公の施設でありますので、それは一たん公の施設の管理者にきちんとそれを言って——許可をされているのかどうか私は知りませんでした。ですので、それをしてからされるのが私は、これはあくまでも今施設、公の施設という観点から、それを行われるのが私は礼儀であり、私はそれが議員活動に求められていることではないのかなと、私はそのように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀市民病院事務長

○古賀市民病院事務長〔登壇〕

病院内に福岡保健学院の学校の開設準備室ができております。これにつきましては、病院のほうで専決ということで許可をいたしております。期間につきましてはですけれども、11月1日から1月31日までということで、行政財産の目的外使用の許可ということで出しておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

職員の雇用についてでございますけれども、これについては全員継続して雇用していただくということを条件に、またそういうことを認めていただいておりますので、皆さんに全員就職していただくようにというようなこととお話をさせていただいております。これまで2回にわたって面談を実施してきておりますけれども、いまだ継続雇用の意思を保留されている方もございます。今月もまた鋭意慰留に、継続して勤めていただくようにお話をしていきたいというふうに思いますので、現時点ではまだ数字としては確定しておりません。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

私が写真を示したことを市長はおかしいと言われましたが、責任は市長でしょう。これは11月1日、先ほどの答弁で行政財産の目的外使用ということで、当然市長が決裁したわけでしょう。それを私がここでこうして示すことがおかしいんですか、間違いですか。市民の共有財産の建物ですよ。それをここで公に示したからいかんと言われるなら、その市長の頭がおかしいんじゃないかな、私がおかしいんですか。

だから、これは職員の皆さんがどう思うかわかりませんが、私が指摘していることを市長は、何か私が回りくどく質問しているように市長は答弁されますが、私はここまで事が進んでいるんだということ、これを見て私はびっくりしたわけです。ですから、私も昨年、平成19年の12月議会で市長は福岡の和白病院との接触を認められる答弁をこの場でされましたので、福岡のほうまで、現地まで見学に行きました。もちろん、病院とあわせましてその隣接

地域に、いわゆる一帯にリハビリ学院、看護学校、そういうのが運営をされているところを見てまいりました。

この間、約3年にわたって市民病院問題が議論されてきたわけですが、私はこの一番最初のボタンかけのときに、本当に地域医療をどういう形で担うかというのは、平成12年に国立から武雄市民病院として継続して地域の医療を賄おうということで、武雄市民病院が全体の合意の中で確立をし、さまざま論議の中で運営をこの8年されてきたわけです。これは紛れもなく平成19年度上半期黒字で、一丸となって頑張っていた職員がおられたという、そういう事実があるわけですから、この間の民間移譲のありようは、その土台を支えに議論しながら進んだのではなくて、その土台をわきに置いて、この医療法人と学校法人、福岡保健学院が一体となって市長がこの武雄市議会の場に持ち出してこられた、そういう思いが私は、もちろんプレゼンテーションで公募したとおっしゃっておりますが、そういう指摘をせざるを得ないし、具体的にこの行政財産の目的外使用は、市長は当然認められたわけでしょうが、どういう基準で認められたんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ちょっと申し上げたいのは、私の答弁を正確に引用してほしいと思うんですよね、私の答弁を引用される場合は。というのは、先ほど私は、その写真を見せること自体は悪くはないと思っております。それは議会活動の一環であると。しかし、これは行政財産でありますので、その写真撮影をするときは、この議場もそうです、必ず設置者の許可が要ります。これは当然の話だと思います。

ですので、その話はさっき古賀事務長にも確認をしましたけれども、こういった目的で使用するから写真撮影の許可が欲しいというのは来ていないと。それをもって私たちはだめだと言うつもりは全くありません。ですが、病院は高度なプライバシーがあります、そして、いろんな私も知らない部分があります、それは、最も人間の真たるプライバシーが、私はそこにあるというふうに認識をしておりますので、それが全く無許可にそれを出される、その手続がやっぱりおかしいんじゃないかというふうに指摘をせざるを得ません。

そして、先ほどの答弁で事務長が、病院の公的財産の目的外使用については専決処分をしたということであり、私もその報告をきちんと受けておりますので、何ら問題はないと思いますし、むしろ一体的な活用として、それは市民感情からしてもむべなるかなというふうに理解をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

何かあべこべに答弁をいただいているようで、さも私がこの写真を撮ってここで見せることが犯人みたいに申されておりますが、それは明らかにそういう事実を問い合わせなかったと、手続がおかしいと。私は、それは余りにも市長の指摘するのをおかしいと申さざるを得ません。

この市民病院問題で、そういう点でこの間の医療系、看護系専門学校を誘致したいと申されていることと、平成19年12月23日に新行橋病院の10周年記念レセプションに市長は、当初は話を聞いていると言いながら、次質問された議員の方には、この10周年記念に招待されましたと、こういう答弁をされました。私はこの経緯を踏まえて、本当にこの答弁は市長の政治姿勢にかかわる、市長の政治家としての資質の問題を指摘せざるを得ません。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員、質問の論点を整理して質問をお願いしたいと思います。先ほどより議員からも出ております。

市長の答弁の中で、何か手法的な問答になっておりましたけど、病院内の写真撮影なんか特に注意をして、責任者の許可を得て撮ってくださいというような発言やったですよ。いけないとは言っていないと。しかし、それを使用する場合も機密とか、病院内は特にいろいろな器具とか、そういう機密部分があると、また患者さんも入院されておる。そこら付近を十分に注意して写真は使用してくださいと、また、それを撮るときにも許可を取ってしてくださいということですので、市長の答弁の中身は何も間違いはございません。

〔23番「じゃ、そういうのをちゃんと玄関とかなんかに張っていますか。玄関に張っていますか、そういうのを。そんなことを言うなら」〕

そして、質問は論点を整理して質問をしてください。質問を続けてください。

○23番（江原一雄君）（続）

今議長が指摘をされますが、写真の件で過去、病院で撮影したらいかんですよと、そういう禁止事項を書いていますか。そういう私の質問に対して、あべこべに反論されていることは、言語道断だと指摘せざるを得ません。時間がありませんので、次の質問に入らせていただきます。

人事の問題について質問をいたします。人事につきましては質問項目で、平成18年3月31日付で武雄市職員であった米原正彦さんに対して懲戒免職が決められた件につきまして質問をいたします。市民が知ったのは、マスコミ、新聞で4月1日付で678万円の

○議長（杉原豊喜君）

江原議員、固有名詞を今使われましたけど、それは了解しておられるですね。

○23番（江原一雄君）（続）

はい。市民が知ったのは、マスコミ、新聞で4月1日付で678万円の横領着服で処分を決定したと報じられました。今でも市民にとっては、これしか情報はありません。

処分を受けた米原さんは、この処分を不服として、みずからの人権を守るために意を決して、県の人事委員会に平成18年5月26日に不服申立審査請求書を提出されました。私はこの処分の真実を探るべく、県の人事委員会の審査を傍聴してまいりました。通常、県の人事委員会は書類審査が主であるとのことですが、米原氏は、公開される裁判所の形式をとる公開口頭審理を選択して進めて、市民に真実を知ってほしい形式をとられました。

しかし、県の人事委員会が平成20年9月10日に裁決されておりますが、それを待つことなく、一方で平成20年9月10日、同じ日付で同じ日にちに佐賀地方裁判所に提訴をされ、今現在審理が進められております。この審理を私も傍聴いたしました。今現在、ターンテーブル形式といって、裁判長のもとで双方の弁護士による論点整理が進められております。この間、処分決定から3年9カ月もたっております。なぜこんなに時間がたっているかは、処分に当たった経過が不透明な点であると考えております。

その第1に、この一件が合併前の旧北方町で行政事務の中で起こった出来事であります。そしてまた御存じのとおり、3月1日に新武雄市が誕生いたしました。しかし、このことは、まだ新しい市長も新しい市議会も不在という状況でありました。米原氏は教育委員会に出向しているという意味からいきましても、処分のあり方が教育委員会で進められ、当然新しい新市の市長のもとに、市長部局に戻すべきではなかったかと申されております。

このような特殊な時期に、この処分判断を拙速に、緊急に、まさに教育委員会が直接本人に尋問もせぬまま処分決定が進められたのはどうしてなのか。その当時、総務部長として、その事務の責任者でありました大庭部長に、この処分決定に至った理由について、拙速に行った理由について答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

この事件につきましては、教育委員会内における事件でありまして、職員の任命権者である教育委員会が処分するというようなことは当然であるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

私はたまたま旧山内町の出身ということがありまして、旧山内町の議会に籍を置いていた者として、今部長答弁申されましたが、過去に山内町で教育委員会に出向した職員が、いわゆる事件が起きました。

このときの処置の仕方は、本人が平成13年12月26日に辞職願を提出をされました。そして、教育委員会は平成13年12月31日、町長部局に出向を命じています。そして、町長部局は

同じ平成13年12月31日、処分をせぬまま職を免じております。そして、年を越して平成14年1月4日に退職年金の手続をされております。これが1月22日、新聞で報道されまして、そして平成14年2月4日にちょうどたまたま臨時議会が招集されておりました、この席で開会前に全員協議会を開かれ、私どもその当時の書類をいただき、この事実を確認することができました。その書類をこうしてとじておりました。

私は、この例からいきまして、本当に今回、米原氏に対する処分のあり方が、本人の聴聞もないまま処分が決定されている。拙速と言わずして何でしょうか。本人が県の人事委員会に申し立てる。その県の人事委員会に対して不服申し立て、疑問を持って、あえてみずからの人権を明かすために弁護士と相談し、到底承服できないとして提訴をされました。これが平成20年9月10日であります。

先ほど旧山内町の例を申しましたが、本来、拙速に扱うのではなく、教育委員会に出向している職員を市長部局に戻して、そしてちゃんと本人の——新しく市長や、また私ども、いわゆる議会が機能する、そういう状態にして本人の審理を十分しなかったことが、3年9カ月もの間、長引いている事実ではないでしょうか。その当時、市長、私ども議員も新聞報道だけで聞いておりました。そういう意味では、この件について今現在その職にあって、提訴の相手方として市長は臨んでおられるわけですけれども、この件についての市長の認識を求めておきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはあくまでも今係争中でございますので、私からのコメントは差し控えさせていただきます。司法の判断を待ちたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

市長の認識としては当然そのとおりかと思えます。多分、事実が明らかになって本人の名誉が回復されることを切に望みたいと、指摘をしておきたいと思う次第であります。

次に、4点目の農政についてお尋ねをしたいと思います。

本当に今、昨日も農政について、農業に関することの質疑がこの議会でも起こっているのは、それだけ産業の問題として第1次産業の問題、農林漁業の問題、当武雄市は漁業がありませんが、農林漁業の衰退は皆さんの感じている点であります。そういう点で、ぜひ言うてほしいということで畜産農家の方々から申されました。

これは日本農業新聞の連日の日刊紙であります。畜産農家も今危機に瀕しています。いわゆる不景気、デフレということがあって、いわゆる消費が伸びない。その消費が伸びない、

そういう中で畜産農家の危機を連日報道しております。市長は一方で、市の起爆剤としてレモングラスを導入されて、その発展に投資をされております。

畜産農家のある方は、レモングラス課長がおるなら畜産課長を紛れもなく位置づけて、畜産、家畜農家というのは、やはり日本の農政の中で日本の国土を守ってきたのは、2,000年来のこの豊かな農地を守ってこれたのは、お米と同時に、その一方で家畜の役割は大きかったのではないのでしょうか。畜産課長をつくってほしいというこういう思い、市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今まで畜産農家、そしてその関係者が払われてきた御努力、あるいは御尽力に心から敬意を表したいと思っております。日本のたんぱく質の供給であるとか、例えばカルシウムの問題であるとか、さまざまなことに本当に昼夜御苦労されているということは、私自身も地域回りをして本当にそのように思っております。そして今、牛乳の値段が安い、飼料の高騰でなかなか利益が上がらない、さまざまな悩み、これはJAの小池議員もいらっしゃいますけれども、常に話をしている次第であります。

その中で畜産の振興に、課をつくるといったことについて、例えばこういう方策だったら、それは起死回生のものがあるということは、ぜひ江原議員から教えていただきたいと思っております。そして、もう1つ、私が今の民主党に感心するのは、さまざまな議連を責任持って今立ち上げておられます。ちょっと畜産議連があるかどうかはわかりませんが、こういったことこそ、私はある意味政治主導の話だと思っております。

ですので、やはり江原議員は私の100倍ぐらい畜産について造詣も深いし、思いもあられると思しますので、ぜひ江原議員を中心として議連を設立していただいて、その上で私どもを御指導、御鞭撻していただくのも、今の私は民主党が言う政治主導にかなっているのではないかと考えております。

ですので、器はつくって魂入らずということになると、かえって私は御迷惑をかけることになりかねないかなと思っております。そして、レモングラスそのものもレモングラスだけではなくて、畜産を含めて他の農産業に波及効果を考えやってきたと。その効果が今現実に出つつあるということは、ぜひ議員にお伝えをしたいと。重ねて答弁はしておりますけど、私の思いはこういったところにあります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

農政の本当に力の要る仕事ではないかと私も思います。これは過去、山内町時代に平成6年から平成17年度の合併年度まで、前の年まで、山内町活力ある農業農村推進大会を年1回、行政と農業委員会と農業団体、JA農協の皆さん、三者一体になって農業の発展のための推進大会を開いてきました。新しい武雄になりまして、いろんな大会があります。そういう中で、農業に関してはないんではないかなと思いました。

今市長も言われますように、私は本当に1次産業の土台を築くためにも、5万の人口を有するこの武雄市の中で、こうした農にかかわる人、今、食育大会等もありますが、その源は生産者であります。一体になった農業農村の推進大会、私はこれを企画していただきたいなと申し述べたいし、当時3団体と申しましたが、武雄、杵島、農林、森林組合がございます。文字どおり、林も含めまして4団体、いわゆる農業、農にかかわる方たちの団体も含めまして、こうした推進大会、発展大会を望みたいと思いますが、その認識を求めておきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、私のところ、あるいは担当のところには、JAの皆さん、そして農業関係者から、そのような大会の要望等は實際来ておりません。ですので、それは多聞第一、農業関係者の方々がやっぱり行いたいということであれば、それは真摯に受けたいと思っております。

そして、私はもっと問題は切実なんじゃないかなと思うんですね。大会をイベントとして行うことの意義を私は否定をいたしません。しかし、それよりもやはり直接の所得、直接の雇用が今求められていると、そこに地味でありながら、きちんと政策を打っていく。それはとりもなおさず、販路の——これはレモングラスからつながる話でもありますけれども、販路をきちんとつくる、あるいは物産祭り等できちんとアピールをすると、そういった地に足のついた政策を私は今求められているというふうに認識をしておりますので、いずれにしても、これは畜産を含む農業関係者、JAの皆さん等よく話を聞きながら進めていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

当然、市長の答弁のとおり私も賛意を示すわけでありまして、各団体の思いも聞きながら、そういうこの場で、議会の中で一つの考え方として市民の皆さん、また農業団体に関係する皆さんたちの思いが合致して、ぜひ農業が未来ある、夢がある農業、その推進のために邁進したいと思えます。

そういう中で、市長がやられているレモングラス、この事業に対してこの3年間、どうい

う市の投入をされたか、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

レモングラスにつきましては平成18年ですかね、合併して市長が誕生して、その年の12月の議会で市長がここにレモングラスを持ち出して発表して、その翌年度の19年度にまだ農林商工課の中でやっておりましたが、19年度は試験栽培に投入をしております。金額でいきますと250万円程度。それから、平成20年度につきましては本格的な栽培を始めまして、加工の施設の建設、それから市場開拓等を行って、これに約400万円程度。それから平成21年、ことしですが、ことしについては先ほどの市場開拓、それから九州大学との研究開発、そこに要して420万円程度ということ。

それから、体制でございますが、19年度は、さっき言いましたように農政のほうとの兼務でございます、これは3名の兼任職員。それから、平成20年からレモングラス課を配置しまして、これについてはほかの特産品関係と兼務で、専任が3名ということでございます。それから、平成21年度についても専任が3名ということでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

部長が答弁されました。19年、20年度にわたりまして、レモングラスの推進費として1,068万円、あわせて人件費として、職員が平成20年は兼任が3名、平成21年は専任が1人、兼任が2人、合わせまして2,780万円、合計3,848万円の投入をされて推進されてきました。

この事業のほかに平成21年のレモングラスの担当職員の出張や、あるいは営業は、まさに年数回にわたっているのではないのでしょうか。市長もさきには台湾に出張され、トップセールスとして推進をされた記事が載っておりました。その出張旅費は幾らになるか求めておりませんでしたので、何回ぐらい出張しているのか、どれくらいの仕事をされたのか、後日お示しをいただきたいと思えます。

私は、これは農政を語る上で、本当に市長はレモングラスの問題について、これだけ一方で投入されております。先ほど申しました農業農村推進大会、各関連団体の皆さんの力を合わせた、武雄市農政のために一助になりたいと思う次第であります。

時間がありませんので、第5点の支所存続の問題について。

さきの9月議会の中で、支所存続の問題でJ A農協の借用の件について答弁されましたが、市長はブログにも200名を超える方が利用していただければいいということで申されましたけれども、J A山内、住吉支所管内で1,600名を超える組合員世帯がおられます。私は、こ

の市長ブログに書いた200名というのほどから数字を持ってこられたんかなとびっくりしましたが、それぐらい山内町民にとって農協とは切っても切れない関係が強いわけでありませぬ。

そこで、支所のあり方について、733名を超える方々がJA佐賀農協組合長にJAの支所存続の署名を提出されております。そういう思いを込めてですが、市当局として支所存続というよりも、合併協議会の中で本庁舎と支所を置くということで確認をされております。支所の今後の見通しについて、御答弁を求めておきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

支所の今後の活用方針について、私から答弁をいたします。

まず、合併協議会の結論を踏まえて、本所と支所という3組織体制ということは堅持をしたいと思っております。その中で私といたしましては、これは役所全体の方針でありますけれども、支所の有効活用をぜひ図っていただきたい。これは本庁も同じであります。ぜひその場の有効活用を図っていただきたい。

そういった意味で言うと、例えば北方で申し上げますと、子育て総合支援センターであるとか、あるいはあいつたところに武雄市の社会福祉協議会が入っていただいているとか、北方の役場の2階に消費者相談センターに入っていただいたりとか、そして武雄の本所の場合は1階にキッズステーションがあるとか、さまざまな形で市民に——そして山内支所の場合は、これは多分日本で私は最も今進んでいると思ひますけれども、1階に作業所を集約していただいているとか、あるいは2階に——済みませぬ。2階か3階か、ちょっと今つまびらかではありませんけれども、商工会に入っていただいたりとか、さまざまな団体の皆様方が団体あるいは市民の共有の財産として活用をしていただくと、そういう方針はぜひ堅持をしたいというふうにお思ひしております。

そういった中で、私としては重ねて申し上げますけれども、本所、支所の有効活用をぜひこれからも図っていきたいと思ひしておりますし、市民の共有財産として、そのような認識をぜひ共有したいなど、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）〔登壇〕

時間が来ましたので、これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番江原議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、3時まで休憩をいたします。

休	憩	14時37分
再	開	14時59分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次に、21番吉原議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

本日4番目でございますが、大変朝早くから議会始まっておりますけれども、議長の登壇のお許しをいただきましたので、ただいまから21番吉原武藤の一般質問を始めさせていただきます。

通告に従いまして、まず初めに環境問題について質問をさせていただきます。

国会も自民党政権から民主党政権へ移り、各政策にも変化が見られるようであります。環境問題につきましても、鳩山首相は温暖化を食いとめる戦いは、今世紀の人類が全力で取り組まなければならない最重要課題である。日本は、2020年までに1990年比で25%の温室効果ガス削減の国際公約が発表をされました。

森林のCO₂吸収機能は広く知られているようでございますが、海の植物群の恩恵は余り知られていないのが実態ではないでしょうか。日本の海岸に広く分布する遡上や亜熱帯のマングローブ林など、沿岸の生態系は地球温暖化防止に大きく役割を果たしていることが明らかになったそうでございます。

国連環境計画で求めた調査報告書によりますと、沿岸の生態系は、毎年日本の年間排出量を上回る二酸化炭素を吸収すると言われております。沿岸には、強い太陽光が届く海洋植物群落がありまして、光合成は非常に盛んで、毎年世界全体のCO₂排出量の約6%に当たる16億5,000万トンのCO₂を吸収していると報告がなされております。また、遡上やマングローブ林は、漁業資源育成にとりましても重要な役割を持っていて、河川から流入する窒素や磷を吸収し、水質浄化にも貢献をしていると言われております。

そのような中、私は河川の水質浄化についてお尋ねをいたしたいと思っております。

武雄市には、国土交通省が直轄管理をする六角川、松浦川がありますが、定期的に水質検査が行われていると思っております。市内何カ所で行われているか。また、BOD、いわゆる生物化学的酸素要求量排出基準の国の数値をまずお尋ねさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、調査箇所ですが、六角川水系で12カ所、それから松浦川水系で4カ所、計の16カ所

行っております。これを年3回ずつの計測を行っているというところでございます。

それと、基準でございますが、基準にはA類型とD類型がございます。A類型が六角川の大日堰より上流部をA類型、そして、それから下流についてはD類型でございます。松浦川はすべてA類型ということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、A類型とD類型ということで説明がありました。そしてまた、検査の箇所が、松浦川4カ所、六角川12カ所、都市の下水路が5カ所あっておりますけど、今、A類型では2ppmですね、D類型は何ppmですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

D類型は、環境基準では8ppmとなっております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

きょう資料をいただきましたけれども、その前にいただいた資料がございます。

私はこの環境基準、要するに水質検査の基準は、またこの後にも質問しますけれども、年々水質がよくなっているかなというふうに思っておりました。そしたら、年3回検査をされておりますけれども、よかったときと悪かったとき、非常に差が激しいんですね。

私、ずっと昔、一般質問をしたときの資料を持っておりまして、富岡下水路を平成元年に検査をした資料がありました。平成元年10月に109.2ppm、そして、平成元年12月に77ppmというように物すごく高かったのが、ことしの21年8月には2.2ppmということで非常に下がっております。しかし、2.2ppmですけれども、21年4月には6.2ppmということで、非常にばらつきがあるんですね。

もう1つですけれども、高橋下水路につきまして、この資料は平成18年4月に22ppm、18年8月には63ppm、19年4月には6.1ppm、そしてまた、高かった月は21年1月に45ppm、21年4月には6.8ppm、そして、ことしの21年8月には16ppmと、非常に差があるんですけれども、この差についていかがだと思いますか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員にお答えする前に、ちょっとグラフを持ってきておりますので、グラフで説明させていただきたいと思います。(グラフを示す)

これが、武雄市内におけるAタイプの西川登の弓野のところで測ったやつと、松浦川の毘沙門橋のところで測ったやつでございます。これでいきますと、Aタイプというのは環境基準が、このラインが2 p p mですけども、2 p p mのところをぐっと下回って、平均して弓野のほうで1.1 p p m、それと松浦川水系の毘沙門のほうでは0.8 p p mということで、Aタイプの分では十分まだまだきれいだというところでございます。

それから、Dタイプですね。Dタイプは、六角川の大日堰よりも下流部分でございますが、六角川水系の下流部分で、これは上のほうが戸樋渡橋、そして下のほうが高橋橋、これは武雄川とか甘久川のほうに関連するところでございますが、戸樋渡橋のほうで、平均しまして3.47 p p m、それから高橋橋のほうで1.48 p p mというところで、ここは環境基準の8 p p mからいきますと、まだまだ十分今のところはきれいだという状況になっております。

それで、今、議員、下水路の話をされましたけど、下水路の分をもう1つ見せます。

これが下水路の分でございます。確かに、議員御指摘のとおり、でこぼこがございます。これはそのときの気象ですね、気象によって物すごく違うわけですね。雨が降っているときの測量と、それから全然もう雨が降らんで日照りが続いた、水が少ないときというところで、でこぼこがございますが、これを見ましても、平均いたしまして高橋下水路が10.8 p p m、それから矢洗下水路。矢洗下水路というのは川良のほうからおりてくる水路でございますが、6.9 p p mでございます。そして、蓬萊下水路。蓬萊下水路は下西山、あるいは新町、本町、松原、こういうところの雑排水が流れてくるわけですが、そこで8.4 p p mという平均値が出ております。それで、まだまだそんなに汚いということではございません。一応でこぼこはございますが、それはそのときの気象条件でも違うんじゃないかというふうに思っております。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

加えて、比較論で申し上げますと、私は大阪府の高槻市に出向していたときに、河川の浄化担当を当時の市長から仰せつかりました。そのときに、武雄については、実は、いろんなデータを当時の武雄市の職員の方からいただいたこともありますが、そのときの私どもの評価は非常にきれいだというのであります。これは、その当時から、婦人会のEM活動であるとか、あるいはさまざまな生活で余り雑排を流さないというような、本当に地に足のついた、婦人会を中心としたその活動がこういう数値にあらわれているということで、私は外にいたときからそのように評価をして、武雄市は何て下水路がきれいなんだろうというのが大方の評価であり、これはオールジャパンの河川の学会についても同じような見解であったと

いうことを申し上げたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

さっき、私、高橋下水路のことを言いましたけれども、この下水路についての基準というのはあるんですか。

そして、もう1つお尋ねですけれども、今はAランクで2ppm以内だと。Dランクでも8ppm以内だからクリアしているということですが、これが、もしそれをオーバーした場合は、何かペナルティーがあるのかなのか。そして、今言った高橋下水路、要するに雨水路と下水路とがありますね。都市下水路のときで5カ所についての基準は幾らなのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

都市下水路ということでの環境基準というのはございません。ただ、今の都市下水路というのは、武雄川に全部流れてくる六角川水系でございます。それでいけば、大日堰よりも上流じゃないということで、8ppmが環境基準でございます。

それで、ここに対する放流基準というのが別にまたあるわけですが、放流基準については20ppmでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

そしたら、下水路についても、一番悪いところで川良の雨水路が19ppmですから、ことはクリアしているということですね。（発言する者あり）はい、わかりました。

では、この水質の問題については、最後に。先ほど市長がおっしゃったとおり、やはり婦人会とか、それから公民館活動でEM菌によるEMだんごをつくって投入をされております。朝日につきましても、6月17日、8月2日、10月11日というふうに、ことしも3回ほどEMだんごを投入されておまして、確かに、水質もSSの透明度も、上流のほうは大変きれいになっています。しかし、やっぱり下流のほうに行きますと、どうしても井堰で水が長くたまっておりますから、透明度が確かに悪いというようなことで、しかし、環境基準にはちゃんと合格しているわけですから問題はないというふうに思うところです。しかし、朝日町は川が汚いということで、もう十四、五年前から朝日川でハンギー大会を川の中に入れてしておりましたけれども、要するに川の汚染がひどいということで、保護者の方から中止をせろということで中止をして、今現在、クリーン作戦がまだ継続をされているところです。しか

し、もうぼつぼつハンギー大会をしてもよくないかというような状態になっているようでございます。

では、次の問題に移りたいと思います。

次に、水質保全対策には汚水処理計画の取り組みがなされていると思います。つい最近の新聞、10月1日の新聞だったですけれども、汚水処理人口普及率というのが載っておりました。これでは武雄市は、これは2008年の末現在でございますけれども、普及率49.1%ということで、10市中で7位ということで新聞に記載をされております。これは、武雄市は県下で7位ということで、佐賀県は全国で38位ということでございます。そのようなことで、やはりこの水の浄化については、公共下水道なり、農村集落排水事業なり、戸別浄化槽なりで対応するのが一番の得策だろうというふうに思うところです。

そこで、まず公共下水道計画についてお尋ねをしたいと思います。

計画区域面積183ヘクタールがなされておりましたけれども、事業認可をいただいたのが32ヘクタールだろうと思います。そこで、平成22年までというふうになっていたと思いますけれども、この事業計画でそれは達成できるのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、22年度までで完成したいということで32ヘクタールを事業認可をとったわけですが、区画整理の関連で、どうしてもまだ永松地区、あるいは八並地区の分の区画道路が完成しておりませんので、そちらのほうが入り込まない状況でございます。それで今年度、事業認可区域をまた見直そうということで、今作業をやっているわけですが、32ヘクタールをまた、例えば、あと40ヘクタールとか50ヘクタールとかふやそうという計画でございます。それを来年度見直しまして、事業にまたその分を着手する予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今の説明で、事業認可32ヘクタールを見直して、そして、当然事業年度も見直すということですね。そしたら、佐賀新聞の報道によりますと、公共下水道については、0.5%の普及率だというふうになっておりますけれども、この普及率、それから幾らかは進んでおると思いますが、これは08年ですから、今現在の進捗状況はどのようになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

公共下水道の普及率につきましては、汚水処理人口という形では出しておりません。この

当時の、0.5%のときは20年度末でございますので、川端通りだけしか供用開始ができていなかったわけですね。今は本町のほうも供用開始できておりますので、それでいけば、川端のときは、公共升の設置基数が27基だったわけですね。今、利用できる公共升の設置基数、これが11月末現在では148ということで、約5倍にふえている状況でございます。そして、接続率としましては、まだ5分の1しか接続はあっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

そしたら、終末処理場の浄化センターについて、ちょっと質問したいと思います。

花島になりますかね、あそこには浄化センターができておりますけれども、今のところ1槽ですか、できております。区画面積183ヘクタール。それで、北方町の198ヘクタール、最終的には624.5ヘクタールぐらいの面積になると思いますけれども、その目標年度が大体平成40年ぐらいということで書いてあると思います。そこで、あの処理場で、要するに北方のこの198ヘクタールまで加えた総計の624ヘクタールをあそこに3基つくるようになるんですかね、5つですか。これをみんなあそこだけで賄えるということですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

花島地区に処理場をつくっておりますけど、今、処理槽としては600トンをつくっております。最終的に、あそこの今の計画では4,800トンでございます。ですから、600トンをつくっておりますね。ことし、あと600トンの分が設計に入っております。それで、来年からその600トンに入ると。その後は、1,200トンを3基つくります。だから、600、600、1,200、1,200、1,200と、こういう形での4,800トンでございます。

それで、この総トータル4,800トンは、183ヘクタールに対する処理場でございます。それで、排水処理基本計画では、武雄地区に公共下水道を約420ヘクタール、そして北方に約200ヘクタールという計画をしておりますが、この排水処理計画につきましても、見直しをしようというところで、今作業へ入っております。このままで約600ヘクタールを続けると、もう30年も40年もかかってしまうというところから、合併浄化槽をことしからスタートしたわけですが、合併浄化槽の市町村型に切りかえたいと私は今、計画の中では思っております。ですから、620ぐらいある公共下水道集合処理を、極力武雄の財政できる範囲にぎゅっと集合処理は縮めて、それ以外のところは市町村型に切りかえたほうが早く水洗化ができるんじゃないかと。早く水洗化ができることによって、公共水域の水質ももっと上がってくると。今でもきれいですが、もっと上がるというところでございます。そういうふう思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

はい、わかりました。要するに、公共下水道の区域を見直して、縮めて、そして戸別の合併処理浄化槽をふやしていこうという見直しということですね。はい、わかりました。

では、次に、農村集落排水事業について質問をいたします。

先ほどの佐賀新聞の記事ですけれども、農村集落排水事業につきましては、武雄市は人口比で20.9%ということになっているようです。今、この農村集落排水事業が行われたところをお尋ねしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

20.9%と先ほど議員言われたこの普及率につきましては、山内町と、それから武雄では矢筈地区、それから川内地区、そして北方の橋下地区、この8地区に対しての普及率が20.9%ということになっております。今後、排水処理基本計画でいきますと、農村集落排水事業はもうしないという計画でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この生活排水処理基本計画には、ほかのところも書いてありますね。結局、若木町の附防、皿宿、下村地区、鳴瀬、片白、西光寺、内田、大野原地区、日ノ出城、弓野地区というようなことを書いてありますが、これはやはりコストの面で余りかかると差がないから、要するに、戸別に切りかえようというようなことで、今の8地区だけで農業集落排水事業はこれで終わりということでもいいですね。

そしたら、現在、この8地区で農村集落排水事業が展開をされておりますけれども、その普及率といいますか、接続率をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ちょっと、今、議員が言われた附防とか西光寺、ほかの地区は、それは生活排水処理基本計画が20年3月に改定されております。それは、ですから20年3月以前の計画でございます。そのときは、計画処理区は39か40か、そのくらいあったと思います。それが、どうしてももう農集をしようたら、お金かかり過ぎて、とても武雄市の財政ではできんということから、8地区だけでもう農集には手をつけないということに変更しております。それが去年の3月

のことでございます。

それと、今、質問にございました農集の接続率でございますが、山内はすべて農集で処理するというので5地区つくっております。その5地区は今、接続率としましては68.1%、これは11月末現在でございます。これは、まだ大野が19年にできたばかりですので、大野のほうがまだ47%ぐらいでちょっと落ちていますので、全体的には68.1%と。それから、武雄でございますが、武雄が矢筈と川内と2地区でございます。これにつきましては、矢筈が98.2%、川内が75.4%、計の86.7%でございます。そして、北方の橋下地区でございますが、今現在60.5%。それで、農集地区すべてをトータルしまして、68.1%という接続率でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

はい、わかりました。

やはり、接続率の向上にひとつ努めていただきたいというふうに思います。ちゃんとした費用はかかっているわけですから、やはり接続をして、そして採算ベースに乗るような方向性で持っていただきたいと思いますというふうに思います。

次に、浄化槽設置について質問をいたします。

今年4月1日から施行になりました戸別浄化槽、それから、以前から設置をしていた個人設置型の浄化槽、この違いを少し説明をお願いしたいというふうに思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

個人設置型も市町村型も戸別の浄化槽で処理するという、機能と方法そのものは変わりございません。平成12年（189ページで訂正）からやってきた設置に対する補助、これは何しろ個人が浄化槽を設置した場合に補助をしましょうと。例えば、5人槽やったら41万円ぐらいでしたかね。それで、今回、ことしから始まった市町村型は、個人さんが設置するんじゃなくて、市が設置して、市が維持管理まで見ましょうという事業でございます。ですから、個人が設置したとに補助金を出すか、市がもう真っすぐ設置して使用料を取るか、この違いでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今年4月1日から戸別合併浄化槽は始まったわけですがけれども、今度の12月の補正予算で、個人設置型は非常に多かったとって60基から82基にふえたというようなことで、補正予算

が1,300万円ほど出ておりますけれども、要するに、戸別とこの個人設置型と両方やっているうちに、こっちのほうも結局個人設置のほうも多くこれだけ出たということですか。

そして、私は、戸別が4月から施行になりましたので、こちらのほうが減るんじゃないかと心配をしておりましたが、そういう傾向はないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

去年まで浄化槽設置に対して補助金をずっと出しておったわけですね。その場合、武雄市で大体年間150基ずつぐらいの進捗だったわけです。その150基ぐらいの進捗の中で、今度の排水処理計画の中の市町村型の区域と、集合処理の区域で割合を出したときに、大体60基ぐらいが集合処理区域内の浄化槽だなということで、当初60基見ておったわけですが、たまたま今回、今年度60基じゃなくて、その予想以上に集合処理区域内で浄化槽を設置する人が多かったというところから今回の補正に計上させていただいております。

そして、市町村型は120基、ことし予定しているわけですが、今、順調に設置して、大体予算消化はできるという見通しでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

戸別合併浄化槽、要するに今回の浄化槽事業の平面図というのをいただいておりますけれども、この斜線の部分は個人設置型であるわけですね。そいぎ、この設置型のところに、この戸別を設置するというわけにはいかないわけですか。もう、これでぴしっと区域を決めているからだめだということですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

その斜線をつけてある部分ですね、武雄地区で420ヘクタール、北方の200ヘクタール、この区域以外しか市町村型はできないわけです。それで、420ヘクタールと200ヘクタールのこの集合処理区域内では個人設置型で、個人が設置した浄化槽に対する補助しか今の制度上はできません。そういうことで、いつまでも個人が設置したのに補助する形を今から30年も40年も、今のままでいけばとらにやいかんということから、いつまでも水洗化が進まないということから、今、見直しをしている。その420ヘクタールとか200ヘクタールをぐっと縮めて、市町村型でやる区域に変えようというのが、今回見直している作業の主なところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

戸別合併浄化槽につきましては、今年は120基ですけれども、年間150基を20年間で3,000基ですか、こういうことで計画がなされておりますけれども、大体その見通しというのですか、まだ始まったばかりですからわかりませんが、どうなるかということ。

もう1つ、今、個人設置型を設置しておいて、それを寄附すると、戸別のほうに寄附をするという制度が設けられておりますけれども、このことについて、区域のこともあるし、ですから、そこら辺についてちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今まで、個人で設置して補助金をもらってある方がおられるわけですね。そういうところに、例えば、私は出身が大日ですけど、大日でそういうような人がおられると。大日は、今の制度は、今年度から市町村型をする区域になったわけですね。そしたら、市町村型で設置してもらった人、自分で設置して補助金をもらった人、ここで市町村型で設置した人は維持管理、市が見るわけですよ。こっちの自分で設置した人は、自分で維持管理、見ていかにかいかなと、こういう不公平が出ますので、そういう市町村型の区域の人で、自分で設置した人、自分で管理している人は寄附してもらえれば、市で維持管理しますよ。そして、維持管理して、市に寄附しんさぎ、維持管理します。だから、その後は使用料をちょうだいするという形で、市町村型と同等に変えますよ、どがんですかという形の今の寄附ですね、そういう形になっています。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

これは、ことし4月1日から施行になったわけですから、幾らかそういう寄附された方がありますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

寄附申し出た方はおられます。それで、現にその寄附を受けて、市が維持管理をしているという実績があります。ただ、今、ここでちょっと基数については持ち合わせておりませんので、何しろそういうふうにして寄附された方はもう10人以上、20人近くおられると私は思っています。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私、きょうの最初に水問題を質問しましたがけれども、これがもっと普及することによって、河川の水が非常にきれいになるのではないのかということで、関連した質問をさせていただいたわけです。

次に移りたいと思います。次は、住宅用の太陽光発電システムについてを質問させていただきます。

今現在、武雄市に住宅用の太陽光発電システムの設置状況がどうなのかというのを質問させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

武雄市内で今243件ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私がもらった資料には、武雄市内での設置件数436件、21年10月現在と書いてありますけれども、これ、私、環境課からいただいた資料ですけれども、間違いはないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

訂正いたします。436件で間違いございません。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この太陽光発電の補助システムで、6月の補正で市長、頑張ってください、この補助制度をしていただきました。そのようなことで、20万円を限度に400万円の予算をしていただいて、そして公募されたですけれども、非常に応募者が多かったというようなことで、また、今度の12月補正予算で1,015万円ですか、補正を提案されております。このことについて、私もこの20件の400万円ということで、本当に集まるかなと思っておりましたがけれども、非常に多かったということでございます。その状況はどのような状況だったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

状況につきましては、個人、あるいは業者の方、一部ちょっと団体の方がいらしておりますので、そういった意味ではさまざまな方に御応募をしていただいたという認識がございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この間の新聞にも載ってございましたけれども、この太陽光発電の住宅用の普及率は、佐賀県は全国でトップらしいです。それで、これはこれからまだ普及していくと思いますので、今度の補正だけではなくして、来年度もこの予算はぜひ計上していただいて、CO₂の削減に努めていただきたいというふうに思います。

そして、いろいろパンフレット等とかなんとか見ておりますけれども、新聞で、22年4月から太陽光サーチャージャー料というのを負担せにゃいかんというようなことを書いてあります。この太陽光発電を設置したら、11月からですか、電力会社が1キロワット当たり58円で買い取るということで、非常に話題になっております。このことについて、サーチャージャー料というのが、何かわかりますかね。（発言する者あり）

これは新聞ですけれども、このサーチャージャー料というのが、電力を1キロ当たり個人の家から58円で買うと。その買い取った金は、電力会社が取らんじゃなくて、要するに私たち電気を使用している人全部から取るということらしいです。ですから、今度は売る人はよかでしょう。私たち使用する人は、その人たちの負担を我々がせにゃいかんという格好になるわけですね。ですから、これからはこれはもっとふえると思います。

私、設置をした人に聞いてみましたがけれども、私の知り合いが設置したのは3.15キロを設置してありました。その3.15キロは、国の補助が1キロ7万円の補助ですから、22万500円。そして、エコキュート補助金といって、給湯器がエコの給湯器らしいです。それをつけたら、それが4万1,000円の補助があったと。それで、補助合計が26万1,000円だったと。大体1キロの機械をつけるのに100万円ほどかかるそうですね。ですから、今回、武雄の場合やったら、これにまた25万円まではいかんですけど、3キロですから15万円ちょっとですけれども、それぐらいかかりますから、非常に安価でできる。そして、58円で電気を買い取ってくれるということです。しかし、負担は皆さんにもかかるということですから、やはりこれからはつける人が非常に多くなるのじゃないかというふうに思います。ですから、来年度もこの補助をぜひ継続していただきたいということをお願いして、次の問題に移らせていただきます。

次、災害の問題について質問します。

ことしの7月25日から26日ですね、武雄市内も440ミリぐらいの雨に見舞われ、平成2年の水害を思い出したところですよ。六角川、松浦川につきましては、国の事業で年次的にでも

整備が行われているようでございます。

私は、今回の7月25日、26日の水害で、特に目の当たりにしたのは、これまでは水位が上がらなかつた場所で河川のはんらんがあつたということです。特に朝日町の甘久川、水位はこれまででは経験したことがないような早い時間で、被害も非常に多かつたところです。私も消防団生活40年近くしまして、あそこは私も毎年行つておりましたけれども、あのようによ急激に水位が上がつたのは初めてだつたわけですよ。

そこで、ああいう河川、そして水害等のときに——今回の水害につきましては、非常に短時間で急激に來たということで、河川に土砂が物すごく流れ込んでおります。そのようなことで、しゅんせつとか、大きい川についてはちゃんと管理道路もありますし、いいですけども、上流のほうに行つたら管理道路もない、人力でせにゃいかんというところがあるわけですよ。そのようなところで、そういうのはどのようになされておるか質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

河川のしゅんせつの件でございますが、市で管理している河川については市がするわけですよ、地元で——地元と言つたらおかしいですかね、地区内に流れている小さな河川ですよ、これにつきましては、沿線住民の方々にお願いしているというのが現状でございます。ただ、どうしてもしゅんせつとなれば、重機を使わにゃいかんような場合もございますので、そういう場合は市のほうで、予算の範囲内で順次しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、私、甘久川のことを言いましたけれども、ちょっとわかりづらいですけども、写真を持ってきました。（写真を示す）これが甘久川です。こちら辺が甘久の公民館です。こちらのほうにトライアルがあります。ここに井堰がありますけれども、井堰からここは市道ですよ。市道と井堰、この水面までは約2メートル弱あります。ここが水害のときには物すごくつかるところですよ。そして、この井堰の下は約3メートルぐらいの深さがあります。そして、上流のほうについては、もう2メートルぐらいしかずっとありません。この地区というのは、上流は赤穂山の堤が上流ですよ。ですから、あの地域というのは、新興住宅がずっと建ち並んで、それこそ物すごく住宅が建ち並んでいるところですよ。

私、農業委員会をお願いをして、農地を宅地に転用した書類をいただいてきました。武雄市全体で、19年、20年、21年で6万8,000平米の農地が宅地になっております。その中で、この甘久川に水が流れるその地域、いわゆる富岡の川良、そして甘久地区でございますけれ

ども、甘久地区につきましては、3年間で1万1,625平米、富岡地区が6,957平米ということで、甘久というのは物すごく宅地化しているわけですね。甘久地区の上流というのは、ほとんど段々の田んかのようになっておりますから、水を含む場所がございません。ですから、急激にもう河川に流れてしまって、今回大きな水害になったのがこの地区なんです。ですから、確かに宅地になって家ができて、人口がふえるのは大変結構なことでございますけれども、その前に、やはりこの河川の整備を先にせんというと、これからまだまだ富岡、川良地区も宅地ができると思いますので、いわゆるそこら辺の甘久川の上流のほうの整備は考えられないか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

甘久川の上流のお話は、議員からのお伺いをいたしました。私も実際、さきの夏の大水害のときは、吉川議員から電話があつて、高橋川に早く来てくれということがありまして、私は高橋川におりました。そして、議員から御指摘のあつたように、思いもしないスピードで、もうひざ上まで水が入っていったと。これは甘久川の上流だけでなく、例えば、高橋川、そこから淀姫神社のほうに急行しましたがけれども、そちらのほうでもさまざまなやっぱり問題、課題があります。ただ、我々として認識をしなきゃいけないのは、さきの大洪水が、じゃあ毎年起こるかということは、それはないと思っております。あくまでも、やっぱり平成2年以来の大洪水だったというふうに認識をしておりますので、大洪水に備えたあり方、それと限られた予算なので、毎年起こり得る災害のあり方を総合勘案して、武雄市全体でやはり優先順位をつける必要があるだろうと認識をしております。そういった意味から、甘久川の改修について、優先順位とほかの河川との比較において最終決定をしまいたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、私、改修をと言いましたけれども、ここに甘久の、要するに公民館前に井堰があります。この井堰というのは、富岡茶場に流す農業用水利があるわけですよ。ですから、この井堰というのは、これまでもう何十年、何百年も、結局水の、農業用水の分岐点というところで、これまでも全然改修がなされなかったという場所なんです。ですから、これを改修するとなれば、この小楠地区とか川良地区との農業用水の確保の問題が生じると思いますけれども、ぜひこれは双方寄り合っていて、そして一日も早くこの井堰の改修をお願いしたいというふうに思うところです。

次に移りたいと思います。次は橋梁、橋についてお尋ねをしたいと思います。

市内には国道、そして県道、市道とありますけれども、橋梁の検査をしたことがあるのか。また、橋というのは耐用年数がどれぐらいなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

まず、耐用年数ですが、橋梁の場合、目安を50年としております。それと橋の数も言われましたかね。（発言する者あり）これは橋の数といえば500ぐらいあるわけですね。ただ、橋長が15メートル以上の橋は88です。それ未満まで合わせますと500を超えると、530ちょっとあります。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この新聞ですけれども、佐賀市が検査をしたと、点検をしたということで新聞に載っておりましたけれども、やはり15メートル以上というふうに書いてあります。その小さな橋は余り問題になっていないようですけど、15メートル以上の橋については早急にということがあります。この15メートル以上の計画を策定したら、国からの補助が2分の1あるということを書いてありました。そのようなことで、武雄についてもそのような点検をされたことがありますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

本市の場合は、点検につきましては22年、23年、この2年間で点検する予定です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

22年、23年に点検をするということでございますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

それで、何で私、これを聞いたかという、私、ちょうどいろいろ水害のときに遭遇したんですけれども、平成5年の水害のときに、今現在の国道498号線の年玉橋が水に流されたんですよ。そういうことがあったもんですから、それまでは橋が本当に水害で流れるかというのは余り頭にもなかったわけなんですけれども、やはり平成5年のあの水害のときに橋が流れたのを目の当たりにして、そして今回、その佐賀市の橋の延命の点検ということが載っていたもんですから、こういう質問をしたわけです。ですから、ぜひ今回、22年、23年と点検をしていただいで、もし悪いところがあればぜひ、そして安心、安全のためにひとつ貢献をし

ていただきたいというふうに思います。

次に、公共施設の駐車場について質問をさせていただきます。

私は、特に学校、そして、公共施設の公民館の駐車場について質問をさせていただきたいと思えます。

武雄市内の小・中学校でいろいろ行事もあっておりますけれども、駐車場がどのように確保されているのか。大小言ったら失礼ですけれども、大体小学校、中学校で自動車の駐車場がどれぐらい確保されるのかお尋ねしたいと思えます。各行事のとき、学校については入学式とかと卒業式、運動会とかそのようなときに、十分とは言えないと思えますけれども、現在対応ができていますのか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お尋ねの件でありますけれども、事業内容によって若干違ってくだらうというふうに思えますけれども、今の車社会の中では、すべてパーフェクトということにはなかなか得ないだらうと、そういうふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

なぜ、私、これを質問したかという、実は、ことしの9月13日、朝日小学校と朝日の町民運動会を合同でしました。そのようなことで、ごらんとおり、朝日小学校のグラウンド、すばらしいグラウンドをつくっていただきまして、あれは1万平米以上ありますね。その割に駐車場がないというようなことで、非常に今回苦勞をしてきたところです。それで、私は、まちの交通安全協会もやっておりますので、非常に駐車場のことについては指摘をされておりましたので、そのときに1台1台チェックをしてみました。ところが、そのときに650台の車が学校周辺に集まりました。そして、民間の駐車場もお借りはしてございましたけれども、大体その駐車場におさまった数は350台ほど入ってございました。というのは、学校の駐車場、公民館、そして民間の方の土地を借りてということで350台ぐらいは収容できておりました。そのあとの300台が問題なんですね。国道498号線にずらりととめて、そして歩道が3メートルほどありますので、歩道にもとめて非常に問題になったところです。そして、そのときには交通指導員さんにも出動していただいて、駐車場の整理をしていただきましたけれども、もう遠くは朝日ダムのところまでとめてあり、非常に指導員さんから、「あがんとところに車ばとめさせて」ということで、物すごくおしかりを受けたところです。ですから、その行事のやり方もあると思えます。もう車では来てくれるなとかということもあると思えますけれども、この駐車場対策が朝日小学校近隣にどうかできないか。

そして、もう1つ。私がそのとき、1台1台数えて、650台来たというのは、10月18日に県民体育大会の相撲競技をしなくてははいけなかったわけですね。そのときに、車がどれぐらい収容できるかなということで1台1台数えたわけですが、やはりその10月18日の県の相撲競技大会にも350台ぐらいの車が来ました。そのときは、350台ぐらいだったですから、民間の駐車場もお借りをして、どうにかそのときは収容できましたけれども、これがやはり、今、学校のグラウンドを見ますと、毎晩、夜はナイターがついて夜遅くまで、そして土曜、日曜もグラウンドゴルフとか、いろいろな行事がっております。それで、もう駐車場に四苦八苦しておりますので、何かいい策はないかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、朝日小学校に限って言うと、駐車場はもうこれで必要十分だと思っております。とりもなおさず、確かに私も朝日町民の体育大会のときに元気よく走りましたけれども、あのときの六百数十台というのはありがたい御指摘をいただきましたが、ほとんど何か一家に1台じゃなくて、1人1台で見えられている。それと、やはりそれがもし半分になったら、300台だったら十分吸収できるわけですね。ですので、駐車場をいたずらにつくるのではなくして、もしそのスペースがあるとするならば、私は、例えばグラウンドゴルフの場所であるとか、あるいは公園であるとか、そういったことをするのが市民の福祉の維持向上につながるというふうに認識をしております。

そして、もとより、私も朝日の出身でありますし、いろんな地域回りをしているときに、日々のところで、私自身、今そういった苦情は聞いておりません。確かに年に1回の体育大会のときは、私はそういったソフトの対応で必要十分だと認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

確かに市長の言うように1人1台で来る人もおるし、5人乗ってくる人もいます。それは、やはり主催者側がそのようなお願いをしているわけです。そして、やはり朝日の区長さんあたりは、まちづくりの金でもいいからつくらばいかんとやなかかという話も出ております。ですから、確かに学校の行事ですから駐車場をどンドンどンドンつくれということではございませんけれども、やはりそれに携わる人の苦勞も知っていただきたい。そして、できることならば、要望をしたいというふうに思います。

では、次の問題に移ります。

私、市営住宅のことについて通告をしておりましたけれども、きのうの2番議員の質問で、答えは出ました。私が聞きたかったのは、ことしの3月議会だったと思いますけれども、老

朽化した市営住宅を改築できないかということで質問したところ、今年度中に計画を立てますということでしたから、要するにきのうの質問で答えはいただきましたので、それはおろささせていただきたいと思います。

そしたら、住宅問題であと1点だけお尋ねしたいと思います。

雇用促進住宅についてでございますけれども、県内に14施設ある中、これも3月議会でやったと思いますけれども、市長は5,400万円で機構から買い受けをするという答弁がありました。そのようなことで、その後の進捗状況がどのようになっているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当に厚生労働省はけしからんと思いますね。私が、これは山口良広議員の御質問だったと思うんですけども、これを受けて真摯に市は買い取るということを申し上げて、その数日もしないうちに、いや、やっぱりこの話はなかったことにしてくれということと言われて、もうどうなってんだろうと思いますですよ。人の住むところというのは、やはり一番我々が大切にしなければいけないこと、それを何と言えがいいんですかね、何か方針を後出しじゃんけんのように変えていくということについて、私は非常に不思議な感じを持っております。

そして、今、これも特定の名前だけ出して申しわけないですが、山口良広議員が地元におられますので、よく住んでおられる方々の気持ちとかというのを私に伝えていただきます。そういった中で、今のところ、私どもが聞いている話については、雇用促進住宅は従来どおり継続して、入居希望者を受け入れられておるという状況にありますので、早目早目にやっぱり——これは厚生労働省という機構になるかもしれません。しかし、これは住宅政策としては所管は厚生労働省でありますので、しっかりとした方針をやっぱり示してほしいなということは思っております。

いずれにしても、もし厚生労働省から——今、玉は厚生労働省にあるというふうに私は認識をしておりますので、玉が投げ返された時点で、そこにお住まいの皆さんたち、地域にとってベストな方法をとってまいりたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私も、やはり入居者から不安だということで相談を受けましたので、いや、しかし、武雄市が買うごとなつとるばいということをおっしゃっていただきましたけれども、福岡のほうに電話を入れてみました。そしたら、そこら辺については濁して、余りはっきり言わんのですよね。ただ、私が聞いたのは、22年1月1日付で、有田町には譲渡しますと。そして、入居停止をし

ているのが伊万里、多久の2施設で、伊万里、多久はもう解体をするんだとは言われましたけど、武雄については、今まだはっきりしておりませんというようなことで、はっきりしてもらわんと困りますよと私も言いました。入居者があるんですよと言いましたけれども、武雄市にはそういうふうな返事が来ているわけですね。（発言する者あり）はい、わかりました。要するに、私も福岡の事務所からは濁されました。

ということで、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員の今の質問の中で、まちづくり部長から修正の申し出がっておりますので、これを許可したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの答弁の中で、個人設置型浄化槽の事業を平成12年度からと言ったようでございます。平成4年度の間違いでございます。訂正します。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、21番吉原議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、10分程度休憩をいたします。

休	憩	16時14分
再	開	16時25分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次に、9番山口良広議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ました9番山口良広です。きょうも最後になりました。私なりに一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

今回、私が一般質問をするに当たり問題にしたかったのは、11月末、政府がデフレの兆候があると発表すると、すぐさま牛丼チェーン店が2割引セールをしたことです。その牛丼チェーン店がなぜ安くできたのか不思議でたまらなかったのです。デフレだから米が安く生産できたのか、デフレだから牛肉が安く生産できたのか、デフレだからネギが安く生産できたのか、それとも人件費が安く抑えられたのか、それと同時に、大型量販グループより86円の円高になると輸入農産物を中心にした円高還元セールをやるという始末、なぜ食料品を軽く見るのかと言いたい。その先には生産する農業者がいるんですよ。

それと同時に、1年もたつてでしょうか。中国の異物混入ギョーザ事件、アメリカ産牛肉の骨髓部位の混入から始まったアメリカ産牛肉の輸入禁止、工業用原料米の食糧米への流用事

件と、いろんな食料品の偽証問題が発生したものです。安い価格には何か問題があるから、少々高くても安心・安全な国産農産物を利用しようと言っていた消費者の声はどうなったのかと思うのは私だけでしょうか。

民主党を中心とした政権与党での事業仕分け作業部会の答申では、農林漁業関係はほとんどの事業がゼロまたは見直しと答申されてきました。マニフェストでは40%の自給率を50%に上げようとしております。我々農業者はどがんせろということでしょうか。ただ、働いて働いて、食料生産に励め、生活は農家への戸別所得補償で守るからというつもりなのか。私は農政に憤りを感じます。せめて武雄市内の農業だけでも、10年後、20年後の武雄市農業のビジョンを描き、今すぐできるものは今、将来、あつとき樋渡市長はいい決断をして行動したから武雄市の農業は安定していると言われるような農業政策をしてほしいのです。それと同時に、食の大事さ、農業の大事さを食育の観点から、その点も取り上げてみたいと思うのです。

そこで市長にお尋ねします。今の農業と食品業界の動きをどう見ておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは答弁すると10日ぐらいかかりますので、ちょっとかいつまんで申し上げますと、恐らく農業と食品業界というセットでお話をされましたけれども、ちょっと分けて申し上げますと、農業にとっては今まさに冬の時代だと思っています。それはとりもなおさず、デフレあるいはデフレに伴う消費量の減、そしてまた円高に触れる分は輸入品は安くなるといったことからすると、ますます円高デフレ基調というのが日本の農業にはパンチを与えてくるというふうに思っております。しかし、やはり私どもが思わなきやいけないのは、JAのある方がおっしゃっておりますけれども、ピンチのときに次の種をまこうと。冬の時代だからこそ、次に何をやろうという種をまこうということからすると、今、日本の農業、農政自体が非常に委縮している中で、私たちは次のことを果敢に考える必要があるだろうと。

1つは、武雄農政に限って申し上げますと、おかげさまでレモングラスを媒体としてさまざまな販路が今できつつあります。武雄がいろんなところに、私もトップセールスで行くと、レモングラスのほかは何があるねというのは必ず言われます。ですので、私たちは第2の京野菜を目指す必要があるというふうに思っています。それは畜産もそうですし、さまざまな果物もそうかもしれません。ですので、1つの点が次には面になるというような政策を打っていく必要があるだろう。このセットとして流通食品の工業があると思いますので、まず川上の農政をやっぱり我々はきちんと温かい気持ちを持ってやっていくと。それが必ず川中、川下につながっていくというふうに思っております。

終わりにしますけれども、ひとつぜひこれはお考えいただきたいのは、やはり今までの日本の農業でうまくいっているところは、この議会でも申し上げましたけれども、やはり川上から川下まできちんと流通もそうだし、例えば熊本県で肉牛をつくっておられる農家が、それは市場には非常に今安くなっていると。物すごく安い。そうなってくると、市場に出すとかえってマイナスになるので、例えば自分のグループでレストランを経営していると。そこに優先的に出して行って、またここの市場価格が上がると、そっちに出していくということをされています。そうなってくると、よそで買ってレストランをやるよりは、自分たち、あるいは自分たちの仲間で行うと。

これを1掛け2掛け3——私は1足す2足す3とと思っていましたけど、1掛け2掛け3で6次産業というそうですので、それが非常にうまくいっているということでもありますので、そこまでできていなくても農業生産者の方々は、今JAが非常に意識が高くて、消費地、例えば東京でいうと伊勢丹であるとか、NHKの代々木の広場であるとか、生産者も一緒に連れていってくれるんですね。あるいは一緒に行っている。ですので、消費者が何を求めているか、あるいは自分たちが最後までやることによって、きちんと適正な利潤を得るという構図が求められているのではないかなというふうに思っておりますので、そういう仕掛け、仕組みづくりということを考えていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私も今の市長の言葉ではありませんけど、生産だけの農業から販売までつながるような体系というものをぜひ武雄の農業振興としてつくってもらいたいということを訴えたいと思います。

その前に、お米の消費とライスセンター及びカントリーについてお聞きしたいと思っております。

お米の消費量は、50年前の昭和37年代ごろには年間118キログラムも食べられていました。それが現在、平成18年には61キログラムと半分に減ったのです。その間、農業地域では圃場整備がなされ、30アールのすばらしい田んぼができました。その中に、構造改善事業ということでライスセンターを中心とした米の共同調整作業ができたのです。その中にライスセンターというものが昭和48年ごろから始まり50年代前半にかけて、武雄市内には旧山内、北方まで含めると10カ所のライスセンターができました。この流れというものは県内も一緒です。県内にも圃場整備の後の共乾施設ということでライスセンターができました。その数は県内に、皆様に配りました表にありますように160カ所ほどできたのです。そして、それと同時に、その後、このライスセンターではその当時、もみを持ち込み、それをもみすりしながら玄米にして貯蔵するというのがライスセンターです。それと同時に、カントリーという

ことでもみ貯蔵の方式が始まりました。そういう中で農業振興が進み、現在の米麦の生産調整がなっているわけです。

このようにして米の貯蔵が始まったわけですが、そんな中でどうしてもライスセンターの施設が古くなりまして、これでいいのかなというふうなことを考えるわけです。現在の農政を考えますと、なかなか難しい事情でありますけど、米、麦、大豆はいろいろ農業政策が変わっていくと思いますが、国の農業政策としてある程度保護されていくのも米、麦、大豆です。

ここからが問題です。今の時期、施設の更新は苦しいかも知りません。でも、各施設でオペレーターを確保し、熟練技術者を短期間雇用し、確保していくのか。それができるのか。米も競争販売の時代になるとき、品質低下が予想される玄米貯蔵と、消費者が食するときに玄米にする品質本位のカントリーの貯蔵がいいのか、いろいろ検討し、私はぜひこのカントリーというものを大事にして改造する時期が来ているんじゃないかと思うわけですが、その点、いかがなものでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねのカントリーエレベーターの件でございますけれども、お手元にありますように、県内の中でまだ普及が十分でないと思います。それで、今ライスセンターが市内に10カ所ございます。これについては、もうほとんどが利用組合で運営をされておりまして、よその事例を見ますと、カントリーエレベーターの設置の経費については貯蔵の量によっても違いますが、相当経費もかかるということで、利用組合の負担もかなりあると思います。

そういうことで、今現在はライスセンターの耐用年数が35年ほどありますので、今から更新の時期に入ってくるということで、これについてはJAなり、あるいは利用組合等のほうから相談等があれば、これについては市としても協議に応じてやっていきたいということでございます。今現在はそういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

確かに今現在は米も安いし、今の農業新聞等を見ますと、麦の減反政策じゃありませんけど、補助事業も安くなるというふうな要素もあるわけです。そんな中で農家の意見をまとめていくというものは大変なことかと思いますが、ぜひどこかの時期では、共同施設というものは大事な米づくりの財産だと思います。これもぜひ検討——農協団体が運営主体となりますので、その意向が大事かと思いますが、そんな中で将来、あのときに検討して運動をして、5年後、10年後になるかわかりませんが、米麦農業イコール佐賀の農業だと思ってお

ります。そんなことを考えて、どこかの何かのときにでも話し合いの場が持たれて、一緒に検討していくのが武雄の農業を守ることじゃないかなと思っております。

次に、この議会でも大きく取り上げられていますレモングラスのことです。完全無農薬のオーガニック栽培を目玉として育てたレモングラスです。レモングラス栽培も行政や各大学、企業の試験、開発により、いろんな商品が開発されてまいりました。とりわけ、今度レモングラスの緑茶ブレンドのティーパック、紅茶のティーパックとして商品開発されたものは、今後のレモングラスの販売を考えた場合、大きな要素だと思います。それは、先の物産まつりでも証明されましたように、お客様の評価は大変大きいのです。これをてこにして、いろんなところで販売し、武雄市の特産となり、今中山間地の中で耕作放棄地の解消につながるんじゃないかと思うのが、このレモングラスだと思っています。完全無農薬、オーガニックといいますと、3年以上耕作がされていない農地であれば、いいものができるのです。ぜひ、そういう形で今後も取り組んでもらいたいと思います。

それと同時に、今いろんな販売ルートができております。どういうふうな販売ができているかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほどの江原議員に経費の関係については答弁しましたけれども、レモングラスにつきましては、商品の開発、販売、これにかかわる雇用が今30名から40名ほどいらっしゃいます。生産、それから加工にかかわる雇用が年間で30名から40名の雇用効果があるということでございまして、それともう1つは、相当の宣伝効果もあるということで（発言する者あり）

それでは、お尋ねの販路でございますが、今現在やっているのは、市長のほうからあっております東京の伊勢丹新宿店ですね。それから、東京の一流のスーパー、それから大阪でもスーパー芦屋店、それからグリーンコープ、それから名古屋のほうでもお茶のメーカーとの協議も今やっております。それから、福岡におきましては、今現在、先ほどありました新商品を福岡の大丸あるいは井筒屋、そこら辺に販売をしております。それから、あとはインターネット関係、それから地元の物産館等で今販売をやっているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これに加えて、これはレモングラスの特色だと思いますけれども、大学、あるいは研究機関から引きが強うございます。北のほうから言うと東京大学、大阪大学、京都大学、九州大学、熊本大学、九州歯科大学、さまざまところでこれを今度は産学連携で製品として出していきたい。あるいはレモングラスの効用について調べたいということで、事務方はまだ言

うな言うなど私に言いますので言いませんが、来年の2月ぐらいには驚くべき効果が大学から出されると思いますので、ぜひまた市民の皆さんたちも楽しみにしていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

私もこのレモングラスにかかわったわけですけど、議会で市長からレモングラスの話を聞いたときに、最初に本当に思ったのが、このレモングラスで農業振興が本当にでくっとうかということを使ったのです。それより、武雄市にはキュウリもチンゲンサイもイチゴも豚も牛も何でもあるよ、こいば一生懸命売ることが大事じゃなかろうかということをして市長と話したんです。そしたら、市長は言いました。あなたのところのキュウリは天皇賞までもらったもんね。しかし、これを東京の伊勢丹で売ってくれと幾ら言っても売ってくるいや。そいよいか、オンリーワンである武雄に、日本に一つしかないレモングラスの産地をつくって、それを新宿伊勢丹で売ったら、今先ほどの話じゃありませんけど、ほかにはなかねて言われたときに、キュウリであり、今がしゅんのイチゴ、牛肉であり、豚肉を売りや行こうと、それが一番遠回りのごたつとが早かばいて。そいがために一緒にやろうさと言われたのが、このレモングラスです。

私はその声になるほどなあと。私もいろんな形で販売に一生懸命やってきました。100円売りをしてみたり、いろんな直売場で売ってみたり、店頭での販売に行ったりと。しかし、そのときだけで、あとの継続性ありません。そう考えたときに、今の市長のレモングラスという日本に1つしかないオンリーワンの商品からほかの農産物を売ろうという考えに感動したのです。ぜひ、この道を突き進めてもらいたいと思います。

そこで、きょうは、今キュウリ部会がしていますエコキュウリを持ってまいりました。

（パネルを示す）先ほどの話じゃありませんけど、今これが佐賀みどり部会のキュウリです。エコ、すなわち地球に優しいキュウリを我々は生産しているんですということです。これがエコヒーターとしてエアコンの大きいものです。この電気をつくった熱量を風で送り、それで部屋を循環させて湿度を減らしながらエコ栽培をするという方法です。こういうふうな販売というものは農協を中心にして、今のしゅんであるイチゴ、チンゲンサイ、牛、豚、いろんなものがいろんな方法で販売されております。

今、日本の園芸産物として一番強いものは何かといいますと、宮崎県のマンゴーです。東国原知事がマンゴーはうまか、地鶏はうまかとトップセールスをやって、今一番どこでも宮崎県を中心にして、太良町でもいろんなところでマンゴーがつくられるようになって、果実の王様となっております。その点、この力量というものは武雄市長にもあると思います。今からは、ぜひJAと一緒にあってトップセールスとして、いろんな武雄の農産物をレモン

グラスがつくった販売網に乗せてやってもらいたいと思います。その点、いかがなものでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにそのとおりだと思います。東国原知事に比べられると、ちょっと僕もどきどきしますけれども、実はちょうど2年ちょっと前に古川康知事とJAの幹部の皆さんと私と唐津市長とで台北の太平洋そごうに、その当時、J-PON、ミカンのトップセールスに参りました。そのとき、非常に知事には気の毒なんですけど、全く売れませんでした。売れた売れたて言いよんさったばってん、実は余り売れとらんわけですね。それはよくある話ですけれども、売れとらん。

それで、ああ、やっぱりだめかなと思えば、そういう思いで、久しぶりに11月の頭に台北にまた参りました。同じところですよ。そしたら、もう自分の目の前で信じられないことが起きていました。日本のリンゴ、ナシ、いろいろ果物を置いたわけですね。一番売れよったとは、佐賀のミカンです。本当に3個入って、日本円で換算して1,000円です。なしこれを買うですかと聞いたですもんね。そいぎ、甘いと。それと皮が薄いのでむきやすいということと、それとびっくりしたのは、知事が来たことを覚えとんさっわけですね。消費者の何人かが、あのとき知事が、トップが来たですもんね。トップセールスというのはこういうことかと、そのときに思いました。

そして、私がJAの皆さん、そして古川知事に見習わなきゃいけないのは、その当時、知事は確かに売り子さんもしよんさったですけど、すぐバイヤーの人たちに、ば一って話に行きんさったもんね。ですので、2年とも言われるかもしれませんが、2年たって、やっぱりミカンの実が成熟するように、台北でも佐賀ミカン、もうJ-PONは今使えませんが、佐賀ミカンというのがかなり浸透しています。私はそういう姿勢を見習いたいというふうに思っています。JAの皆さんとともに、これは県の流通課も絡みますけれども、国外においてトップセールスの重要性、そして、もう最後にしますけど、知事のごたんがよかった。日本で一番、世界で一番の佐賀ミカンです、J-PONです、ですのでJをつけましたと。大丈夫かなと思って聞いておりましたけど、本当にそれが実現になったということで、これこそ首長力だと思いましたが、ぜひそういった意味で農業生産者の皆さんたちは、私を、あるいは古川知事を活用していただく。それですべてとは思いませんけど、それが農業振興につながっていくというふうに私は理解をしております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひよろしく申し上げます。それと同時に、私は販売網をどうか武雄の農産物や特産物を一緒にしたような形で、オール武雄の農産物を含む物産販売の組織化というものが大事かと思うわけです。そして、いろいろなものが武雄の特産物としていろんなところに流通ができれば、武雄市は今、元気なまち、元気な武雄、そしておいしいものが、いいものがあると言われるような武雄市になってもらいたいのです。

そこで質問です。武雄市内の特産物の販売促進を進める販売促進の課というものをつくって、どがんないとして売りまくるばいというふうな組織というものをつくることはできないかなということをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今現在、武雄の特産品、特に農産物、それからお菓子とか、いろいろなものがありますけれども、今現在の営業部の中で、観光課、レモングラス課、いのしし課、それから農林商工課ありますが、今現在東京とか大阪とか福岡、いろんなところに売りに行っております。そういうことで、そこら辺は何かもう少しまくできて、売り上げの向上、あるいは新たな特産品の開発とか、市内にはもっとほかにあると思いますので、そこら辺が何かもう少しできないかということで、部内の中では検討を今やっております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄には、佐賀のがばいばあちゃんとレモングラスだけではありません。さまざまな特産品があります。それを踏まえて、先ほど部長から答弁がありましたように、ちょっと組織機構を来年の春にもう少し見直したいというふうに思っております。そういった意味で、仮称になりますけれども、営業部の中に特産品課をつくりたい。これはレモングラス課を今度廃止いたしますので、そういう意味で特産品課に集約をする。そこに今まで御指摘のありました畜産品でありますとか、エコキュウリでありますとか、イチゴでありますとか、そういったことに磨きをかけてブランド力を増して、そこから発信をするということで、少なくとも市政、行政から見たときに、レモングラス課が第1段階だったとすると、次のホップ・ステップのステップの段階に来たと。非常に恵まれた段階に来ていると思いますので、そういった意味で、特にこれは農業生産者の方々だと思いますけれども、一生懸命下支えをして、バックアップをしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますが、本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

9 番山口良広議員

○9 番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、農業振興イコール農業所得の増大だと思います。所得の増大は販売のほかにありません。それを大事にして農業振興をしてもらいたいと思います。

そしてもう1つ、農産物販売ということで、ちっちゃな取り組みですけど、今、朝日の公民館では高齢農業者の元気づくりということで無人販売が行われています。85歳のおばあちゃんが朝8時に老人カーに大根を3本乗せて、えっくらえっくら持ってきて並べております。また、しゅんのネギ、春菊を、いろんなものを持ってこられております。最初、こんなところでしてよかとやろうかにゃというふうな考えを持ったわけですけど、やってみると、いろんな会話ができます。どがんすんないば虫の来んとねて。そいないば、いっちょずつ掘るしかあもんやとって取ってみたり、いや、もみ殻を敷けばナメクジが痛しゃ来んとよとか、そんな話が、現実的ではないようなお話をしながら、農産物がつくられています。

最初にできるときは、今まで武雄市場があったのがやまったて。楽しみでつくりよった野菜づくりがされんごとなつたばいて。こいばどがんないとんせんないば、もううちの千菜野菜は大半が腐れてしまうものうという声を館長が聞いたのがきっかけです。それが今、地域のいろんな農業の高齢者の元気につながっております。医療で元気になることも大事でしょう。しかし、朝まず大根を引いて洗って直売場まで持っていかんないば、病院も行かれんものうと言ひよんさつうちに病院行きは忘れてしまいよらす。これが健康の源だと思います。こういうふうな朝日の取り組みについて、社会教育に関連するかと思いますけど、教育長はどういうふうにとられていますか。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変すばらしいことだと思って、公民館ブログを見せていただいております。子育ても、まず千菜畑から始まるかなと思うんですが、やっぱり最後、千菜畑ということの大事さというのも改めて感じたところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9 番山口良広議員

○9 番（山口良広君）〔登壇〕

私は地域で前のように大きく、日本のいろんなところに農産物を販売するのも農業振興、また、ちっちゃなところで地域内流通を考えて販売するのも農業振興だと思います。そんな中から、いろんな新しい農産物ができ、触れ合いができ、冒頭言いましたように農業を、食の安全を知る食育につながるんじゃないかなと思っています。ぜひそういうふうな形で販売、農業振興ができることを期待しております。

次に、食育政策についてです。食育イコール農業、先ほど言いましたように、外国から買えば、安く販売すればお客はつく、それも商売かも知れません。しかし、武雄でできたものを、地元でできたものを少々高くても使ってもらいたい、そして安心・安全なものがここにあるんだよということが食育ではないかと思っています。

そんなときに、来年6月には佐賀県食育大会というものが佐賀のほうで開催されます。その内容と、武雄市としての取り組みについて、どんなものがあるかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えします。（図を示す）

来年の6月12日から13日までの2日間、佐賀県で食育推進全国大会が開催されます。内容でございますけれども、ステージイベントとか講演会、パネルディスカッション、展示コーナーとして、食の文化など6テーマが設定されております。また、九州物産展、市町村コーナーなどが設置されます。

全国大会での武雄市の取り組みといたしましては、体験コーナー、武雄焼の絵つけ体験や、おいしいレモングラスの入れ方講座などを予定しております。九州物産展ではレモングラス、イノシシの肉を販売するようにいたしております。また、全国大会に先立ちまして、武雄市ではイベントとして武雄の食育祭りを22年の2月13日に開催する予定にいたしておるところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

武雄市での食育大会とは別に、ことしの食育への取り組みをお尋ねしたいと思いますけど、どういうふうになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

武雄市の食育の取り組みでございますけれども、平成20年の3月に武雄市食育推進計画をつくっております。この中心となる五感を使った食の体験を進めているところでございます。これにつきましては、ライフステージに合った食育講話や調理実習を行い、食の正しい知識の普及に努めております。就学前の子どもを対象にキッズキッチンを実施、就学前のお母さんを対象に子育て応援クッキング等も開催しております。出前講座として、栄養士が学校へ出向き、食育講座を実施しております。また、若者を対象とした食育講座をことしは――こ

れは出会いキッチンでございますけれども、6月27日に開催したところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今、武雄市政の食育の取り組みをお聞きしました。その中で、ぜひ子どもたちを対象にしたいろんな体験、交流というものが大事じゃないかと思えます。

そんな中で、今、農林水産省、文部科学省、総務省が連携して行っている子ども農山漁村交流プロジェクトというものがあるわけです。これは全国の小学5年生を対象に、約1週間、農家や林業家、漁業のおうちに民泊し、農林漁業のいろんな体験をしながら、第1次産業でのかかわりを知ってもらいながら、自宅では味わえない体験をすることにより、自然との触れ合い、食育というものがプロジェクトとして行われています。

これに対してどんなものか具体的にあればお聞きしたいし、また、ぜひ武雄市内の子どもたちにも体験させてもいいんじゃないかなと思うわけですけど、教育長、どう思われるかお尋ねしたいと思います

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

御存じのとおり、各学校でさまざまな農業体験が行われております。田んぼの学校であったり、それでもちをつくって、6年生の卒業を祝うとか、あるいは地元の方が通りすがりに学校園に寄っていただいて、野菜の成長を見てもらったりとか、あるいはかかしづくりも図工とつなげてやるとか、米のことで研究発表までつなげるとか、あるいは感謝する催しとか、箱苗づくりから泥んこ体験とか、野菜、花、いろんな取り組みを学校でいたしております。また先ほどありましたように、食育課でも体験的な活動を取り入れてありますし、公民館の事業、あるいは放課後子ども教室等々で子どもたち、さまざまな体験活動を行っている。これは非常にありがたく思っておりますし、できる武雄市のよさというのを感じるわけでございます。

その体験を通して、つまり何を学ぶかということになろうかというふうに思うわけです。先ほど言いましたように、学習そのものと結んで、家庭科でも、それから給食とも図工ともというような形で総合的に研究されたのが、この前御紹介しました橘小学校の給食を中心とした研究だったわけですが、食はそういう広がりができるというすばらしさがあると思います。

それから、千歯こきで脱穀したという古民家もありましたけれども、人間の先人の知恵とか、それから逆に科学技術のすばらしさとか、あるいは危うさとか、あるいは上級生、下級生の交流、それから担任以外の先生、地域の方々との交流面のすばらしさ、何よりも感謝の

心が育つというようなところで、体験活動が非常に大事だと。しかも、これは学校教育法であれ、学習指導要領であれ、自然体験をふんだんに取り入れて下さいということでありまして、ますます考えていかなければいけないことだというふうに思っております。

ただ、ただいまの御質問にありました農山漁村におけるふるさと生活体験というのは、事業仕分けでは国で行う必要はないという判断がなされております。これはこれでしかない——例えば1週間でしたがいいかという、やっぱり農業体験は場合によっては長い目で見たほうが意味があるという面も確かにあったりするわけでありまして、それから、宿泊でということが同学年がいいのか、異学年のほうがいいのか、さまざまな課題を考えましたときに、体験的な活動は大事、そして、それを何もかんもは取り入れられませんので、それをコーディネートして調整していく、そういうことは非常に大事かなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、橘の先生のことじゃありませんけど、いろんなところで体験学習というものがプログラムされております。ぜひ子どもたちに土のぬくもりを知って、生命の不思議さというものを学んでもらえばありがたいと思っております。

そんな中で、現在、武雄市では中学2年生を対象にした職場体験があるわけです。私のところにも、スイートピーの花、またレモングラスと、いろんなものがありますので、毎年10名ほどの方を引き受けよるわけですが、その間の子どもたちの顔を見ますと生き生きしております。そして、うちにおられるおばさんたちとおしゃべりをしながらいろんなことをして、たまにはふざけて、合い中のお茶受けのおまんじゅう、漬物をほおぼりながら楽しんでやっております。

ぜひ、そんな職場体験の中に農業体験というものが、中学2年生の中にどれぐらいおられるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

キャリアスタートウィークということで職業体験学習、これはいろんな企業、事業所と約230カ所ほどでしていただいております、この場をかりまして厚くお礼を申し上げたいと思います。その中で、農業体験学習ということで19年度が10名、20年度が20名、今年度が14名の子どもたちが体験学習をさせていただいております。そのほかにも受け入れていいですよという声をいただいております、非常にありがたく思っているところでございます。主体的に進路を選択する力とか態度とか、そういうことを特に育てていきたいと思っております。

すし、特に農業体験では今お話にありましたように、命をいただくこと、それから地域に感謝する気持ち、地域を愛する気持ち、このあたりが生徒の体験後の作文等にも見えるわけでありまして、非常にありがたく思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、よろしくお願いします。

次に、体験農業ということで、くしくも市長は京野菜の話をされました。私も11月に滋賀県の近江日野というところに京野菜の体験農業があるよということを聞きましたので行きました。これがそのときの資料です。（資料を示す）行ってみると、ちょっと僕の口から言っただけですけど、がんことやというふうな大根葉を畑から引いてきて、それを水洗いをして、包丁でことことことことと切って、それを塩をまぜて調味料を入れて浅漬けをつくるというふうな体験です。僕のような農業者から見れば、がんことかなと思ったんですけど、都会の京都や大阪や滋賀県ですので、名古屋からもちょうどいい距離ですので、結構お客が来るんですよ。この畑に入って大根を引いてするのが楽しかたですって言われるわけです。こんな体験というものを、私もぜひ、これならば高菜の種まいて、それがちょっと伸びたときに収穫させて、そういうふうな形をする。2時間か3時間の作業かもわかりません。しかし、都会の人には珍しく新鮮に見えるのが体験農業です。

ぜひ、そういうふうな形ですので、武雄市でも考えられればいろんな体験というものができんじゃないかと思うわけですけど、ぜひこれも今から滞在型の観光客の誘致として考えられないかとお聞きしたいです。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

私も全く同感であります。ぜひ山口良広議員を先頭に、そういった体験の観光プログラムをしていただければ、それをモデルケースにいただければ、我々としても非常にうれしく思います。

例えば、この体験ツアーは山内町が一步も二歩も三歩も進んでおります。この前、TVQの「きらり九州」にも出ておりましたけれども、山内町の長井さんのお父さんが一念発起をして、自分で山を開いて石焼のピザ、あるいは焼き芋とかをされていると。そこで教育にも取り組んでおられると。非常に私自身感銘を受けました。これ以外にも、みそづくり、焼き物体験などのやまうちまるごと体験ツアーであるとか、それ以外には観光協会と関連事業ではレモンガラスの収穫体験やぼっくりづくりの体験であるとか、さまざま行われております。

武雄市はさまざまな文化の、あるいは伝統、歴史の財産がありますので、これを観光に体験ということを入れて、特に子どもたちに、ぜひ外から味わってほしいなというふうに思っております。

重ねて申し上げますけれども、やっぱり山口良広議員はぴったりと思います。体験するときにも、にこにこしていただいて、ぜひそういった意味でのモデルケースになっていただくことを祈念申し上げます、答弁にかえさせていただきます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

こういうふうな体験というものは私だけではしれた力しかありませんので、農協や普及センター等と連携しながら、農家の体験ということの中で引き受けた団体、また個人は、それだけの身入りが入れば農家所得にもつながると思いますので、ぜひそういうふうなことを検討されて、その中心になって頑張っていくこともできるんじゃないかと思っています。

もう1つ、滋賀県の近江日野や長浜市を視察体験したのですが、そこでは交通、宿泊、先ほどの体験、研修、お土産までをセットメニューとされた、旅行会社と提携されていたセットメニューがありました。そんなのを考えますと、今、武雄市では議会研修などいろんな視察が見られます。それをうまく取り込み、セットになり、旅行会社と組めば、市内への宿泊客もふえ、観光資源にもなるんじゃないかと思うわけです。この点も観光振興として考えられないか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

今現在、武雄市については非常に知名度が上がりまして、議会が済めば北海道から九州、いろんなところから視察——特にイノシシ、あるいはレモングラス関係で課長は自分の仕事ができないような感じで今対応しております。そういうことで、今現在とはとにかく視察に来られる方はとにかくレモングラスとか、あるいはイノシシを買ってもらうようお願いをしていますが、先ほどは有料の関係でございますが、これについてはできれば受け皿を組織化して、そして、そのシステムをつくってほしいんじゃないかということで、例えば、観光協会を中心にした組織とか、そういうのをよそでやっておりますので、そこら辺を参考にしながら、今後検討はする必要があるというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、そういうふうな観光協会などの団体と手を組んだ形になれば、もっと武雄がPRできるんじゃないかと思います。

次に、情報の集中管理と発信についてです。

これは今、元気な武雄ということで、武雄は全国から注目を受けています。取材や報道がなされ、テレビやラジオでも放送されています。それと同時に、市内ではいろんな行事が開催されています。武雄市の物産市が全国のデパートやイベント会場で開催されています。武雄でもスポーツ大会が開催されたり、文化、陶芸などのイベントが全国大会や九州大会として開催されています。それらの情報を私たち市民は一部知ることもありますけど、私は市長物語などのブログで、ああ、こんなものがあってたんだなというふうな過去形の中で知るわけです。それをぜひ一元化した管理をされて、事前に知ることができれば、我々市民も時間があるときにはそこに参加したり、また全国の知り合いに、地域であっている行事には、こがんと武雄んとありよるけんが見や行かんねというふうな、いろんな情報発信もできるんじゃないかと思います。

その点も含めて、これらのイベント、スポーツ大会、物産市等の情報の集中管理はできないかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この話は以前、上田議員の御質問でお答えいたしたと思うんですけど、その必要性は感じています。丸ごとカレンダーにしてホームページに載せるということは、今の技術がかなりそれに追いついてきましたので、できるかなというふうに思っておりますので、ホームページにそういった丸ごとカレンダーというのを載せたいと思います。

その上で、この前の物産まつりでいろんな話を聞いたんですけど、福岡の方が非常に多かったんですね。あるいは佐賀市の方が多かった。何で知ったとですかと聞いたら、いや、西日本新聞の九州面に載っていましたと。あるいはNHKの九州版か、あそこで朝出ていましたということで、やはりメディアの力ですね。FBSとかさまざまところで私も生でも出ましたので、それをもとにしてたくさんの方がお見えになったということもありますので、メディアの対策はきっちりやっていく必要があるだろうと思っています。これはただ載せていただけですので、それももう首長力だと思います。そういう意味でトップセールスを重ねながら、メディアにいかにか露出をするか、いかにか載せていただくかということ——市政もいろいろ重要事項ありますけれども、実は今までの意味、それはちょっと軽視をしまして、それを踏まえてまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

そういう意味で、今、元気な武雄というものがいろんなところで発信されています。これをもっと直前に時間があるときに、それらの情報が理解できれば、たくさんの方がこの前の物産まつりのように観えると思います。そういうふうにして、元気な武雄をつくっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、武雄市の人口増加対策について行きます。

今、世の中、男女の出会いがありそうでなく、うちの息子に嫁さんを紹介してくれんねとよく聞くわけです。現状はどうなのか。また武雄市として男女の出会いの対策はとられているのかお尋ねしたい。対策がとられているならば、その成果はどうなのかまで含めてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは近隣市町と比べても、武雄市は本当にこれをよくやっていると思います。市役所だけじゃなくて、民間の皆さんたちもよくやっただいていると思います。

今ちょっと具体的に申し上げますと、ことしの10月に定住特区で人口問題を考える座談会を開催しました。ことしの6月に、ネーミングはうちの食育課の職員が考えてくれたんですけど、七夕企画「出会い・キッチン」を文化会館で開催をしました。20代から40代までの独身者を対象に参加者を募集し、32名の参加がありました。男女が一緒に料理をつくり、食べて、交流会を行って、アンケート結果でも、全員がよかったと好評でございました。

私が管理者を努めます杵藤広域圏の組合でも、20代から40代の独身男女に出会いの場を提供するドリームキャッチ12を開催しております。私も知人がおりますけど、毎回約2割から4割のカップルが誕生しているようであります。ということで、さまざまな機会をとらえてやっておりますし、こういった目立つもの以外でも、例えば、こういう願いがあると。私にも男性からも女性からもいっぱい来ておるわけですね。その場をつくる、引き合わせるというのも、私の重要な仕事かなとも思っております。力は足りませんが、重要な仕事だと思っておりますので、あらゆる機会ですういった場をつくっていかねばいけないなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今いろんなところで対策がとられているということをお聞きしたわけです。私も以前、杵藤広域圏で行われていましたドリームキャッチ12ということで、そこに組織があり、かかわ

っていたわけです。どうしてもいろんなイベントをするわけですが、年に1回や2回開催しただけでは、どうしても縁というものができそうで、なかなかあと一歩というものができないのがこの御縁です。なかなか難しいところです。ぜひ私はこういうふうな出会いのイベントを主催すると同時に、縁づくりというものはその道に通じたおじさん、お婆さんという、俗に言うしゃーびゃーお婆ちゃん、おんちゃんというものが、どうしても必要なわけです。その方の力とイベントがセットになれば、いい出会いの場ができ、その後のフォローができるんじゃないかと思うわけです。

その点の組織づくりについては、私は必要と思いますけど、その点どう考えられるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは全く同感であります。今、しゃーびゃーお婆ちゃんておっしゃっていましたが、そのしゃーびゃーお婆ちゃん、おじちゃんたちが今なかなか肩身が狭いということも聞きます。例えば、10年前、20年前に比べると、もう少し日が当たったとけにゃあということもよく聞きますので、どういう組織化になるかはまだ今よくわかりませんが、これはしっかり考える必要があると思っておりますので、この方針については、早ければ来年の春ぐらいに出していきたいというふうに思います。しっかり意見を聞きながら、私もそういった民の力、特にこれは私では無理です。御高齢で人生経験が豊富で仲人をされている方であるとか、さまざまな御苦勞をされた方とか、引き合わせた方の力をぜひかりていきたいと、このように考えておりますので、このケーブルテレビをごらんになられている方も、ぜひまたお声がけをしていただければありがたいと思います。システムについてはきちんと考えて、世に問うていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

ぜひ、いろんな民間の企業さんの場所やら、いろんな提供を受けながら、そういうふうな組織をつくって武雄市では新しいカップルができて、子どもたちがたくさんふえたよと、それで広域圏も充実して、子どもたちが安心して育つまち武雄があるよというふうになるように、ここにおられる議員さんというものはその点の達人ばかりおられています。皆さんと一緒にそういうふうな出会いの場をつくっていききたいと思います。

最後になりましたが、市道高橋沖永線の一方通行解除について。

この道路は、規制された40年前とは道路事情が大きく変わり、今は南部のバイパスとJ R

踏切を渡り県道に通じる抜け道として、道路交通法を無視した車両の通行が多く見かけられます。それを見かねて橋、朝日地区の区長会では現状をかんがみ、一方通行の解除を申請してはどうかとなり、それが申請されていると聞き及んでいます。その点、市としても長崎新幹線事業の中で、肥前山口－武雄の複線化も大事な事業となりそうです。そのときは、踏切の安全進行を考えたら、なるだけ高架事業でできることも大事、ぜひ高架事業ができれば、いろんな踏切の問題が解決します。しかし、そこまで行かなくても、この事業に関連しながら踏切改良等の運動もぜひしていくべきじゃないかと思えますけど、その点、市道改良等含めましてお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

御指摘の市道につきましては、昭和62年の現在の国道34号線、当時、武雄バイパスと言っていましたけれども、その開通した折に、地元のほうから要望がございまして、公安委員会のほうで決定をされて現在に至っているというふう聞いております。

そういうことで、一方通行等の指定とか解除、こういう交通規制に関しましては公安委員会が所管でございます。これを解除するとなりますと、また交通の流れ等も変わりますので、関係する南上滝、それから沖永等で協議をいただいて、市のほうに要望書を上げていただきますと、それを我々のほうでまた公安委員会のほうへ要望書として提出をして協議を進めていきたいというふうに思いますので、そのような手続でよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

御指摘の高橋沖永線については、JRの踏切があそこがございます。JR協議がございまして、とてもJRの踏切幅というのは困難でございますので、今のところ計画はございません。

○議長（杉原豊喜君）

9番山口良広議員

○9番（山口良広君）〔登壇〕

今すぐは無理かもわかりませんが、長崎新幹線の複線、肥前山口－武雄間の複線化事業との関連の中で、ぜひバイパスと県道とのスムーズな通行により地域交流が増しますように、あの一帯が発展することを期待したいと思います。

これを持ちまして、私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で9番山口良広議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 17時35分